

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕 (経営者)	・中東情勢を要因とした原油価格の高騰や円安などの影響により、海外便の燃油サーチャージの値上げが始まっていることから、海外旅行を予定していた客が国内旅行にシフトし、国内客が増加することが見込まれる。また、円安の影響により、インバウンドの購入意欲も前年と比べて高まっている。来客数は多少減っているものの、今後の売上は少しずつ回復することになる。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕 (従業員)	・観光の需要期に向けて、予約が順調に伸びていることから、今後の景気は良くなると期待している。
	○	商店街（代表者）	・中東情勢が落ち着くことで、景気の良い状態に回復することを期待している。
	○	商店街（代表者）	・今後、当地において、様々なイベントの開催が予定されていることから、まずまずの人出となることを期待している。
	○	百貨店（売場主任）	・前年は、7月に日本で大地震が起きるといふ風評により、香港を中心にインバウンドによる売上が激減したことから、今年はその反動でインバウンドの売上が伸びることになる。
	○	家電量販店（経営者）	・エアコン、LED照明の販売量が前年並みで推移していることから、今後にも期待が持てる。ただし、原材料価格の高騰と石油化学製品の供給不足が、今後に向けての不安材料となっている。
	○	家電量販店（店員）	・新たな省エネ基準の影響でエアコンの販売台数が伸びていることから、これから夏本番に向けて、販売台数が増えると期待している。ただし、部材の高騰などで、利益が前年と余り変わっていないことは気掛かりである。
	○	旅行代理店（従業員）	・今後については、国際会議の開催が予定されていることから、国内外から多くの参加者が当地を訪れることになる。それに伴って、宿泊、飲食、交通、観光などで消費が活発になることを期待している。関連産業への波及効果も期待できるため、地域全体の景気は上向くと期待している。
	○	タクシー運転手	・観光シーズンに入り、旅行客が増加することで、タクシーの利用客も増加すると期待している。
	○	通信会社（企画担当）	・今後については、気候の穏やかな時期であり、行楽やイベントなども増加することから、人出が緩やかに増えていくと見込まれる。通信事業においては、新生活関連の手続やサービスの見直しが一巡した後も、追加相談や切替需要が一定程度続くと見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。ただし、物価高を要因とした客の支出抑制意識は強いまま推移すると見込まれるため、緩やかな改善にとどまる可能性が高い。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・4月の景気は極めて良くない状況にあることから、早急に回復することまでは期待できない。
	□	百貨店（販売促進担当）	・インバウンドの入込客数は横ばいが続いている。また、夏を迎えるまで大きなイベントなどもないことから、今後、入込客数が増加するような要因が見当たらない。このため、景気の回復にはしばらく時間が掛かることになる。
	□	スーパー（店長）	・中東情勢の先行きが不透明ななか、光熱費の引上げを懸念する声が高まっている。客が、消費を控える方向に動くことはあっても、消費が活発になる方向に動くことは考えにくい。
□	コンビニ（エリア担当）	・様々な物の値上げが生活に影響してくることになるため、消費は伸びないと見込まれる。固定客が離れないような取組を続けることで、現状の実績を維持しながら、売上の回復を図っていきたい。	
□	衣料品専門店（経営者）	・物価高が落ち着くような兆しや要因が全く見当たらないことから、今後も景気は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	衣料品専門店（エリア担当）	・客が必要な物を買う動きや趣味や旅行に金を費やす動きは、これまでと変わっていないことから、今後も景気は変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・現状、販売できる車種が少なく、今後、販売車種が増えるような様子もみられないことから、現状維持のまま推移する。
	□	住関連専門店（役員）	・今後については、中東情勢の影響による商品の値上げが見込まれることから、客が必要な物だけを買う傾向が強まることが懸念される。客の節約志向はますます強くなるとみられ、景気が上向くような要素は見当たらない。
	□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・北海道においても、花粉症や黄砂による健康被害を訴える人が増えている。今後、長期的な視点から、病院を受診する前のアドバイス機関として、啓もう活動を行っていくことが重要になると考えられる。
	□	タクシー運転手	・ゴールデンウィークが終わり、6月の大型イベントが始まるまで、タクシーの売上は前年を下回って推移するとみられる。
	□	タクシー運転手	・今後については、燃料価格の動向次第の面がある。ただし、売上も増加傾向にあることから、収支バランスは今と変わらないまま推移すると見込まれる。
	□	観光名所（従業員）	・天候が安定していること、客船の寄港が多く予定されていることがプラス要因となり、今後の景気が上向くことを期待している。ただし、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたこと、物価高騰が続いていることが、観光動向にマイナスの影響を与えることも懸念される。全体的には、景気は現状と同様の状態で推移することになる。
	□	美容室（経営者）	・食品に加え、プラスチック製品も値上げに向けた動きが強まっていることから、今後、客の来店頻度が回復するような動きは出てこないとみられる。
	□	美容室（経営者）	・時期的に、景気が上向くことを期待したいものの、物価高を要因に、客の生活防衛意識が強まっていることから、今後も景気は変わらない。特に、店頭での商品の販売量が減少することを心配している。
	□	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢はしばらく落ち着かないとみられるため、今後も厳しい状態が続くことになる。
	□	住宅販売会社（従業員）	・資材価格の高騰、ナフサ不足、人件費の上昇により、建築単価が高止まりしていることで、消費者の購入意欲を押し下げている。今後も、こうした状況が続くことになる。
	▲	商店街（代表者）	・今後、節約に対する客の意識がますます高まるとみられることから、景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響により、今後の商品の値上げは避けられない状況にあることから、景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・国際情勢や国内の社会経済情勢の混迷が、漠然とした不安材料として横たわっており、先行きの消費動向を楽観できる材料は見当たらない。今年のゴールデンウィークについて、何の予定もないと回答する人が半数を占めるというアンケート結果があることも、こうした状況を裏付けている。
	▲	スーパー（企画担当）	・現状、商品の供給体制に支障は生じていないものの、今後の動向が懸念される。人件費の高騰、輸送コストの増加などによる一層の値上げも懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（役員）	・5月以降、商品の値上げが一段と進むことが見込まれる。価格がどれくらい高くなるのか分からないほどであり、今後、客の節約志向が本格的に強まることが懸念される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・原材料価格の高騰が見込まれることから、今後の景気はやや悪くなる。企業の業績が上向いてこなければ、賃金の上昇も期待できないため、消費が落ち込むことを懸念している。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢を要因とした原油価格の高騰により、全体的な物価の上昇が見込まれることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢を踏まえると、今後も様々な物の価格が上昇すると見込まれることから、個人消費は鈍化傾向で推移することになる。工場で使用するオイルや塗料、シンナーなどに影響が出ていることもマイナスである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の先行きが不透明なことから、今後も原油価格の高騰が続き、物価が一段と高騰することが見込まれる。そのため、当面の間、高額商品の買い控えが続くことになる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・現在は、新店効果により、一定数以上の客が来店しており、とても良い状況にあるものの、今以上に景気が良くなることは考えにくい。今後については、既存客に向けて、どれだけ安定的に販売を行えるかがポイントとなってくる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・原油価格の見通しが不透明であり、今後、生活費の高騰が懸念されることから、客が車の購入に慎重になることが見込まれる。
	▲	自動車備品販売店（店長）	・中東情勢の影響が、物価高に追い打ちを掛けていることから、今後の景気はやや悪くなる。先行きの景気は、原油価格の動向次第で良くも悪くもなる。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・インバウンドについて、入込客数の減少や客単価の低下といった動きがみられ始めていることから、今後、インバウンドの外出控えが進むと見込まれる。また、石油関連製品の価格が一段と高騰することになれば、落ち込み幅が大きくなる懸念がある。中東情勢が、世界全体に影響することが心配される。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・中東情勢を要因とした石油関連製品の値上げ、それを要因とした様々な原材料の値上げなどにより、今後の景気は下向くことになる。客の購買意欲が低下する懸念があることもマイナスである。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・人出が少ないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・夏季繁忙期を迎え、国内路線、国際路線共に、観光需要の増加を期待したいものの、中東情勢の影響が長引くことで、消費マインドが低下することが懸念される。また、円安を背景に、観光需要を支えてきたインバウンドも、今年度上期については、不透明感が増している。
	▲	旅行代理店（従業員）	・海外情勢の不安定さから、今後も燃油サーチャージの引上げが見込まれることから、海外旅行が一段と落ち込むことを懸念している。国内旅行についても、影響が出てくることを心配している。
	▲	旅行代理店（従業員）	・中東情勢が長引いていることから、旅行業界の先行きは不透明である。中東情勢が落ち着き、原油価格が安定しない限り、消費者の旅行意欲は回復しない。
	▲	旅行代理店（従業員）	・今のところ、燃油サーチャージ引上げ前の駆け込み需要で景気は良いものの、6月以降の旅行需要には、大きな影響が生じることが見込まれる。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により、包装資材の大幅な値上がりが続いている。販売価格への転嫁も遅れており、厳しい経営環境となっている。さらに、今後、ジェット燃料などの石油関連製品の価格が高騰することで、航空運賃やバス運賃などが大幅に値上がりすると見込まれるため、観光産業は6月頃から大打撃を受けることが懸念される。好調が続いているインバウンドも、航空運賃値上げの影響を受けるのは必至であり、今後の動向が不安である。
	×	一般小売店（経営者）	・原油価格の高騰などの影響が収束しない限り、景気は下向くことになる。
	×	スーパー（店長）	・先行きについての判断が難しい状況にあるものの、今後の景気は悪くなると見込まれる。
	×	コンビニ（エリア担当）	・今後あらゆる商品で値上げが進むことになり、客の生活が苦しくなることが見込まれる。そのため、今後の景気は悪くなる。
	×	コンビニ（エリア担当）	・原材料や食材、包材資材の値上げが既に決定している。これから石油関連製品の供給体制が回復したとしても、商品の値上げは決まっていることから、今後、商品の販売量は落ち込むことになる。
	×	衣料品専門店（店長）	・クールビズ商材が、月末から動き始めているものの、客から、いつからセールが始まるのかと尋ねられることが、例年にないほど多い。物価の上昇が続いていることで、客の節約志向が一段と強まっていることから、今後の景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	・あらゆるコストが上昇していることから、今後の経営環境は非常に厳しくなると見込まれる。
	×	その他専門店 [造花] (店長)	・中東情勢について、しばらくは今と同様の状態が続くとみられるため、これまで以上に、商材の供給体制に影響が出てくるのが懸念される。
	×	観光型ホテル (経営者)	・中東情勢を要因とした原油の供給体制の不安定化により、石油関連製品の仕入価格の上昇、数量制限が生じており、利益が減少傾向にある。また、インバウンド、国内客を問わず予約が伸びてこない状況にある。当地の観光施設を巡る一連の報道による影響も懸念される。
	×	タクシー運転手	・今後については、石油関連製品の価格上昇が確実なことから、景気は間違いなく下向くことになる。
	×	美容室 (経営者)	・物価高や人件費上昇により、中小企業の経営環境は厳しくなっている。何らかの対策が行われない限り、状況は悪くなる一方である。
	×	住宅販売会社 (経営者)	・分譲マンション市場は、富裕層相手の東京都心などの一部を除き、かなり深刻な状況に陥っている。新規物件供給のめどが立たず、建築価格の著しい高騰と客の実質賃金の減少などにより、市場は大きく縮小している。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	農林水産業 (経営者)	・7月になると、早採れの青果物が出回るようになることから、景気が良くなることを期待している。
	○	食料品製造業 (従業員)	・今後の国際情勢については、予測しづらいものの、観光動向は上向くと見込まれるため、景気はやや良くなる。
	○	建設業 (役員)	・前年度からの繰越工事に加え、新規受注工事の現場が早期稼働していることから、出来高が順調に積み上がると見込まれる。ただし、中東情勢の影響により、原油由来の建設資材の供給不足や価格高騰が懸念される。建設コストの増加や工期の延長、さらには工事中止といった事態も想定されることから、業績の下押し要因となることが懸念される。
	○	通信業 (営業担当)	・新たな企業が進出する兆しがあることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・不動産の相続登記の義務化から2年が経過したものの、過去の掘り起こし案件、新規案件にかかわらず、相続関連の依頼は引き続き堅調に推移している。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	・国内建設投資の状況を見る限り、引き続き堅調に推移することが見込まれる。ただし、中東情勢の長期化については、留意を要する。
	□	食料品製造業 (従業員)	・現状の受注量を増減させるような案件が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業 (経営者)	・塗料やプラスチック製品、燃料費などの供給量と価格が不安定になり始めており、今後も同様の状態が続くとみられる。
	□	建設業 (従業員)	・人材不足は簡単には解消できないため、現状と変わらないまま推移する。ただし、今後、中東情勢を要因とした資材不足により、工事を中止する案件が増え始めると、景気は下向くことになる。
	□	輸送業 (支店長)	・資材価格の上昇を見越した、駆け込み需要がみられるものの、出荷調整などにより、限定的な動きになるとみられる。
	□	金融業 (従業員)	・原油の輸入障壁が長期化する様相を呈しており、経済への下押し圧力となっている。円安による物価上昇も続く見通しにあることから、景況感はやや悪い状況のまま変わらない。
	□	広告代理店 (従業員)	・今後の見通しとして、明るい材料は特になく、景気は変わらない。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	・案件の受注件数が少なく、ベース商品の動きにも落ち込みがみられることから、業績を維持することが難しい状況になっている。今の状況が秋口まで続くという予測も出てきていることから、安心できない状況にある。
▲	家具製造業 (経営者)	・中東情勢の影響が長期化するとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢の影響がこれからあらゆる分野で表面化してくるようになる。特に、シンナー、塗料、断熱材などの石油化学製品の不足が深刻化するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・原油の供給体制の正常化やガソリンの代替燃料の開発などが進まない限り、景気は下向くことになる。また、税や社会保障費の負担増が続くとみられることもマイナスである。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・利益を確保するため、新規の設備投資を控える企業が増えていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・企業の求人ニーズはいまだ旺盛である。人さえいればという企業の声も多く、業種にかかわらず採用意欲は高止まりしている。業績拡大への意欲も高く、春先に人材を獲得し、夏にかけての売上増加を狙っているとみられる。
	○	人材派遣会社（社員）	・周辺地域において、倉庫関連の案件がやや増えていることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後については、中東情勢次第の面がある。ただし、中東情勢が収束したとしても、経済への影響が落ち着くまで、相当な時間を要するとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の業績が伸び悩む一方で、求人への応募は比較的堅調に推移している。ただし、過去の景気減速局面と類似した動きとなっていることは気掛かりである。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・求人数の大幅な増加までは期待できないものの、好調な観光や公共投資を背景に、今後の景気は横ばい又は緩やかな改善傾向で推移するとみられる。
	▲	職業安定所（職員）	・今後、物価が一段と上昇するとみられることから、個人消費の落ち込みが懸念される。
	×	求人情報誌製作会社（編集者）	・中東情勢の影響により、今後、物価高と石油関連製品の供給不足が一段と進むとみられることから、経済や個人消費に影響が出てくることになる。
	×	職業安定所（職員）	・原油の供給体制について、先行きが不透明なことから、今後の景気は悪くなる。原油の供給確保に向けた動きは進んでいるとみられるものの、今後、節約要請などが呼び掛けられることになれば、コロナ禍を上回る経済活動の停滞となること懸念される。

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	◎	商店街（代表者）	・当地最大の夏祭りを始め、多くのイベントが控えている。
	◎	観光名所（職員）	・国際定期便の増便や観光シーズンの幕開け、円安によるインバウンドの増加、日本人の国内旅行へのシフトなど好材料がそろっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・夏祭りがあり観光客が増えるため、景気は良くなる。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・国の交付金を使って県がプレミアム付商品券を発行するなどしており、客の購買意欲も多少は上向きになるとみている。
	○	百貨店（経営者）	・来客数は確保できているが、取組の見直しが必要である。
	○	スーパー（商品担当）	・消費者の生活防衛意識が高まっている。ただし、この先、中東情勢が収束に向かえば、その影響は緩和され、景気が上向くことも期待できる。
	○	コンビニ（経営者）	・物価上昇は落ち着いたとみており、消費マインドの改善が見込まれる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・日暮れが遅くなり人の活動時間が長くなるため、来客数の増加が見込まれるが、熊出没の影響により来客数が減少する懸念もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	家電量販店（従業員）	・エアコンの新たな省エネ基準の影響を受け、景気はやや良くなるとみている。既に4月の段階で旧モデルは前年を上回る販売実績となっており、6～7月は更に伸びることが予想される。ただし、旧モデルがメインになるため、単価は前年を下回る可能性があるほか、取付け業者のスケジュール確保が難しくなることも想定される。
	○	乗用車販売店（従業員）	・オーダーストップになっている車種の販売再開に加え、新型車の発売もあるため、販売量は多少伸びるとみている。
	○	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・熱中症対策の義務化を受け、各企業でいろいろな対策用品の導入が進んでいる。空調服の売上も伸びていることから、今後期待が持てる。
	○	都市型ホテル（支配人）	・夏の行楽シーズンや夏休み、祭り需要に向けた先行予約は好調である。
	○	通信会社（経営者）	・6～7月にかけてサービスエリアを拡大する予定であり、放送サービスの新規契約者数の増加が期待できる。当該エリアには大学があり、学内向けに放送サービス及びWi-Fiサービスの導入も予定されている。また、住宅エリアからも放送サービスに関する事前の問合せが寄せられている。
	○	通信会社（営業担当）	・販売価格が比較的高価な端末を一括で購入する客の様子などから、景気はやや良くなるとみている。
	○	テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィークは学生や3世代家族の利用が見込まれる。
	○	競艇場（職員）	・ゴールデンウィークにイベントを計画しているため、売上や来場者数の増加が期待できる。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・悪化する要因も見当たらないため、現状維持になるとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・物価は上がらないという社会通念が崩れ始めており、手元の金を取っておくより今使った方が得たという意識が消費行動を後押ししている。中東情勢を始め先行きは不透明だが、インフレや株価上昇、金利上昇という大きな流れは変わらないとみている。
	□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・現在どん底状態にある。世の中の景気が良くならないうちは厳しい状態が続くとみている。
	□	一般小売店〔茶〕（経営者）	・先行きが見通せない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・中東情勢の動向次第だが、現時点では先行きの不透明感が消費に影響を及ぼしている。消費マインドを押し上げる材料は見当たらず、このまま足踏み状態が続くとみている。
	□	百貨店（企画担当）	・来客数の減少やプロモーション縮小の影響により、売上は前年比マイナスが続いている。今後は、セット率の向上を含む客単価引上げなどの販売手法に取り組んでいく。
	□	百貨店（営業担当）	・世界的な社会情勢に対する不安がある。
	□	百貨店（経営者）	・高額商品を購入する一部の顧客と生活防衛意識の高い多数の消費者との2極化傾向に変化はない。新鮮な商品とイベントを提案し、生活防衛意識の高い消費者の購買意欲を喚起できるかがポイントになる。
	□	百貨店（従業員）	・中東情勢に起因する原油価格高騰を背景に、今後も各種値上げが見込まれる。節約志向や生活防衛的な購買行動に変化はみられず、厳しい状況が続くとみている。
	□	スーパー（店長）	・ガソリン価格や光熱費の高騰により、食費を抑える傾向は続くとみている。
	□	スーパー（店長）	・仕入価格が上昇するなか徐々に販売価格を上げているが、買上点数が減少し、結果として売上は伸び悩んでいる。さらに、競合店との価格競争は激しさを増している。こうした構造は今後も変わらないとみている。
	□	スーパー（店長）	・ガソリン価格の上昇により、可処分所得が減少する可能性がある。
	□	スーパー（店長）	・値上がりや品不足など一時的な影響はあっても、大きくは変わらないとみている。
	□	スーパー（店舗運営）	・値上げ基調は変わらず、今後も買い控えは続くとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・今月は売上や来客数、客単価、購入点数がいずれも小幅に推移している。今後は社会情勢の動向次第であり、値上げが続けば客足、売上共に落ち込む可能性がある分岐点にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	コンビニ（経営者）	・夏が来て気温が上昇しても、売上はそれほど増加しない。仮に売上が増えたとしても、経費の増加に追いつかず、経営の厳しさは変わらない。フランチャイズ店舗では人員削減や廃棄管理を自由に行うことが難しいため経営は本当に難しい。
	□	コンビニ（経営者）	・現状を好転させる要因は見当たらず、今後は更に厳しい状況が予想される。
	□	コンビニ（エリア担当）	・盛夏に向けてトレンドは上昇する時期にあるため、単価下落分をカバーできればよいが、外部環境の好転は期待できない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・原油価格高騰の影響により、消耗品の値上げが続けば、買い控えが発生する可能性がある。
	□	コンビニ（店長）	・先行きは不透明である。
	□	衣料品専門店（経営者）	・仕入価格が上昇しており、お中元商戦に向けては値段の交渉で苦勞するとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による節約志向は続くとみている。
	□	衣料品専門店（店長）	・ガソリンなど石油製品の値上がりが見込まれ、売上の中心がお買い得商品である状況は変わらないとみている。
	□	衣料品専門店（店長）	・地政学リスクに伴う石油供給の不安定化の影響により、更なる物価上昇が予想される。こうした状況が落ち着き、かつ、賃金が大幅に上昇しない限り、景気の改善は見込めない。
	□	衣料品専門店（総務担当）	・原油の輸入が正常化しなければ、石油由来の製品全般で品不足や価格高騰が続き、経済に影響を及ぼす。こうした状況下では景気回復は難しい。
	□	乗用車販売店（従業員）	・受注できる車種が入れ替わるだけで、受注の積み増しは登録台数を下回っている。数か月後には販売できる車両がなくなる可能性がある。
	□	乗用車販売店（店長）	・直近で状況が好転する見込みはないが、買換えや車検等の需要はあるため、しばらくは現状のままとみている。
	□	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・景気は世界情勢に左右され、物価は上昇するが賃金は上がらない。良くなる要素が見当たらない。
	□	その他専門店〔靴〕（経営者）	・中東情勢の影響はしばらく続くとみている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・燃料価格の動向が懸念材料である。
	□	観光型旅館（スタッフ）	・景気が良くなる見通しが立たない。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・中東情勢の影響もあり、燃料サーチャージの引上げによる交通費の増加が懸念される。
	□	旅行代理店（従業員）	・大幅な景気回復は期待できない。
	□	旅行代理店（従業員）	・先行きは予測不能である。
	□	旅行代理店（従業員）	・熊の行動が活発化するなか、事故が起きると大きな影響があるため、現時点では良しあしの見通しが立てにくい。
	□	通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しく、現状維持とみている。
	□	通信会社（営業担当）	・見込み案件が例年並みにある。
	□	美容室（経営者）	・米国の政策と中東情勢による世界経済の混乱が消費行動に大きく影響している。先行きの不透明感から、消費行動において選択が難しい状況が続くとみている。
	□	美容室（経営者）	・作業用の手袋が入荷せず、別の仕入先を探したところ価格は3～5倍に上昇している。他の製品も仕入価格が上昇している。景気が良くなることはなく、変わらないとみている。
	□	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・中東情勢の長期化が懸念材料である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響が大きく、先が見通せない。
	□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・今夏の猛暑に備え、エアコンの早期交換と断熱工事が増えるとみている。
	▲	商店街（代表者）	・世界情勢の不安定化により原油価格が高騰し、物価高が更に進めば、商店街の買物客にも不景気の影響が現れるとみている。
	▲	商店街（代表者）	・物価上昇は今後もしばらく続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	商店街（代表者）	・物価高と中東情勢の影響が懸念される。
	▲	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・梅雨の時期や夏場はゴルフのラウンド回数が減少する傾向にあることに加え、新商品の発売も少なくなる。また、石油関連の影響を大きく受けている客もいるため、先行きは不透明である。
	▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・物価高やエネルギー供給への不安が続くなか、景気の高揚につながる良い話題を見いだすことが難しい状況である。
	▲	スーパー（経営者）	・5月以降は株価の高値が続き、資産保有層の消費行動には期待が持てる。また、初任給の大幅な上げが広くみられることにも期待したい。ただし、国を挙げて原油の手配などに尽力しているものの、その負担は今後も継続的に、各種物品や製造・移送における大幅なコスト増加につながるとみられる。これにより、零細・中小企業の営業や収益への負担は一段と大きくなり、事業の低迷が続くとともに存続への懸念も強まっている。消費については、一部を除き賃上げを上回る形で商品価格への転嫁が進んでおり、消費環境の厳しさは更に増すとみている。
	▲	スーパー（店長）	・物価高や燃料費の高騰がみられるなか、消費が上向く要因は見当たらず、当面は回復しないとみている。
	▲	スーパー（販促担当）	・ナフサ関連商品の仕入原価が4月に入ってから上昇している。原油市場の先行きは不透明だが、現状が続けば仕入原価が上昇するため販売価格への転嫁が必要となる。その結果、販売点数が減少することが予想される。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・夏物が終わりの時期になるため、売上は期待できない。
	▲	衣料品専門店（店長）	・目的買いの客の来店は一定数みられるが、ついで買いや軽衣料を購入する客が大幅に減っている。中東情勢を受けた原油価格高騰の影響により、全体的に節約志向がうかがえる。
	▲	家電量販店（従業員）	・中東情勢の影響による更なる物価上昇が懸念される。客の慎重な購買行動は変わらないとみている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・現状では部品や油脂類の入庫に影響は出ていないが、他の業種では材料が入らない、価格が上昇しているといった声を聞く。このため、今後は部品などの入庫遅れが生じる可能性もある。買い控えと部品や用品の入荷待ちが重なれば、売上は見込めなくなる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・幾つかの車種で仕様変更があり、販売できる車が限られる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・4月に入り販売量が急激に減少している。3月末で自動車税環境性能割が廃止されたため上向きになると見込んでいたが、現状は想定を下回っている。今後も販売量の減少は続くともみている。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	・物量が不足しているため、売上は減少するとみている。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢の影響により十分な供給量が確保できないことに加え、値上げによる販売価格の上昇もあり、消費の冷え込みが予想される。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢の影響で各油種の入荷が制限されている。暖房用燃料の販売は減少する時期だが、給油所部門のレギュラーガソリンは規制が強くなると売上に影響してくる。
	▲	高級レストラン（支配人）	・予約数の減少傾向は今後も続く可能性が高く、早急に対策を検討する必要がある。
	▲	一般レストラン（経営者）	・石油製品や食料品の値上がりにより、全体的に支出を抑える動きが強まっていることから、やや悪くなるとみている。
	▲	一般レストラン（スタッフ）	・廉価なメニューを選ぶ家族が多くみられる。
	▲	観光型ホテル（スタッフ）	・仕入価格の上昇は避けられず、場合によっては発注しても入荷されない品目も出てくると予想している。
	▲	観光型旅館（経営者）	・中東情勢などマイナス要因は多いが、好転要因は見当たらない。
	▲	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の先が見えない状況から、物流の安定供給が難しい。
	▲	タクシー運転手	・売上が伸びる梅雨時期になるが、新人研修などもあるため売上は落ち込む。
	▲	通信会社（営業担当）	・更なる物価上昇が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	▲	観光名所（職員）	・各種商品の値上げが相次いで予告されている。現在は客単価がやや低下している状況にあり、今後は値上げが実施されたときにどのような影響が出るか注視している。現在は来客数の多さが売上をカバーしているが、単価の下落幅が拡大した場合には、カバーし切れず、景気はやや悪くなる。	
	▲	遊園地（経営者）	・中東情勢を受けた原油価格や物価の上昇により節約志向が高まり、消費に影響する。	
	▲	ゴルフ場（支配人）	・原油価格の先行きが見通せず、景気の悪化が懸念される。	
	▲	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・中東情勢の先行きが不透明ななか消費は減少している。景気は低迷するとみている。	
	×	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により全般的に景気が悪くなっており、今後ますます悪くなるとみている。	
	×	スーパー（経営者）	・中東情勢の先行きが見通せない。また、報道も値上げの話ばかりである。	
	×	スーパー（業務担当）	・中東情勢の影響により燃料を始めた石油製品の価格が上がると、全体的に物価が上昇するため、景気は悪くなる。	
	×	コンビニ（経営者）	・1～3月の間に競合店が2店出店した影響を大きく受けており、売上は前年比80%になっている。このままでは経営が厳しくなる。	
	×	コンビニ（経営者）	・競合店が6月末に出店するため、来客数は前年並みに戻るとみている。	
	×	住関連専門店（経営者）	・中東情勢の影響により石油製品の輸入が滞り、資材価格が高騰している。そのため、コスト増加を反映した見積りを行わざるを得ない状況となっている。この先、受注を確保できるか不安である。	
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・重油を原料とする燃料や資材、消耗品については先行きが見通せない状況にある。この状況が改善されなければ、夏以降も引き続き身動きが取れない可能性がある。	
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・中東情勢に起因する夏場のエネルギーコスト増加や原材料価格の高騰については、原油調達の効果が現れるまで時間を要するとみている。こうした状況から、ゴールデンウィークや夏休み期間の人の動きについても近場志向や節約傾向が高まるとみている。	
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高が悪影響を及ぼしており、外食に対する支出はますます抑制されている。飲食店にとっては厳しい状況が続くとみている。	
	×	一般レストラン（経営者）	・例年、6～8月は来客数が減少していく傾向にあり、今年も同様とみている。	
	×	一般レストラン（経営者）	・中東情勢のような外部要因に大きな影響を受けている限り、経済の活性化は見込めず、景気は悪化するとみている。	
	企業 動向 関連 (東北)	◎	建設業（従業員）	・大型の民間案件の受注を見込んでおり、良くなる見通しである。ただし、中東情勢の影響が調達面で既に出ているため予断を許さない。
		○	一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により石油由来製品の価格高騰や入手困難が続いており、非常に厳しい局面に立たされている。現在が底だとすれば今より良くなるとみている。
		○	通信業（営業担当）	・夏に向けて、パソコンメーカーやクラウドサービス企業など各社で新商品の発表が相次ぐため、最新機種への買換えなど一定の需要増加が見込まれる。
○		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・中東情勢の不透明感はあるがガソリン価格は安定しており、利上げも見送られたことから、消費マインドは回復する見込みである。	
□		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢が落ち着き原材料の供給が安定しない限り、現状維持は難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・構造改革や地方創生が実行され、働く場所が確保されるなど魅力ある自治体にならなければ、そこで暮らそう、結婚しよう、子育てをしようとはならない。金が回るサイクルができなければ、景気が良くなることはない。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・情勢の先行きが不透明で、取引先との商談も具体性が乏しく、見通しを立てにくい。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・現状と同様、パソコン市場の先行きは前年比約3割の減少が見込まれる。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・改善が見込まれる事業もあるが、その他事業では依然として動きが鈍く、全体としての回復はもう少し先になるとみている。
	□	建設業（従業員）	・資材価格の高騰と人手不足が重なり、受注をどのようにこなしていくかが課題となっている。
	□	建設業（従業員）	・設備関係の資材が不足しているため、新たな受注が難しい。
	□	建設業（従業員）	・現状が劇的に変化することはないものの、中東情勢の不安定さはリスク要因として注視している。
	□	通信業（営業担当）	・顧客からの上向き情報や明るい話題はない。
	□	公認会計士	・建設業関係では、今の状況から改善に向かう話がなかなか出てこない。下請企業が多いが、資材価格及び燃料費高騰の影響により、元請企業自体、受注確保が難しい状況である。このような状況では、小売業、サービス業が一定の業績を確保していても、全体の景気はやや悪い水準で推移するとみている。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	・行楽シーズンを迎えることから観光客数の増加に期待したいが、ガソリン価格上昇の影響が見通せない。
	▲	農林水産業（従業者）	・米の市場価格が値下がり傾向にある。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・原材料価格の高騰が続いているが、価格転嫁ができるのは数か月先になるため、更なる利益減少は避けられない。また、値上げ後の需要減少も懸念されており、景気の悪化は免れない。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・店舗別の対策やランチメニューの見直しなどにより来客数増加に向けた施策を進める。しかし、客単価が下がる一方、資材関連の経費は高騰しており、利益が圧迫されることが懸念される。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、部資材の調達環境が悪化しており、客先の生産計画の見直しが想定される。
	▲	輸送業（経営者）	・複数の取引先製造業において、燃油や石油由来の原材料で調達難が生じ始めている。2～3か月先の仕入れのめどが立っていないという声も聞く。この先、生産や出荷に影響が及ぶ可能性があり、景気減退への懸念がある。
	▲	輸送業（営業担当）	・中東情勢による物価上昇の影響が出てくる。
	▲	金融業（広報担当）	・原油由来製品の不足感が徐々に高まっており、先行きに不透明感を示す取引先が増加している。
	▲	広告業協会（役員）	・中東情勢の影響により、石油の供給不足に伴う関連商品の値上がり懸念されている。企業収益にも悪影響を及ぼす可能性が高く、当面、広告費の増加は見込めない。
	▲	広告代理店（経営者）	・中東情勢の動向次第では、広告出稿意欲が上がる可能性もあるが、不安定なままでは、客先の出稿意欲は高まらないとみている。
	▲	広告代理店（従業員）	・業界内で石油製品の価格上昇による影響が出始めている。用紙など原材料価格の引上げ要望も相次いでいることから、収益が圧迫されることが予想される。
	▲	経営コンサルタント	・中東情勢が好転しない限り、状況は更に悪化するとみている。
	▲	その他企業〔協同組合〕（職員）	・原料や資材を安定的に確保できる見通しが立たない。
	×	農林水産業（従業者）	・中東情勢が不安定であり、資材や農薬などの費用がかさんでいる。さらに、消費税の動向も不透明であり、良くなる要素は見当たらない。
	×	食料品製造業（経営者）	・中東情勢により、石油を原料とするフィルムや衛生用品の値上げ要請があり、資材関連のコストが大幅に上昇する。供給量も前年実績が上限といわれており、今後の見通しが立てにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続く。
	×	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、潤滑油を始めとする石油由来製品について、値上げや受注調整、受注停止といった通知が相次いでいる。このままでは製造体制の維持が難しくなる可能性がある。こうした状況は同業他社においても同様であり、当社製品に支障がなくても、他社製品が納入されないことで、結果として顧客が製造計画を縮小する可能性がある。
	×	不動産業（従業員）	・建材、設備の新規受注が凍結されているとの情報から、新規マンションや戸建て住宅の動きは鈍い。受注再開後には価格上昇が予想され、購入ニーズとのかい離が生じ、売上に影響する可能性が高い。
	×	司法書士	・住宅関連業界では、資材の値上げや不足等による影響が避けられないとみている。
雇用 関連 (東北)	◎	—	—
	○	*	*
	□	人材派遣会社（社員）	・AI関連の市況は今後も堅調に伸びていくとみるが、地政学リスクに伴う原油価格の高騰や物価上昇の影響が見通せず、全体の先行きは不透明である。
	□	人材派遣会社（社員）	・世界情勢の不安定化による影響はいずれ出てくるとみている。ただし、2～3か月先は分からない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・継続的なインバウンド需要の取り込みにより、宿泊業や一部の飲食・関連卸売業は底堅い動きを見せている。一方、小売業では、長引く物価高により、消費者の選別消費がより鮮明になっている。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による物価高騰など先行きに不透明感があり、個人消費、企業の経済活動などは慎重にならざるを得ないとみている。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・現在の物価高が続く限り、状況は変わらないとみている。
	▲	人材派遣会社（経営者）	・中東情勢がパッケージや資材、燃料の価格上昇を通じて、あらゆる産業に影を落としている。経営者からは、景気の先行きが不透明で不安要素が残るという声を聞く。景気はやや悪くなるとみている。
	▲	アウトソーシング企業（経営者）	・他業種からの参入は、AIにより仕事が減った影響とみている。今後はその傾向が進むとみている。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・様々な分野で物価が上がるなか、特に中小企業では収益改善や経費削減が進まず、賃上げできない企業が多くなっている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中東情勢の影響により、品不足や物価高に拍車が掛かる。
	▲	職業安定所（職員）	・求人及び求職者の動きに大きな変化はないが、事業所からは原材料価格の高騰や包装資材の入荷制限が発生しているという声を聞く。中東情勢が雇用に与える影響を注視する必要がある。
	▲	職業安定所（職員）	・新規求職者数は4か月連続で前年を上回り、新規求人数は減少傾向にある。事業所からは、中東情勢がこのまま推移するとその影響が6月頃から経営面に反映されるという声を聞く。
	▲	学校〔専門学校〕	・中東情勢の影響により、あらゆる分野でコストが増加しており、経済活動への大きな影響が予想される。
	×	*	*

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	◎	家電量販店（店員）	・エアコンは、省エネ達成率100%以下の製品製造が2027年度からできなくなるため、安価な商材の駆け込み需要で伸びるとみている。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食店関係の飲料売上が増加するため、やや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	家電量販店（企画担当）	・エアコンは、夏の最需要期にかけて新たな省エネ基準が開始されることを背景に、更なる需要が拡大し、ひいては家電全体の売上をけん引することが期待される。
	○	一般レストラン（経営者）	・行楽シーズンが来るため、客足は増える見込みである。ただし、客単価がどうなるかは分からない。
	○	都市型ホテル（経営者）	・宿泊業だが、週末の販売量が前年比30%増加している。
	○	タクシー（経営者）	・昼も夜も動きが良くなっているため、この先も良くなる。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・中東情勢が沈静化して平和になれば、経済も落ち着いてくる。安定すれば、現状維持できるかどうかといったところなので、中東情勢次第である。
	□	スーパー（総務担当）	・中東情勢の影響に伴い原油価格が高騰している。先行きが不透明であるため、物価上昇につながっており、景気が良くなる見込みは少ない。
	□	スーパー（商品部担当）	・中東情勢の影響により、食料品等の頻繁な値上げなどで良くなることは考えにくい。ここ数か月の買上点数や客の様子などをみていると、厳しい状況がうかがえる。
	□	コンビニ（経営者）	・中東情勢の影響を含め、ナフサやその他関連品の価格が上がり、今後は消費者心理が下がると心配している。
	□	コンビニ（エリア担当）	・来客数は頭打ちで、伸びていない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・7～8月は夏休み需要で、一時的に来客数は回復するものの、値上げによる節約志向は継続するため、来店頻度や衝動買いの弱さは変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・夏祭りの時期になるため、何とか前年並みの人出になってほしい。
	□	衣料品専門店（経営者）	・現状が大きく変わる見込みはない。
	□	家電量販店（営業担当）	・暑い夏が予想されているが、エアコン取付工事次第である。白物家電の接客強化での単価上昇にも期待している。成約率は前年以上をキープしている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢等の影響により物価高になると、新車は買い控えあるいは安価な物や中古車を選ぶ傾向になる。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・客の雰囲気も落ち着いて上向き傾向にあったが、中東情勢の影響により、この先は余りプラスの傾向にはならないとみている。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・ゴールデンウィークを迎えるため、動向考察が難しい。例年並みを期待したい。
	□	一般レストラン（経営者）	・宴会や弁当があてにならない以上、通常のランチやディナーのメニューをてこ入れて売上を増やすしかなさそうである。
	□	観光型ホテル（経営者）	・この何ともいえない市場の重力感が、6～7月に改善されるとは考えにくい。
	□	都市型ホテル（支配人）	・宿泊、料飲部門共に、前年と同様の受注状況にある。
	□	旅行代理店（所長）	・世界情勢や原油問題次第かと考えるが、現段階では不安要素が大きいと言わざるを得ない。
	□	通信会社（総務担当）	・買換え特需が一段落したため、通常の販売量に戻る。
	□	テーマパーク（職員）	・天候やカレンダーの日並びによる影響に加え、原油問題に関連して、ガソリン価格の高騰、石油関連商材、備品や消耗品等の値上げや品不足が発生している。レジャー費が劣後にならないか不安である。
	□	美容室（経営者）	・カラーリング用のゴム手袋は出荷停止と告示され、次は何が止まるかと恐れている。
	□	設計事務所（所長）	・一旦下降した景気が戻るには時間が掛かる。
	▲	商店街（代表者）	・新学期が始まったが、幼稚園児や児童の減少は免れない。また、中東情勢の動き次第で先行きは不透明である。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・報道などでは4月25日から最大12連休のゴールデンウィークといわれているが、昭和の日を挟んだこの1週間は、さほど売上も上がっていない。周辺の観光施設にも行列はできておらず、出足の鈍いゴールデンウィークである。物価上昇と原油価格高騰による値上げのために旅行を控える人が多い。この傾向は原油の供給が安定するまで続くと考えられることから、今後の見通しはやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（店長）	・店頭の商品価格が上昇していることや、物価上昇が続き客の節約志向が更に強まると想定されるため、今後は消費が冷え込む可能性が高い。また、中東情勢の不安定化により、エネルギー価格、原材料、物流などへの影響が懸念され、物資や商材の安定的な供給が確約できない状況も、身の回りの景気に影響を与える要因になると考えている。
	▲	スーパー（経営企画）	・今以上に物価が上昇すると予想される。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢が落ち着けば、この物価高も一息つけるのではないかと期待している。ただし、上がった物価は簡単には下がらない。
	▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食業務では、新年度からの新規受託先はほぼ例年どおり確保できている。また、既存の受託先も取引条件の引上げに応じてもらえている。ただし、4月以降に値上げを告知されている食料類も多く、今後の農作物の供給懸念を想定すると、収支確保は厳しい状況が続く。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の来客数、件数の伸びが余り良くない。宴会単価は上がっているものの、原材料価格の高騰を受けて値上げしたもので、肯定的なものではない。原油価格上昇に伴い、食材原価も高騰しており利幅を圧縮している。
	▲	旅行代理店（経営者）	・バス代の高騰が気掛かりである。販売量が例年より下がることが予想される。
	▲	旅行代理店（従業員）	・物価が下がる傾向にないため、やや厳しい。
	▲	タクシー運転手	・5月頃に、タクシー料金の値上げがありそうなので、一時的に、利用客が少なくなるとみている。
	▲	通信会社（社員）	・中東情勢の影響により、現時点で当社サービスに必要な機器の納期遅れなどが発生しており、業績への影響を危惧している。
	▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢が解決しない限り不安が拭えないため、景気悪化となる可能性が高い。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・物価高の影響に続き、原油価格高騰、電気やガス料金の高騰で、ひっ迫しそうである。また、天候について、例年より気温が高い予報が出ているため、集客にも影響が出てくると予想している。
	▲	競輪場（職員）	・制度の改正により、やや悪くなる。
	▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・建築コスト高、原油問題に伴う建築資材の欠品や納期遅れ、総額コストの再見積りを行ったとしても、融資が決まらない等、問題が続出しており、今後数か月はこうした状態が続くとみている。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により様々な資材の供給が滞るといった情報が近隣から聞こえている。株価の高値更新情報とかい離れた市井の状況をどう捉えればよいのか。いずれにしても世界情勢次第で今後の経営方針が変わることは間違いない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・物価高と商材の入荷状況が悪い。客も税金を支払ったばかりで懐事情が余り良くないようで、景気が悪い。今後この状況が続くと倒産する企業が増えてしまうのではないかと危惧している。
	×	百貨店（営業担当）	・客の購買意欲低下は想定内だが、取引先も今後の原材料価格の高騰や入荷対応が困難になることを予測して納品を急がせたりと、多方面で不穏な空気になっている。店頭では高額品でもまとめ買いに走る動きも見られ、状況は芳しくはない。
	×	乗用車販売店（経営者）	・いまだメーカーの回復策の提示がない。
	×	旅行代理店（営業担当）	・ガソリン価格の高騰や海外情勢を背景に、レジャー産業は打撃を受ける。インバウンド需要も望み薄である。
	×	通信会社（経営者）	・中東情勢の影響により、あらゆる仕入コストが上がっている。塩化ビニール系の部材は、早々に供給不可となっている。ナフサの影響はかなり大きいのが、加えて円安が大きく物価を上げている。
	×	通信会社（局長）	・中東情勢の問題など世界情勢が不安定なため、大きな影響を受ける。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	・中東情勢の沈静化までは消費者心理は冷え込む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	住宅販売会社（経営者）	・エネルギー関連の原価上昇が予想され、全体的なコスト増加を売上に転嫁できるかが問題である。悪くなる要因はたくさんある。
	×	住宅販売会社（経営者）	・不動産に関する問合せが少なく、逆に閉店や閉業等が目立ってきている。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・中東情勢の問題が解決され、ナフサを始めとした原油供給が落ち着くと予想している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件の引き合いも増えているため、中東情勢が安定すれば良い方向に向かっていく。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・今が最低ではないかと考える。これ以上下がると困るし、これからは少しずつ良くなるとみている。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・原材料の値上がりが著しく、今後の製造、販売にどのような影響があるか心配である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・世界情勢等の不安定な状況に改善が望めない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注量がどんどん悪くなっていく気配がある。これからも同様に厳しい状況となる。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・米国の対応次第で2～3か月先はどうなるか分からない。良くてやや良くなるくらいではないかと考える。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども、依然として続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・夏場に向かい、エアコン等の物量は3割ほど増える予測である。また、バーベキュー等のレジャー用品なども前年並みを確保予定である。ただし、車両不足による用車費や人件費、中東情勢により燃料や材料価格の先行きも不透明であるため、不安もある。
	□	経営コンサルタント	・中小企業のなかでも、中東情勢の影響や原油等調達の変化による資材価格高騰の流れのなかで生じた前倒し発注や駆け込み需要の反動減が予想される。一方、短期的に足元の受注対策を打った部品製造業では、逆に今後の受注増加が期待されるところもあるため、全体的には業績の変化はほとんどない。
	□	司法書士	・地方の街なので、景気がどうかというより、ほとんど毎日、同じような日が続いていく。
	□	社会保険労務士	・夏のボーナスも大手企業は順調そうなので、何もなければこのまま順調にいきそうだが、原油関連製品やサービスは、この先どうなるのか不透明である。
	▲	食料品製造業（経営者）	・今後も更なる資材、材料費、人件費等の高騰が影響し、やや悪くなる。
	▲	食料品製造業（経営者）	・長引く中東情勢の影響により、いよいよ包装資材の値上げが始まっている。その他のコストアップ分も販売価格に転嫁するよう努力しているが、なかなか簡単には進まない。石油由来の原材料は代替がきかないため、価格に転嫁せざるを得ず、その可否が今後を左右する。
	▲	化学工業（管理担当）	・材料価格の高騰により、利益が圧迫されている。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・工場で使用するオイルやゴム手袋の入手に制限が掛かるなど、中東情勢の影響がじわじわと出てきている。主要取引先の生産は今のところ順調に進んでいるが、今後に不透明感がある。
	▲	建設業（総務担当）	・全体的な業務量が足りない。発注見直しを見ても、好転するような材料がない。
×	金属製品製造業（経営者）	・資材不足解消のめどが立っていないため、悪くなる。	
×	電気機械器具製造業（経営者）	・生産が終了する製品や作業が減少する製品がある。中東情勢の影響により材料が入手困難となり値上がりが出始めている。	
×	不動産業（管理担当）	・依然として続く資材の値上がり、今後予想される資材の入荷遅延や出荷停止などから、業務に支障が出るおそれがあるため、売上の維持が問題である。	
雇用	◎	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (北関東)	○	人材派遣会社（経営者）	・ゴールデンウィーク等での購買や客の動きは伸びていくとみているが、単価や購入する物の価格も上がっている分、購買力は鈍る。ガソリン等もなかなか価格が下がらない状況なので、財布のひもは固い。全般的に動きはインバウンド頼みになる。
	□	人材派遣会社（社員）	・企業側に50代以上の人材を採用してもらわないと需給バランスが保てない。
	□	人材派遣会社（管理担当）	・現状、派遣業は底の状態である。これ以上、採用が減るとクライアントにも影響が出るため、現状維持で変わらないと考えている。天候が暖かくなると、コンビニの麺類製造派遣が増えるが、生産予定は例年と変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が、前年同月並みで推移している。
	▲	人材派遣会社（社員）	・仕事はあるにはあるが、人手不足で仕事が受けられないため、当社の経営的には、徐々に下がってきている。世界情勢も不安定な状況で、周辺の物産店に話を聞くと、当地域の入込客で、特に中国人は一時期減った影響がまだ残っているとのことである。世界情勢の変化で、段々とインバウンドも減ってきている。
	▲	学校〔専門学校〕（副校長）	・企業からの情報によると、物価上昇分の製品への価格転嫁が難しいため、利幅がかなり縮小していくことが予想される。
	×	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	◎	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・9月までは日差しが強いため、来客数、売上共に期待できそうである。
	◎	百貨店（営業担当）	・免税売上は一時の落ち込みから完全に回復基調にある。国内富裕層による宝飾、時計、美術の売上も拡大基調にあり、食品、ボリュームファッションの傾向と併せて好調が続く（東京都）。
	◎	百貨店（店長）	・近隣エリアに建設中のマンションが数棟あり、当店も5月に改装オープン予定のため、売上、来客数の拡大を見込んでいる。
	◎	衣料品専門店（経営者）	・夏物衣料の販売準備のためにここまで動いて、良くならないのはおかしい。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・時期的なものと、エアコンの新たな省エネ基準で低価格帯のエアコンが製造されなくなるため、今年中に購入しようという客が多い。
	○	一般小売店〔文房具〕（経営者）	・文具の需要期である4月を過ぎるため、売上はやや落ちる。しかし、今年のゴールデンウィークは、海外旅行などの遠出を控える傾向にあると考えられるため、身近なところでの買物で来店する客が増加するとみている（東京都）。
	○	一般小売店〔傘〕（店長）	・メンズの晴雨兼用傘の需要が伸びている。
	○	百貨店（総務担当）	・改装工事が終了し、来客数の増加を見込める。
	○	コンビニ（従業員）	・夏に向けてコンビニチェーンの一部店舗に導入されている店頭販売商材の専用機器を当店にも導入する予定である。複数商材の専用機器導入により、客の来店動機が増え、新規客を開拓し、1点でも多く買ってもらえることを期待している。
	○	家電量販店（店長）	・エネルギー需要の不安や値上げがいわれるなか、家電の買換え需要では高付加価値の省エネ製品へ関心が高まっている。エアコンの新たな省エネ基準では必ずしも低価格帯の製品ばかりが売れるわけではなく、付加価値を伝え、省エネ性能の高いモデルの販売量を増やすことで単価を上げることにつながる。
	○	家電量販店（店長）	・ゴールデンウィーク、夏季休暇を控え、円安の動向もあるため、インバウンドの増加を期待している（東京都）。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・電気自動車が相次いで発表になり、補助金の恩恵もあるため、期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	乗用車販売店（総務担当）	・新型車の投入で流れを変えていく。懸念点は、中古車市況が中東情勢次第で大きく変わることである。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・国際情勢の収束に向けた動きがあるため、良くなる（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	・当社においては、予算も上向きで組んでいる（東京都）。
	○	その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・取引先に対する単価、委託料の価格転嫁交渉がおおむね順調に進んでいることから、コスト増加要因は多いものの、それを超えて景気は横ばいを上回るものと予想している（東京都）。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・余り期待していなかったが、国内エージェントからの引き合いが多く、団体客の予約が増加しているため、そこまで悪くならないと見込んでいる。
	○	タクシー運転手	・3か月先の今夏も猛暑予想のため、利用客が増える（東京都）。
	○	通信会社（経営者）	・何となく街の人の表情が明るくなってきている（東京都）。
	○	通信会社（経営者）	・案件の受注が増加傾向であり、2～3か月先の景気はやや良くなる（東京都）。
	○	通信会社（社員）	・CMの引き合いがあり、好調なスタートを切れている。新年度早々に仕事が入ってくることは比較的珍しいことなので、今年度の好調さに期待している（東京都）。
	○	通信会社（経営企画担当）	・4月はゴールデンウィークを控えて取引先の動きが鈍く、商談が動かない傾向にある。5月は少しずつ商談が動くかと予想している（東京都）。
	○	通信会社（営業担当）	・値上げの動きもあるが、事業上、節約志向にも対応できる（東京都）。
	○	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・ガソリン価格の高騰により、ゴールデンウィーク明けに安近短のレジャーが注目される可能性がある（東京都）。
	○	その他レジャー施設〔複合文化施設〕（財務担当）	・今が底であり、中東情勢の緊張緩和により物価が安定し、上昇した材料価格も元に戻る（東京都）。
	○	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・例年と比べ繁忙期が変わってきており、いつ忙しくなるか予想が難しい。
	○	住宅販売会社（経営者）	・国内ホテルの宿泊料金は平均で年8%、都内ホテルは年9%も上昇しつつあるため、ホテル業界は今後ますます良くなる。一方、建設費の高騰で我々中小企業は厳しい環境にあり、なかなか賃金を上げることができない。
	□	商店街（代表者）	・世界情勢が落ち着かないことと、原油価格高騰や実態の伴わない株高などの不安要素が、この裕福な街には微妙に影響している。不安が解消されれば、人出は多く、店の利用もあるため、景気は悪くはならないが、状況が悪化した場合は下振れリスクとなる（東京都）。
	□	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・今夏も暑くなる予想が出ている。補助金関係も始まったので、それによる需要も見込める。
	□	一般小売店〔印章〕（経営者）	・今月は良いといっても持続することはなかなか難しく、微増にとどまっており、変わらない。
	□	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・ゴールデンウィーク後も商材が動くことは考えにくく、財布のひもは固いままではないかと考える。
	□	一般小売店〔米穀〕（経営者）	・こん包資材等の値上げを見据えた客の動きを予想している（東京都）。
	□	一般小売店〔生花〕（店員）	・4月はとてもよく売れた。2～3か月後の7月もお盆があり、仏花がよく売れるため、変わらない（東京都）。
	□	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・本来であればやや良くなると回答したいところだが、現在各メーカーや仕入先から石油由来の商材の供給がなかなか難しくなっているという連絡が入っている。値上げする商材も多くあるため、この先どうなるか分からない。これからの案件もある程度取れていることもあり成長は見込めるものの、それに対するマイナスもあるため、現状維持とみている。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・連休もいつもどおり品物を用意しておくが、どのくらい売れるかは疑問である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	一般小売店〔書店〕 (総務担当)	・輸送費の上昇に悩まされる状況が今後も続くことが見込まれる。加えて、人材確保を短期間で進めることは難しく、売上の増加を見込めない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(売場主任)	・これから大型連休を迎え、気温の上昇により人流が活発化するとみている。イベントの集客が上がり、インバウンドの減少分も国内富裕層による消費が補完し、堅調である(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(総務担当)	・中東情勢の影響による原油価格の上昇や石油製品の供給不足が懸念される。先行きが不透明であり、見通しが立てにくい。現在はまだインバウンドの来街者により街にはぎわいを見せているものの、今後については良くも悪くも見通せない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(総務担当)	・地政学的リスクは依然として収束の気配がない一方で、景気が明確に後退しているようには見受けられない。物価高の傾向も続いており、今後の動向次第では、下振れに転じる可能性もある(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(総務担当)	・中東情勢の影響長期化により物価が上昇した場合には、消費が落ち込むことが想定される(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(営業担当)	・中東情勢の見通しが立たないなか、原油価格の上昇による物価への影響など先行きへの不安要素が多く、消費マインドの低下が懸念される(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(営業担当)	・当店の客は、ガス料金やガソリン代が上がるからと生活を切詰めようとする人々ではないものの、海外旅行を始めとする非日常的なレジャーを控える気運が消費自体を収縮させている(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(販売促進担当)	・富裕層、ボリュームゾーン共に景況感としては悪くないが、原油調達の問題により2~3か月後の商売に向けた資材調達などに影響が出始めており、現況以上の好転を楽観できない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	百貨店(販売促進担当)	・直近の傾向から見て、変わらない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	スーパー(営業担当)	・中東情勢の影響により単価の上昇傾向が続き、特売構成比の割合が更に高くなり、利益を圧迫する(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(経営者)	・本来この時期は来客数が増え、ソフトドリンクが売れ始めるが、なかなか伸びていない。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(経営者)	・ゴールデンウィークの動きが読めず、不安である。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(エリア担当)	・物価の高止まりが続いていることから、来客数、売上共に伸び悩んでいる(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(エリア担当)	・来客数の減少は中東情勢の影響のように大きくなっているため、3か月後も悪いままで変わらない。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(エリア担当)	・値上げの影響により客単価は上がっているものの、来客数は前年と変わらない又は前年割れの店舗や期間がある。売上は値上げの影響で前年を達成しているものの、買上点数は減少している。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ(エリア担当)	・ゴールデンウィーク、夏休み等で一時的な回復は見込まれるものの、物価高が続いているため、全体的には変わらない。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店(店長)	・値上げが続くものの、物価上昇がそれを上回っている。当社の高付加価値商材は、一定の富裕層を対象に今後も狭いマーケットの中で商売をしなければならない状況から、景気は変わらない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店(役員)	・中東情勢の影響に加え、物価高が続き、客は衣料品の購入までの余裕がない。
	<input type="checkbox"/>	家電量販店(店長)	・原油価格の高騰などにより先行きが不透明である(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店(経営者)	・新車販売もサービス部門も前年並みで推移している。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店(経営者)	・中東情勢の行方は予測不能である(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	その他専門店〔貴金属〕(統括)	・物価高などの社会情勢の不安が長く続き、徐々に景気が悪くなっているが、2~3か月先に急に変化するとは考えられない(東京都)。
	<input type="checkbox"/>	その他小売〔生鮮魚介卸売〕(営業)	・原油調達の問題に伴う値上がりについて、メディアが多く報道している(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン（店長）	・中東情勢の影響が観光客に及ばなければ変わらないが、実際には、資材や輸入飲料などに少なからず影響が出ているため、損益にも影響が出てくること懸念される（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン（営業担当）	・直近2～3か月の法人関連を中心とした宴席の予約状況は、ほぼ前年同水準で推移している（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・5月はケータリングが結構あり、予約もそれなりに入っているため、余り変わらない見込みである。レストランの方はほぼ横ばいできており、3か月後も恐らく余り変わらない。ケータリングの売上によって幾らかは変わってくるものの、それほど大きな差はない。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・来月も毎年入る常連客の団体予約が例年どおり入っているため、変わらない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・原油不足等の懸念の影響は大きいものの、それ以上にインバウンドが増加し、街自体はにぎわっている（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・経済的に明るいニュースがない限り、景気の回復は難しい（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（経営者）	・今後2～3か月先も今月と大きく変わらずに推移するとみている。中東情勢の不安定な状況、各種原価等の値上がりに加え、引き続き中国からのインバウンド減少と、不安要素がかなりあるため、先行きはやや不透明である。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員） タクシー運転手	・中国からのインバウンド動向がまだみえない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	タクシー（経営者）	・4月に運賃を改定したため、その分収入は上向している。この先は、原油が入ってこないことから悪くなると予想しているが、これから日を追うごとに暑くなっていくため、タクシーの利用は増える。希望的観測も含めて、変わらない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	タクシー（団体役員）	・業界全体的に良くなってはいるものの、物価高、原油価格高騰の影響により想定ほど伸びない。
	<input type="checkbox"/>	タクシー（団体役員）	・例年3月は良いが、今年は良くない。運賃改定があり、タクシーの乗り控えが発生していく。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（局長）	・中東情勢の行方次第で、端末機器の納入が不安定となる要素が多々あるため、何ともいえない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（管理担当）	・現状同様に芳しくない状況で変わらないと想定される。また、最近の社会情勢に伴う部材費等の原価高騰により、客の乗換え需要を喚起しにくい状況が長期化することが見込まれる（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（管理担当）	・需要が一段落し、案件の掘り起こしを含めた提案強化の段階のため、受注が厳しくなる見込みである（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	・現状ではそこまで大きな変化はないものの、中東情勢の影響によるため流動的である（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	競輪場（職員）	・特筆すべき変化はない。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス〔フィットネスクラブ〕（エリア統括）	・原油価格を含む物価上昇に伴う先行き不安のため、個人消費の落ち込みが予想される（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	設計事務所（経営者）	・一般客は、今家を建てるべきかを考えているのだろうが、活発さがなく、目新しいものもない。物価がここまで上がってしまうと、これからの伸びは小さい。
	<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢緊迫化等の影響により、客が様子見をして動きが止まる可能性はあるものの、今のところは対岸の火事というような雰囲気である。多少の販売量増減はあるとみられるが、当社の場合、多少のコスト増加は販売価格に転嫁しなくても乗り切れると現段階では考えているため、景気は変わらない。
	<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・資料請求件数に変化はないため、変わらない。
	<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・中東情勢の影響から、物価がますます上がっている現状から考えると、商売が非常にしにくくなっている。客が来店しても、なかなか購入にまでつながらない。この先、景気が良くなることを期待しているが、なかなか想定どおりにはいかないのが現実である。このまま決算を迎えると、業績を上向かせることは難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	一般小売店〔家具〕 (経営者)	・世界情勢や物価上昇の影響により、耐久消費財は非常に厳しくなる。当店は内装関係の仕事もあるため多少は営業できているが、厳しい状況が続いている(東京都)。
	▲	一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・物価上昇、社会情勢に対する不安は今後も続きそうであり、良くなる兆しが見えない。
	▲	一般小売店〔乳業〕 (経営者)	・エネルギーや物価の上昇等、今後の流れに鑑みてやや悪くなる(東京都)。
	▲	百貨店(販売促進担当)	・中東情勢の緊迫化が長引くことで、様々な影響が出始める。今後は更に影響が拡大するとみられ、客の生活防衛意識も高まり、景気は悪化方向に動く。
	▲	百貨店(財務担当)	・地政学リスクの高まりによる物価高などが国内客の購買量に影響を及ぼす(東京都)。
	▲	百貨店(企画宣伝担当)	・国際情勢が不透明ななか、ガソリン価格、光熱費の高騰は避けられない。また、それらの懸念から消費マインドの冷え込みが想定される。
	▲	百貨店(管理担当)	・見通しが立たない石油由来製品の製造量回復や、原材料の継続的な高騰により、やや悪くなる(東京都)。
	▲	百貨店(管理担当)	・食料品の販売量減少は社会情勢に対する不安も影響しているとみている。先行きは不透明である(東京都)。
	▲	スーパー(経営者)	・客に余計な物を買わないという意識が垣間みえる。おいしい物や欲しい物はいろいろと買うものの、それ以外はできるだけ節約しようという意識がある。おいしい物や得するような物をどんどん販売していかないと厳しい。
	▲	スーパー(経営者)	・中東の海峡封鎖によりインフレが進んでいる。食品トレイ、ゴム手袋、ゴミ袋など燃料以外の石油製品も不足しており、値上げしている。可処分所得が増えないことには、景気はますます悪くなる。
	▲	スーパー(経営者)	・物価の不安定さが続く。
	▲	スーパー(店長)	・消費者には節約志向が依然として根付いている上に、中東情勢の緊迫化もあり、物価上昇に拍車がかかることは目に見えているため、消費マインドは以前より下降傾向になる(東京都)。
	▲	スーパー(総務担当)	・中東情勢の影響により物価が更にかかることと、省エネ、節約ムードにより消費が冷え込みそうである。
	▲	スーパー(仕入担当)	・中東の海峡封鎖などの影響により、原油を原料とする原材料、燃料が不足しており、大幅な値上げが予測されるため、景気は大きく冷え込む。
	▲	スーパー(食品担当)	・中東情勢の影響により現時点でも物価が上昇しており、収束してもしばらくは現状が続く(東京都)。
	▲	コンビニ(経営者)	・大型店に客が奪われ、インサイドに立地している当店は売上が15%減少している。今後もこれが更に続くともみている。
	▲	コンビニ(経営者)	・近隣住民が少ない上に高齢化により購買力は高くない。当店は、通り抜ける道路沿いに立地しているため、余り期待はできない。
	▲	コンビニ(経営者)	・中東情勢の影響による原油価格の上昇や、店で使うショートニング、揚げ油、ナフサ由来のニトリル手袋等の調達がどうなっていくのかと、営業自体に不安がある。また、客も物価高によってなかなかお金を使わなくなる。特に、コンビニの場合、基本的に定価販売で、高い印象が大手3チェーンでも出ているため、我々中堅のコンビニチェーンはかなり厳しくなっていく。
	▲	コンビニ(経営者)	・中東情勢が落ち着き、原油の輸入量が通常に戻らないと、消費者心理が前向きになり、景気が上向くことは難しい。そのなかで雇用維持のために賃上げも迫られており、厳しい経営状況が続いている。
	▲	コンビニ(経営者)	・中東情勢の緊迫化が明確に終結し、原油価格が下がってこない限り、物価は安定しない。給与所得が上向きより物価高の方が先行しているため、景気が良くなる要因が見当たらない(東京都)。
	▲	コンビニ(エリア担当)	・来客数の減少傾向に変化が余りみられず、店舗周辺施設のイベントも前年より減少傾向にある(東京都)。
	▲	コンビニ(商品開発担当)	・社会情勢に不安がある。値上げや品薄により販売量の増加が余り望めない。今のところ、現状が更に加速していく見込みである(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	コンビニ（従業員）	・商材の価格が上がっても、人々の収入が上がらなければ、物価高が生活をどんどん圧迫していく。人件費は毎年上昇し、商材も値上がりするが、利益は毎年勝手に上がるわけではないため、競争を勝ち抜くための試行錯誤がより必要になってくる。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・数字はできているが、これから原材料価格が上昇するため、その分、利益を確保するのがやや難しくなる。いろいろな分野で多くの物が値上がりしているが、定価を提示した以上、ある程度定価を維持しなければならないため、厳しい状態が続く。
	▲	家電量販店（店長）	・中東情勢の緊迫が長期化すると、間違いなく景気は低迷する。
	▲	乗用車販売店（渉外担当）	・中東情勢の影響が少なからずある。
	▲	乗用車販売店（営業）	・買い控えが増えてきている。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・中東情勢の緊迫化が長引けば長引くほど、国内景気は減退する。現状では先が読めない（東京都）。
	▲	高級レストラン（販売担当）	・原材料、副材料の価格高騰が大きく、販売単価を見直さなければならない状況である。価格転嫁は販売量に大きな影響が出るため、できる限り避けたい（東京都）。
	▲	高級レストラン（経理担当）	・食品ラップやポリ系の手袋など石油由来製品の入手が困難になりつつあり、供給サイドの萎縮が客の消費マインドに波及するリスクが出てくるのが危惧される（東京都）。
	▲	一般レストラン（経営者）	・3か月後も物価高などにより低所得者層は相当厳しくなる。格差が随分拡大しているように見受けられるため、全体的に良くならない。
	▲	一般レストラン（経営者）	・中東情勢の影響が最も大きな理由である。景気が停滞あるいは後退する不安がある。これは全世界にみられることである。今後は中東情勢の収束がどの程度時間を掛けて進むかによって、景況も大きく変わる。状況の収束後も内乱や国外におけるテロ活動の活発化の可能性がある。もし中東の海峡を通る船舶に対して影響があれば、当分は物流の回復が遅れることになり、燃料と石油製品不足による物資不足、運賃値上げ等、多難な状況が予想される。
	▲	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・4月からの値上げ競争により冷え込んだ消費に追い打ちを掛けるように、中東情勢が影響している。ビニール系やプラスチック系の原料は既に販売が制限されている。消費も日々の食事や身の回りに必要な物が優先のため、中東情勢が決着しない限り、景気は更に悪くなる。一般消費者のみならず様々な企業からも先行き不安の声が上がっている。企業が営業休止や廃業に追い込まれるという不安から早く抜け出せないで、景気は悪いままである（東京都）。
	▲	都市型ホテル（経営者）	・中東情勢の影響により景気が悪くなる。安全が脅かされると人々の動きが鈍くなる（東京都）。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・中東情勢の影響によりいろいろな物が値上がりする。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・国際情勢の収束の見通しがたたないため（東京都）。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・旅行や外出を予定していた人々が、ガソリン価格や運賃の上昇からもう少し様子見となるため、当店の利用者が減る。
	▲	タクシー運転手	・物価の上昇が続いており、生活が苦しくなっている。正月明け以降、特に厳しくなり、年度が替わっても何ら変わりはない。タクシーの利用客もやはり減少傾向にある。今後の動向を注視していく必要がある。
	▲	タクシー運転手	・タクシー料金の改定、原油調達の問題、4月からの自転車への交通反則通告制度、そしてゴールデンウィークと、タクシー利用にかなり影響が出そうである。
	▲	通信会社（営業担当）	・中東情勢の変化が様々な業種に負の影響を与える。
	▲	通信会社（経理担当）	・原油価格が上がり、光熱費の請求額も上がりそうだと身構えている。
	▲	観光名所（職員）	・原油調達の問題によりいろいろと影響が出始めていることを実感している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	観光名所（職員）	・現状が続き、前年のような猛暑となれば、前向きな材料は見当たらない（東京都）。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・良くなる情報や材料がない。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・中東情勢の緊迫化に終わりがみえない。UAEのOPEC脱退など、周辺諸国の動きも気になる。石油の安定供給が見込めないと、ゴルフ場で使用する肥料等の供給にも影響が出てくると警戒している。価格高騰にとどまらず、物資の供給ができなくなることが心配である。
	▲	パチンコ店（経営者）	・諸物価上昇が引き続き来店客の足を引っ張っていく。
	▲	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（従業員）	・中東情勢の報道や物価上昇なども含め、良くなる要素が見当たらない。ファミリー層の客単価が落ちており、今後もサービス業にとって苦しい時期が続く（東京都）。
	▲	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（営業担当）	・中東情勢の影響により物価高が長期化するようであれば、レジャーや娯楽消費にも影響が及ぶ（東京都）。
	▲	その他レジャー施設 〔総合〕（経営企画担当）	・中東情勢の緊迫化による石油関連商材や食材の値上げ要請、納期遅れがはじめており、値上げせざるを得ない状況である。値上げ疲れにより消費者マインドも冷え込みつつあり、景気の悪化も懸念される（東京都）。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価高の影響により塾業界でも料金を下げているところがある。生徒の親も教育費が大変だということで、コースを減らす生徒が多く出てきたため、この先の景気は悪くなる。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・問合せ件数や客単価の低下などの状況から、やや悪くなる。
	▲	その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・駅周辺施設の開発が進んでおり、テナント各社も駅前に移転する傾向にある。テナント数によっても売上に影響がある業種のため、今後は悪くなっていく。
	▲	設計事務所（職員）	・社会情勢の改善次第だが、先が見通せない（東京都）。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の先行きが不透明であり、短期間での収束がまだ見込めない。
	▲	住宅販売会社（総務担当）	・一度停滞した受注が戻るには、相当な時間が必要である。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・社会情勢の影響により、消費行動が減る。
	×	百貨店（営業担当）	・中東情勢の不透明さや原油価格の高騰、石油備蓄の枯渇懸念などから、コストの増加や原材料などの不足が予測されている。様々な分野や商材、サービスにおいて値上げが避けられない状況のため、消費行動への悪影響は必至である（東京都）。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	・原油不足の影響により各分野で大幅な値上げが想定される。急激なインフレによる節約志向や買い控えなどの影響が大きくなる。
	×	スーパー（販売担当）	・物価の上昇が続く。
	×	衣料品専門店（従業員）	・世界情勢が不安定ななか、ガソリン価格を始めいろいろな物の価格が上がる予想があり、客の買い控えが心配である。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・円安による輸入品の価格上昇に加え、中東情勢の影響による原油価格の上昇もあり、食料品や電気、生活用品など全体的に物価が上がっている。それに対して、4月にそれだけのベースアップはない。中小企業はなかなか賃上げができず、生活を守るだけでも大変である（東京都）。
	×	住関連専門店（営業担当）	・中東情勢の影響により資材調達コストの増加や受注停止等が既に発生している。消費マインドの冷え込みを含め、今後も大きな影響を及ぼすものとみている（東京都）。
	×	高級レストラン（役員）	・日経平均株価の6万円超えや、米国株価も一部の分野で好調などのニュースもあるが、長期化が予想される中東情勢の緊迫化など、経済の悪化や先行きの不透明感により景気は悪くなる（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	・医療機関ほどではないものの、飲食店でも中東情勢の影響によりゴミ袋やゴム手袋が買えない状態になっており、既に数量制限が掛かっている。
	×	旅行代理店（経営者）	・毎月のように物価が上昇し、食料品も値上がりしており、客が外出や旅行を控えているため、お手上げ状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	旅行代理店（従業員）	・中東情勢の影響により、航空機の燃油サーチャージが上昇している。それに伴い客の旅行マインドが下がり、予算が圧迫されている。
	×	旅行代理店（従業員）	・海外旅行は世界情勢、旅費の高騰、燃油サーチャージの大幅値上げと悪条件が重なり、先の見通しが立たない。予約が入るのは価格の安い韓国などアジア方面ばかりである（東京都）。
	×	通信会社（社員）	・現状の保守的な経営判断が攻めに転じる要因がなく、中東情勢が収束したとしても、回復には相当の時間が掛かる見込みのため、景気は当面下降し続ける（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇の影響により販売数が横ばいのため、悪くなる。
	×	ゴルフ場（経営者）	・物価高の影響により、個人消費、特にレジャー消費は落ち込む。
	×	ゴルフ場（経理担当）	・中東情勢の影響により経済の先行きが不透明であり、今後も素材、エネルギー価格の高止まりが続く。固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、利益を創出できない状況が続くことには変わりはない。3か月後に当たる7月下旬は猛暑が予想され、厳しい操業が予想される。物価上昇、実質賃金低下により、生活防衛を意識し高額レジャー支出の抑制行動が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	×	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・物価の上昇等による値上げや販売価格の上昇がある。
	×	設計事務所（経営者）	・建設資材の不足、価格高騰の先行きが見えない。
	×	設計事務所（所長）	・受注の見込みがない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築資材における先の見通しは、大型物件数も一部に限られ、全体量を押し上げる要素はみられない。リフォーム需要に期待する面はあるものの、中東情勢によって住宅関連資材の製品供給が不足し、想定どおりのスケジュールにはならず、業界全体の動きが停滞する（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)	◎	その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・ソフト開発の引き合いが増えている。7月の定期昇給も前年と同様に実施予定である。
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・現在より予定されている受注量が多い（東京都）。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体関連はAI需要拡大の継続により、大規模な設備投資が進んでいる。順調に設備が立ち上がり、製品開発から製造量拡大となれば、更に景気は良くなる。
	○	不動産業（従業員）	・ホテル宿泊需要は中国以外に東南アジアなど新たな地域が増えているため、引き続き堅調に推移していく（東京都）。
	○	その他非製造業〔商社〕（従業員）	・受注量の見通しから、先行きはやや良くなる（東京都）。
	□	化学工業（従業員）	・中東情勢の影響により原材料の入手が困難になっており、先の見通しが全く立たない。
	□	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高の影響により、サロンの来店頻度が低下している（東京都）。
	□	建設業（経営者）	・物価の上昇に対して、大手企業では賃金が上がっているものの、中小零細企業ではなかなか賃上げが進まず、全体的に景気が停滞している。この状況は当分続く。
	□	輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量と輸出量が低迷している。今後も現状が続く予想である。
	□	金融業（営業担当）	・製造業の経営者は、やはり中東情勢の影響が大きく、先行きが不透明であり、しばらく大きな回復は期待できないとの意見が多い。
	□	不動産業（経営者）	・当社テナント物件の入居率に変化はない。一方で、建物修理、メンテナンスに要する費用の値上がり、部材不足による受注中断など中東情勢の悪影響を多く耳にする。先行きに対する不安要素が大きい。
	□	不動産業（経営者）	・海外情勢次第なので、予測による一喜一憂が続く（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	・先行きが見通せないなか、取引先によって浮き沈みはある程度あるものの、大きな景気の変動はない（東京都）。
	□	広告代理店（従業員）	・現状、6月は良くない見込みである。7月についてはまだ見通しが立たないものの、例年どおりであれば、当月よりはやや良くなる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	税理士	・円安状態が長く続き、150円を超えて160円を超えるところまできている。大手輸出企業は利益が大きく、賃金も問題なく上げられるだろうが、多くの人が関係する中小企業は、逆に輸入している材料費が高騰し、苦しんでいる。賃上げをすると経営者の取り分がなくなってしまうために賃上げも難しく、それで人手不足になり、経営がますます悪化している（東京都）。
	□	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・5～6月の原材料、資材の不足や新たな値上げ予定があり、先行きの不透明感が強い。
	□	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・企業努力で、再度経費を見直し、利益率を上げる。
	▲	食料品製造業（経営者）	・包装資材の値上がり幅が大きく、原材料の値上げより価格転嫁が難しい。
	▲	食料品製造業（経営者）	・中東情勢緊迫の長期化を受けて、原材料価格の高騰が見込まれる（東京都）。
	▲	繊維工業（従業員）	・中東情勢の影響により、原油は元より、原油由来の製品不足により様々な製品の値上げにつながるおそれがある（東京都）。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・ゴム印のラバースタンプは取っ手部分がナフサ由来のプラスチックである。中東の海峡封鎖の影響により、恐らくこれから原材料価格が上がってくるため、どうしても価格転嫁せざるを得なくなることが見込まれる。そのため、受注数が減り、下向きになると懸念される（東京都）。
	▲	化学工業（総務担当）	・中東情勢の緊迫化で原材料の大幅値上げが実施され、供給制限の話も出ているため、先々の操業や受注の見通しが立たない。
	▲	プラスチック製品製造業（経営者）	・中東の海峡の影響を受けて化粧品容器の受注は低迷が続いている。医療品容器の受注は増加傾向だが、材料仕入れが不透明なので警戒している。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・中東情勢の影響が下期に出てくる。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・新年度になり得意先も動いてきてはいるものの、全てが相見積りで価格競争が激しい上に、人件費や機械油などの固定費が上がり続けているため、当分良くなる気配はない。このまま原油調達が厳しくなれば、更に悪くなる。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・中東情勢の影響により、このまま時間が経過すれば、いずれ生産を一時的に停止する取引先も出てくる。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・中東情勢の先行きが不透明であるため、自動車メーカーに中東地域への輸出を控える動きがあり、景気悪化の要因となる。
	▲	輸送業（経営者）	・コストアップ要因は数多くあるものの、価格転嫁がなかなか進まない（東京都）。
	▲	輸送業（経営者）	・原油輸入の停滞により、全ての物の価格が上昇する（東京都）。
	▲	金融業（従業員）	・建設業では、資材価格の高騰や工期遅延から生じる人件費増加など、コスト増加の影響を受ける。また、中東情勢の緊迫化により住宅資材の原料であるナフサの供給が滞り、工期遅延や売上の見通しが立たないなど、資金繰りに対する不安の声を聞く（東京都）。
	▲	金融業（総務担当）	・このまま中東情勢の緊張が長期化すると、建設業や不動産業はかなり影響が出てくる。銀行の金利も上昇しており、住宅ローンを借りている客やこれから購入する客にも影響がある。特に、ナフサ不足に関連していろいろな業種に影響が出てきて、更に物価が上昇する（東京都）。
	▲	不動産業（経営者）	・物価上昇が激しい（東京都）。
	▲	広告代理店（経営者）	・AIツールの活用が更に進むことで、簡易な制作物の内製化が進み、外注需要は今後も減少する可能性がある。また、中東情勢の影響による物流や原材料の供給不安から、仕入れが不安定になっているという声が取引先から聞かれ、事業計画の見直しや投資の先送りにつながる懸念がある。飲食店の動きは、現時点では横ばいで推移しているものの、全体としては先行きに対する慎重な姿勢が続き、やや悪化する可能性がある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	広告代理店（営業担当）	・原料不足の問題などによる生産量縮小から販売量が減少し、広告宣伝費の削減につながりそうである（東京都）。
	▲	経営コンサルタント	・中東情勢などの状況に変化が見通せない。
	▲	経営コンサルタント	・夏を過ぎた辺りから急激に悪くなりそうである（東京都）。
	▲	税理士	・中東の海峡に頼らない原油の調達方法などが議論され、問題が解決するならば、少しは安心できる。AI関連の需要増加によるパソコンなどの供給不足、価格上昇で景気は今より悪くなる。金利の上昇、設備機材不足で住宅購入が延期されるなど、影響は大きい。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・先行きが不安定で、依頼があっても製造できない可能性が高い。数か月は原油関連の影響が続く（東京都）。
	×	電気機械器具製造業（営業担当）	・資材の調達状況が悪化している（東京都）。
	×	精密機械器具製造業（経営者）	・現状、3か月先のオーダーはピーク時に匹敵するくらいあるが、切削油、潤滑油を中心に、あらゆる原材料が値上げされ、発注してもそのとき次第のため、生産量を確保できない。
	×	建設業（経営者）	・中東情勢の影響により悪くなる。
	×	建設業（経営者）	・資材価格の高騰や不足のために学校の改修工事が中止になるようである。今後は、体力のある会社はまだよいが、体力のない会社は厳しい。工事をしたくても資材が入らないのでは仕事にならない。
	×	建設業（営業担当）	・中東情勢の影響により、5月以降、建築資材が大幅に値上げされることから、工事発注量の減少が見込まれるため、悪くなる。
	×	輸送業（経営者）	・車両関連資材、輸送関連資材全てにおいて価格高騰や資材供給への不安が日々大きくなっている。中東情勢が収束しても、回復には時間が掛かるとの見解もあり、安定輸送の持続が大きな課題になると大変危惧している（東京都）。
	×	金融業（支店長）	・メーカー側はある程度の在庫を確保しているものの、流通量を極端に減少させ、便乗値上げが横行している。
	×	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・中東情勢の影響が出始めるため、悪くなる。
	×	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・原油不足の影響により、景気の下振れは免れない（東京都）。
雇用 関連 (南関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（支店長）	・特に中堅の中小企業で人材不足感が強く、人材紹介、派遣を問わず、良い人がいれば採用したいという企業は多い。一方、企業が求めるスキルに見合う人材は各社の争奪戦となっており、依頼数は多いものの、なかなか成約に至らないケースが多い（東京都）。
	○	人材派遣会社（社員）	・採用意欲が強い（東京都）。
	○	人材派遣会社（営業担当）	・例年4月以降までは緩やかな右肩上がり派遣就業者数が増加する。今年も大きな外的要因がなければ同様の傾向になるとみられる（東京都）。
	□	人材派遣会社（支店長）	・仕事は見つかりやすいが、物価上昇が止まらず、消費行動につながりにくい。
	□	人材派遣会社（社員）	・中東情勢次第であるが、長期化すれば、特に製造業において減産等が発生し、求人数にもマイナスの影響が出そうである。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数は例年並みで、特に大きな動きはない。
	□	人材派遣会社（社員）	・次のピークである10月採用までは、大きく依頼が増えることはない（東京都）。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・海外情勢から景況悪化の懸念を示すニュースが多いものの、派遣の引き合い状況や取引先との会話においては景気後退の話題はなく、この先2～3か月でのネガティブな要素はない（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（広報担当）	・しばらくは現状と変わらず求職者に有利な状況が続き、景気が良い状態が続く（東京都）。
□	求人情報誌製作会社（所長）	・相変わらず売手市場だが、企業側の採用が増えない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・求人者数の動きと採用者数の結果からの判断である（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・物価の上昇に賃上げが追いついていない（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・景気は、一時的な悪化への警戒が必要な状況である。特に、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰が、運輸コストや原材料価格の負担増加を招き、企業の心理を冷やし始めている。また、家計への影響については、物価上昇が続くのか、消費者の生活防衛意識が強まっており、飲食やサービス業の景況感が弱含んでいる（東京都）。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・原油やガソリン、各種資材不足による供給不足があり、新たな商材の動きや現場作業が停滞していることから、人材採用の動きも鈍化している（東京都）。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	・現状では採用を抑制している企業も多く、先の採用予定が立っていない。原材料価格の高騰により、生産量も減産のままとなる。
	▲	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少傾向が続いている。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響が更に出るとみている。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・年々就職意識が薄まっていることが、今年度のスタートでも見受けられる（東京都）。
	×	—	—

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)	◎	都市型ホテル（スタッフ）	・大きなイベント等が多く予定されていることもあり、予約は非常に伸びている。また、イベント開催日や休みの日程ありきで予約が動いていることから、宿泊価格によって動きが弱まることもない。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・2か月先まで予約が入っている。
	○	スーパー（経営者）	・期待もあるが、消防署への納品が増えるため、良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・5月に限ってはゴールデンウィークで落ち込むとみているが、気温が高くなるにつれ飲料等の売上が増える見通しである。重油価格の高騰等で再度価格が上昇することもあるだろうが、今のところはそこまで影響しないとみている。
	○	一般レストラン（経営者）	・毎年、夏に向かっては現状より良くなる。現在の世界情勢や消費税の動向によっては、消費控えが出る。
	○	一般レストラン（経営者）	・期待感も込めてではあるが、ゴールデンウィークも含めて人の動きが増えるため、幾らか良くなる。
	○	観光型旅館（経営者）	・現状、6～7月の予約の進捗は前年並みで推移している。ガソリン価格も抑えられているため、国内旅行について大きく減少するような動きはない。航空運賃等が5月から上昇するようなので、特に夏休みの旅行先を海外から国内に振り替える客も一部発生するとみており、国内需要はやや増加する。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・いまだ物価高ではあるものの、ある程度、客も慣れてきている。5月はゴールデンウィークや市内で4月同様に大きなイベント等が開催される。ゴールデンウィーク前半は、客室が満室状態である。しかも、料金的にもかなりの高額で販売しているが、それにもかかわらず、予約が入っている。
	○	タクシー（経営者）	・中東情勢や物価高が危惧されるが、少しずつでも良くなっていくのではないかとみている。
	○	通信会社（社員）	・今期も引き続きサービス提供エリア拡張を予定しているため、単純な加入者数や売上の増加という点では上昇が見込まれる。
	○	遊園地（職員）	・パブリシティの獲得やイベントの開催等、積極的な集客施策や情報発信を行い、より多くの客の来園を期待している。
	□	商店街（代表者）	・状況が好転することを望むだけである。
	□	商店街（代表者）	・新学期が当店の商売ではピークである。昔からの中心商店街だが、今年に入り、人の流れがかなり変わって、今では本当に数えるほどしか人が歩いておらず、心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	一般小売店〔家電〕 (経営者)	・照明器具やOA機器等の在庫確保が厳しくなっており、当然、価格上昇も含めて販売側も厳しい状況は続くともみている。補助金制度等もあるなかで、本当に必要としているところに納品できない状況が出てきそうな気配もある。
	□	スーパー (店長)	・物価高、原油関係の見通しが立たないと、財布のひもは緩まない。減税政策などが明確になるまで、セール日に集中した買い回りになると予想している。
	□	コンビニ (経営者)	・中東情勢の影響が長引いており、なかなか厳しい。当店も厳しい状態で、売上の回復は難しい。
	□	コンビニ (経営者)	・7月は繁忙期のため期待したいが、ガソリンや諸物価の上昇、たばこ税等の上昇が今後も続けば、来客数や客単価に影響が出てくる。客は安価な物や増量セールの商材は購入してくれるが、それ以外は節約志向になっているため、余り変わらない。
	□	コンビニ (店長)	・今月は株価の動きは良いようだが、現場や日常の特別な変化はない。今までどおり、悪いままの状況が続いていくとみている。
	□	家電量販店 (店長)	・世界情勢など不安が大きい。
	□	自動車備品販売店 (従業員)	・数か月先の金利上昇や物価高騰を考えると、節約志向は継続し、今と変わらない。
	□	都市型ホテル (スタッフ)	・現状の宿泊予約数をみると、それほど入っていない。地域の宿泊料金が高騰しているせいか、リードタイムがどんどん短くなっている。
	□	タクシー運転手	・年末から3月にかけて、新人が3人増えた。前月、前々月よりも幾らか売上が増えてきているが、まだ人手が足りない。
	□	ゴルフ場 (副支配人)	・世界情勢が不安定で物価が下がる様子がない。また、来場者の2割を70歳以上の客が占めているため、物価が上昇しても収入は増えない層なので、来場回数が減少する。
	□	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕 (経営者)	・物価やエネルギー価格の上昇など不安定な要素があるものの、今のところは余り影響を受けていない。遠出するより近くで安価に楽しめるレジャーとして選ばれている。
	▲	百貨店 (経理担当)	・中東情勢の安定がみえないなか、石油関連の燃料費、原材料や商材の値上げにつながって物価高となる。客は必要な物以外の購買には慎重で消極的な消費傾向にある。
	▲	百貨店 (営業担当)	・中東情勢がどのようになるか今のところ分からない。長期化するかもしれない、その場合は、現状でも値上げが多いところに、更に物価が上がり、景気はやや厳しくなる。
	▲	百貨店 (店長)	・今後のメーカーからの商品供給に、一部では不透明な状況が出てきているため、今後の売上への影響が懸念される。
	▲	スーパー (経営者)	・ゴールデンウィークの客の動向に注目しているものの、安近短に動きそうである。
	▲	スーパー (企画担当)	・中東情勢の影響が徐々に出てくると考えている。
	▲	コンビニ (エリア担当)	・物価上昇に対して、可処分所得の増加が追い付いていない。
	▲	乗用車販売店 (経営者)	・新車販売難に加え、オイルなどメンテナンス部品の欠品などもあり、整備売上にも影響が出てくるおそれがある。
	▲	その他専門店〔酒〕 (店長)	・売上はカバーできると考えるが、内容は変わってきている。一段と物価高が厳しくなっており、賃上げで反映されればよいが、各種ローンや様々な保険等も値上がりしている。酒の値段が高くても堅調に推移していけばよいが、容量等を非常に厳しくみる客もいるため、慎重に対応していかないと厳しい。資材の入荷等についても危惧しており、売上が落ちる可能性もある。
	▲	高級レストラン (経営者)	・世界的な政情不安から、物価高騰や物資の入荷不足等が止まらず、明い兆しさえみえない。
	▲	スナック (経営者)	・いろいろな物の価格が更に上がりそうで、仕入れが厳しくなるのは確実である。しかし、値上げをしてそのまま客に受け入れてもらえる状況ではないため、景気はやや悪くなる。
	▲	スナック (経営者)	・今回の歓送迎会は、前半ほとんど動きがなく、後半になってようやく少しずつ動いたので、大分遅いスタートになってしまった。それももう落ち着きつつあり、通常営業に戻るため、団体客の来店が少なくなることから、売上にも確実に影響してくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	旅行代理店（副支店長）	・原油供給の不安定さや物価上昇による旅行控えが考えられ、更に受注が減少する。インバウンドのオーバーツーリズムの影響もあり、国内観光地の混雑や業界施設の高騰を受けて、日本人客の利用は冷え込むとみている。
	▲	通信会社（社員）	・中東情勢等の影響により、販売単価が上がり続けている。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・塗料がない塗装業、ボンドがない建具業など、原料不足で休業せざるを得ない町工場等の情報を耳にする。それらがポディーブローのように影響しないことを祈るばかりである。
	×	商店街（代表者）	・今後の景気に良くなる要因がみえず、閉塞感がある。
	×	コンビニ（経営者）	・この先も悪くなるとみている。
	×	乗用車販売店（経営者）	・エンジンオイル、ブレーキオイル、シンナーが出荷停止になっている。
	×	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の影響により、悪くなる。
	×	観光名所（職員）	・国内客の旅行控えがある。中東情勢の緊迫化が続く限り、物価高に対する節約は、観光事業としては大打撃である。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
	○	建設業（経営者）	・工事の間合せが少しずつ出てきているため、受注につながることを期待している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の受注が多く、しばらくはその対応で多忙である。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・出張販売などで売上を立てるが、量販店の減少分には追い付かない。
	▲	食料品製造業（総務担当）	・原料等の高騰によりやや悪くなる。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・原材料価格の高騰が続いている。高騰だけでなく、数量制限が掛かる材料も増えているため、生産ができなくなることが心配である。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・6月からの値上げ要請がかなり来ている。それも含めて材料の入荷が非常に困難になっている。下手をすると完全に操業ができなくなる可能性も考えられるため、景気は悪くなる。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・売れているのは金製品が中心である。特に、将来の資産価値を見込んでネックレス等では金製品が売れているものの、その他の製品の動きは鈍い。小売店は来店客の減少で苦戦している。
	▲	金融業（調査担当）	・中東情勢の緊迫化の影響により、石油製品など原材料等の確保や価格上昇を懸念する企業が増加しており、マインドが大幅に悪化する見通しである。非製造業では、ゴールデンウィークを含めた春の行楽シーズンへの期待はあるが、製造業の関連企業では取引の減少が予想されるなど、マインドの悪化を予想している。
	▲	金融業（経営企画担当）	・中東情勢の影響の長期化が懸念され、原材料不足や更なる物価高騰により、景況は悪化すると考えている。
	▲	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・中東情勢の不安から、事務用消耗品関連でも値上げが始まっている。売上が前年並みで推移しているなか、経費負担の増加は避けられず、利益圧縮につながると予想される。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	・世界情勢の影響が、物価や建築関係など身近なところで発生していると実感している。
	□	職業安定所（職員）	・労働環境や労働条件をより良くしたいという求職者の意向から、求職活動が活発化している部分がかがえる。一方、賃上げなどの対応から求人条件の改善がなかなか進まない状況も散見され、就職件数が直ちに増加する状況にはならない。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢が日本経済に与える影響が、より一層不透明となっており、今後は日本企業の収益悪化等が懸念される。
▲	民間職業紹介機関（経営者）	・目先の業務量はあるものの、円安、物価高、原油等の調達不安から、企業マインドの弱含みが続いている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	—	—

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)	◎	百貨店（販売促進担当）	・今後しばらくは富裕層の購買による単価上昇が続くと予測している。
	◎	スーパー（経営者）	・20年に1度行われる神社の伝統行事に伴う民俗行事が始まり、地域の活性化に期待している。
	○	商店街（職員）	・当地域の中心街では、6月に高層ビルがオープンする。
	○	商店街（代表者）	・エアコン値上げ前の買換えの動きが出ているため、販売は好調に推移する。
	○	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・今のままでは困る。景気が良くなることを期待する。
	○	百貨店（経理担当）	・中東情勢は落ち着いても、原油価格が以前の水準まで戻り切らず、ガソリンや生活用品の物価高から個人消費は力強さを欠き、景気は緩やかな上昇にとどまる。
	○	家電量販店（店員）	・客が商品を選んで決定するまでのスピードが速いケースが多い。
	○	家電量販店（営業担当）	・世界情勢が分からないが、夏物商材、エアコン、冷蔵庫の販売に大きな期待をしている。
	○	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・エアコンが売れている。エアコンと蛍光灯の規制変更についてマスコミ等で取り上げられることが多くなり、安いうちに買換えたい客の来店が増えている。この傾向は来年3月まで続くとみられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の影響により消費者は大型消費財への支出にちゅうちょしているとみる。また、今後はナフサ不足の影響により車両生産の混乱が予想されるため、販売にも大きな影響が出ると懸念される。
	○	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・円安や物価高騰、原油価格変動などの影響次第で、消費者が敏感に反応するとみるが、夏頃には一段落すると予測する。
	○	旅行代理店（経営者）	・中東情勢の影響によっては、景気が停滞する可能性もある。
	○	タクシー運転手	・全体的に、雰囲気が明るい。
	○	通信会社（サービス担当）	・アナログ回線終了に伴い、代替サービスへの切替えをする際にインターネットを始める人が増えつつあるため、少し景気も良くなる。
	○	美容室（経営者）	・6月～7月は暑くなってくるため、外出は大変であるが、髪が伸びてきた客の来店があることを期待する。
	□	商店街（代表者）	・商店街への来客数は安定しており変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・米国大統領の対外政策が変わらない限り景気回復は望めない。
	□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	□	百貨店（売場主任）	・今月は15日に年金が振り込まれて来店する客が多かった。15日以降の数日間、午前中はカジュアルシューズやウォーキングシューズを見に来る年配の客が多かったが、やはり値段が高いため、安い他店へ流れてしまった。セールを実施しても、1万円の靴は売れるが、2万円近くになると皆ちゅうちょしてしまって売行きが上がらず、全体の単価が低いため、今月の売上は厳しい。
	□	百貨店（営業担当）	・物価高で、1つ買うにも悩む傾向が続いている。
□	百貨店（営業担当）	・値上げが相次ぎ来客数は若干減っているが、単価の上昇でカバーできているため、すぐに大きな動きがあるとは考えづらい。	
□	百貨店（販売担当）	・購買意欲の高い客による購入は継続するが、全体としては慎重な動きもみられ、景気が良くなるとは言い難い。	
□	百貨店（販売担当）	・シール、フィギュアなど趣味性の高い商品が好調。季節商材は暑くないがUV関連商品の出だしが早く雑貨全体として好調である。	
□	スーパー（店長）	・買上点数が改善傾向にある。	
□	スーパー（店員）	・変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・いろいろな状況で商品の値上げが予定されているが、米の値段が落ちてきている。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・中東情勢の影響が懸念されるなか、慢性的に続く人手不足、人材不足の改善は、今後更に厳しくなる。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・年間トレンドではピークに入っていく時期だが、大きな改善は期待できず、現状維持からの変化はない。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・今年の前半より来客数が前年比で2～5%下回って推移している。来客数が上向かない限り、景気の向上は見込めない。ただし、値上げ等の影響により客単価は上がっているため、売上等は前年並みを維持できるとみる。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（販売企画担当）	・物価高で、衣料品に回す金が減っているとみる。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（売場担当）	・SNSの検証動画で当社の完全ノーアイロンのワイシャツが1番良いという結果が出ていて、それを見て買いに来たという人もいる。これからはスーツではなく、単品でノーアイロンのワイシャツやパンツを買う人が増えてくる。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・良くなることを期待したいが、今の状況は急には変わらないとみられる。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・良くなる要素がない。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・具体的なネガティブ要素はなく、勢いはないが悪くない。このまま推移するとみる。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・1台1台大切に販売することにより利益を確保できているが、販売できる車種が限られており、半数以上の車が販売停止になっているため、販売台数は年々減少している。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・5月は例年売上の落ちる時期ではあるが、今月が良くないため、今以上には落ち込まないであろう。ただし、上がる気配も今のところみられない。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	・自動車の登録に関わる環境性能割が4月から廃止になったが、客の反応は少なく、余り効果は期待できない。今後もどうなるか分からない。現在、低金利のフェアを行っており、どこまで客に還元されるかによるところである。
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営企画）	・中東情勢から消耗品を中心に値上げ要請が届いている。また、納品制限も今後出てくる見込みであり、運営そのものが不透明である。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（従業員）	・物価高騰が続くので先行きが見えない。
	<input type="checkbox"/>	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・取引先から円安による値上げの連絡が増えている。当社も値上げを検討しており、業務用の需要は冷え込む。
	<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約数は5%ほど前年に満たない状況であるが、今月もほぼ同様であるため変わらない。中東情勢の不安定化や物価高により顧客心理が冷え込み、金を使うことをためらう人が多い。
	<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（支配人）	・予約状況は前年を上回り、来客数の増加を見込んでいるが、原材料費、人件費及び修繕費（設備補修費）等のコストが上昇し、収支全体でみると予断を許さない状況である。
	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（経営者）	・ゴールデンウィークやそれ以降の企業イベント開催日の集客に期待しているが、引き続き、同業他施設との競合やガソリン代高騰の影響が懸念される。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・石油不足と物価高のダブルパンチで、当面この状況が続く。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・7月1日以降のパスポート申請手数料の値下げについて正式発表があったが、5月1日から燃油料が非常に値上がりし、先行きがどうなるか分からないのに旅券の申請だけを行うとは考えられない。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（経営者）	・中東情勢の影響なのか、様々な原材料が不足し始めている様子が見受けられる。スーパーの広告が減り、レストランのメニュー料金が頻繁に改訂されたり、様々な工夫を重ねている割に来客数は回復していない。競合先の廃業や減少により持ちこたえているが、街中でも閉店が目立ち始めている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	タクシー（従業員）	・前年下期から、乗車料金の値上げが認められたこともあり、売上は伸びているが、来客数はほぼ前年並みとなっている。エネルギーを含む物価高の影響により、法人客、個人客共にタクシー利用を控える傾向になる。また、売上は伸びているが、燃料費が異常なほど値上がりしており、利益面での減少が見込まれることも懸念材料となっている。
	□	テーマパーク職員（総務担当）	・取引がなかった納品業者から価格を抑えた商品の売り込みがあった。どこもこれ以上経費負担はしたくないため買い控えして在庫過多になっていると考えている。在庫の有無は企業規模で大きく分かれているようで、大手は出る量が多いため不足気味、小規模店は在庫を抱え売れ残った商品を現金化したく薄利で販売していると推測している。
	□	観光名所（案内係）	・当地域では大きな自然災害や地震発生がこのところ起きていない。近々大きな地震が来るという漠然とした不安感を皆持っている。
	□	ゴルフ場（経営者）	・夏頃に同業他社が近隣にでき、顧客流出が予想される。
	□	美顔美容室（経営者）	・今月と同様に、新規客の来店がキープ品の販売につながるのとみる。
	□	住宅販売会社（従業員）	・どこまで影響が出るのかまだ予測できない。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・中東情勢の影響が収束しない限り、このような状態はこれからも続く。何もかもが値上げになり、余分な出費は控えるようになる。
	▲	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・3か月先は更に石油関係の資材が高騰し、様々な物の値上げが懸念される。企業は物価高に合わせて賃上げを実施したいところではあるが、情勢をみて一旦控え、投資も少し控えるものとみる。原油価格の高騰に伴う輸入コストの上昇及び企業の投資抑制の動きから、3か月先の景気はやや悪くなると判断する。
	▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・物価の上昇のなか、高額商品は買い控え、安い物に流れている。明るい材料がない。
	▲	百貨店（総務担当）	・百貨店の販売や仕入れに関し、原油やナフサ不足の影響は今のところ感じないところではあるが、電力やガスが6月頃に値上げする報道もあり、消費者の財布のひもは固くなる方向と想定している。当地域は製造業が多く、中東情勢に商圏が左右されると見込んでいる。中東情勢と比例することなく、株高が続いているが、富裕層の購買意欲が一段と高まっているような状況も見受けられず、5～6月は苦戦するものと想定している。
	▲	百貨店（営業担当）	・中東情勢の影響により資材不足、値上げが既に始まっている。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響による資材や石油等の値上げに伴い、節約志向が高まり、買上点数が減少すると懸念する。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響から、買い控えが今後も考えられる。
	▲	スーパー（店員）	・これから夏に向かって30度を超える日が増えるとぐっと午後の来客が減る。さらに、売上を押し上げる旬の商品がないため売上は悪くなるとみられる。
	▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーの値上げが続く苦戦しているなか、ナフサ不足絡みによる包材関連の値上げも噂されており苦戦が見込まれる。
	▲	スーパー（支店長）	・物価上昇に加え、いまだ先の見えない中東情勢により我が国の産業が大きく揺るがされているとみている。
	▲	スーパー（販売担当）	・様々な意味で不確定なことが多く、消費意欲を抑制される状況は変わらないとみる。ナフサの状況次第では多くの商品に影響が出る。販売方法改正や消費税の方向性により小売業ではレジの改編等も求められ、消費の拡大につながるかは予見しにくい状況が続く。
	▲	コンビニ（店長）	・中東の海峡封鎖による影響を懸念する声が聞こえてくるようになった。物流の停滞や値上げが予測されるため、景況感はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（企画担当）	・物価の上昇による影響が徐々に出てきている印象であり、値上げの波は今後も継続すると想定されるため、更に悪くなるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢が不安定な状態が長期化することによって、石油に起因する様々な物の価格が上がり、消費の冷え込みを招く。
	▲	コンビニ（店長）	・物価高に中東情勢が加わり、商品の値上げが更に加速する。包材や販売促進物の値上げにより、商品の価格は更に上がる見込みである。売れ筋のおにぎりが単価200円を越すと低価格の菓子パンに客が流れ、売上が下がるおそれがある。
	▲	コンビニ（店長）	・石油精製商品等の原材料確保に対する不安もあり、商品の値上げは続き、消費は一層冷え込む。著名人監修のお茶や専用マシンの導入など話題性のある商品の投入に支えられ、何とか「やや悪くなる」にとどまるとみている。
	▲	コンビニ（商品企画担当）	・中東情勢の兼ね合いで、一部商品の供給が不透明な状態が続くことから、今後の情勢によっては商品の更なる値上げや供給不足で影響が出てくる。
	▲	コンビニ（本部管理担当）	・記録的な株高や継続的な物の価格上昇といった表面的な経済指標の動きとは裏腹に、一般消費者の日常生活における実質的な景況感決して上向きではないと肌で感じており、家計の圧迫による消費マインドの冷え込みが今後更に顕著に表れることを懸念している。
	▲	衣料品専門店（店長）	・中東情勢の影響により、石油由来の原料を使用する塗装関係や建設業、中小工場関係の客から業績悪化への懸念の話をよく聞く。主に手袋など店で仕入れる商品の入荷が遅れており、今後は入荷数の減少や価格上昇が見込まれるため、売上への悪い影響は避けられない。
	▲	衣料品専門店（売場担当）	・中東情勢が物価高騰に影響を及ぼすといわれている。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・中東情勢による影響で、いろいろな材料や部品が今後入荷しなくなる予想があり、生産や販売がストップしてしまうのではないかと懸念している。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・長引く物価高が家計をますます圧迫する。中東情勢が長引けば影響が大きくなる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢等、今後どうなるか不透明である。これらの影響によっては、景気が更に悪化する可能性がある。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・今後は生活関連の物価高騰が続く見込みで、更に原油製品の品薄感が広がると春に賃上げがあっても、生活に関連した支出を絞らざるを得なくなってしまう。客の商品に対するお買い得感や、必要性に対する選別が厳しくなり、客の財布のひもはまだ固い状況にある。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢の影響で、石油由来の製品が入ってこなくなったり、これまでに比べ倍以上の値上げを通告されている。特に自動車に必要なエンジンオイルやブレーキオイルが欠品になっていて、顧客対応に非常に苦慮している。
	▲	住関連専門店（営業担当）	・中東情勢の影響が長引いているため、商品が入ってこない。また、品切れなどで受注見込みが悪くなり、工事が遅れている。一般顧客からの引き合いは多く出ているが、このような問題が長引くとみる。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・低迷状況であることに加え、ウクライナや中東情勢の不安定さの影響等から、先行きは極めて不透明である。
	▲	一般レストラン（経営者）	・現在の世界情勢を考えると、我が国の経済が将来的に上向きになるようには思えない。
	▲	一般レストラン（経営者）	・物価高が原因であり、値上げができないことが痛手である。
	▲	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・時間差でじわじわと影響が拡大してくる。
	▲	都市型ホテル（総支配人）	・季節要因及び原油価格の高騰で、仕入コストが軒並み上昇しているが、価格転嫁は困難となっている。加えて、飛行機の減便が外国人旅行者にどのような影響をもたらすかも注視が必要である。また、当社はA重油を2社から調達しているが、そのうち1社から納品を拒否されており今後の調達を非常に危惧している。
	▲	都市型ホテル（営業担当）	・中東情勢が不安定で株高の状態でも先が見通せない。また、自粛傾向が徐々に強くなることを懸念する。
	▲	旅行代理店（経営者）	・中東情勢次第では、今後物価高の影響を受ける。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	旅行代理店（営業担当）	・上期の団体旅行の受注案件は6月出発をピークに推移しており、7月～8月にかけては減少する見込みである。背景としては猛暑が懸念されることと、バス代高騰の影響を受け、夏休み期間における子連れのパス利用行事や部活動送迎についても全体的に需要が縮小する傾向にある。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・5月～6月の燃油サーチャージが約2倍、更に中東の海峡封鎖による原油未達の影響が出て値上げは今の2.5倍になるといわれている。さらに、来年度からは国内線でも燃油サーチャージの導入が検討されており、ますます旅行代金は上がり続けるため、不安要素は計り知れない。
	▲	タクシー運転手	・本来は気候も良くなって客の動きも良くなる時期だが、中東情勢の問題で余計な経済悪化が発生しているため、身近な客の動きが非常に悪い。このような問題がなければもっと上向いているはずが、全く逆の方に進んでいる。中東情勢問題が終結しなければ、今後もっと目に見えて悪くなっていく。
	▲	通信会社（営業担当）	・世界情勢により値上げの影響は続き、物流も悪くなる。
	▲	テーマパーク（職員）	・中東情勢の影響が収束しない限り難しい。
	▲	パチンコ店（経営者）	・繁忙期を迎える月だが、いろいろな物が値上がりとなり、娯楽に使用できる金額が圧迫される。
	▲	パチンコ店（従業員）	・来客数は今月と同程度で推移する見込みである。
	▲	理美容室（経営者）	・客との話では、物価ばかり上がり賃金は上がらないため、生活は大変なことである。
	▲	美容室（経営者）	・まだこの先値上がりが続くと見込まれるため、当面は景気が悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・中東情勢の影響が大きい。
	▲	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・素材メーカーが値上げをすると、中東情勢の影響が収まったとしても、元の原価に戻ることはない聞く。福祉用具貸与事業は、介護保険で上限価格が設定されているため、利益を削るか、貸与製品の延命を今まで以上に努力しなければならぬ。補修部材のコストが上がり、また、人件費や業務委託費用も上がると身を削ることばかりである。
	▲	設計事務所（職員）	・ますます石油が足りなくなることから、物価が上がってくる。それに対し、景気は相変わらずだと見込まれる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・中東情勢の影響により大手企業でもナフサ等の不足が深刻化する。また、建築資材等の不足や高騰により体力のない中小零細企業の倒産が増加する。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・これから6月7月と値上げの情報が入ってきている。値上げ前に購入というのも通常はあるがユニットバスの納期遅れ、塗装に制限があることなど先送りした方がいい内容が多く、買い控えの風潮が進むと考える。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・住宅に関する補助金が出ても、ますます建材価格が高騰し着工に至らない。施主も慎重になり、不安がっている。この先、更に影響が広がらないか心配である。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・中東情勢の問題などで、住宅を建てること自体が難しくなっていることから、買い控えが広がる。
	▲	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・夏は閑散期で全く期待できない。
	×	商店街（代表者）	・原油の輸入が不安定であるため、どうなるか不透明ではあるが、米国とイスラエルが現状のままであれば非常に厳しい状況になる。
	×	コンビニ（店長）	・4月は周期的に雨も降り気温差も大きく、業績は振るわなかった。天候のせいなのか、物価高のせいなのか分からないが、今後も景気の上昇は期待できない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・生活必需品の値上げラッシュが落ち着くまでは、消費者の購買意欲は低いままの状態が続く。
	×	乗用車販売店（営業担当）	・現在の情勢における物流の停止が、これから顕著になってくる。部品価格の高騰、単価の高騰にもつながるため、客の買い控えなども出てくる。
	×	通信会社（企画担当）	・物価高に加え、石油系原材料の物不足、海外情勢の先行きに不透明感など更なる悪化が見込まれる。端末、光ファイバー等の資材不足により、営業を抑制せざるを得ない状況である。
	×	設計事務所（経営者）	・良くなる気配は全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	住宅販売会社（従業員）	・資材及び人件費の高騰で、理解できない客が発注を我慢するようになってきている。
	×	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・元請もほとんど受注していない。見積依頼が来ても7月からの価格上昇がどの程度になるのか予想できないため、見積り提出ができない。
企業 動向 関連 (東海)	◎	—	—
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・部品の原価が上がっており苦しいが、客先業界全体の設備投資が期待できるため、良い傾向であるとみる。
	○	金融業（企画担当）	・中小企業においては、大手企業ほどの賃上げは難しい。発注先による経費の見直しが浸透すれば賃上げにも向きやすいが、浸透するにはもう少し時間を要するとみる。
	□	食料品製造業（社員）	・中東情勢が依然不透明であり燃料価格上昇が懸念されるが、景気対策等で短期的に影響は最小限に抑えられる。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・中東情勢の影響により、原油価格が高騰している。そのため、原材料価格が上昇している。また、円安も進んでおり、2～3か月先も現在と同様の景気が続くともみる。
	□	化学工業（総務秘書）	・特段景気が下がるようなトピックが見当たらない。中東情勢の緊迫が懸念材料であることは間違いなく、ドル円為替が160円に到達する場面があり、世界で有事と捉えられている。中東情勢の大きな動きがあれば、経済の見通しの予測はしやすくなるとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量見込みから判断した。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	・相変わらずAI需要に支えられた半導体関連の設備投資の勢いが衰えない。引き合いも多いが、いきなり受注になる案件も多く、勢いがある。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・特に良くなる要素もないが、悪くなる見込みもない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・生産量について、直近1年は過去と同様に推移している。また、材料等の値上げはしているが販売量に変動がないため、需給バランスが取れた状態が続いている。
	□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・人材が定着しないのはほかに選択肢がたくさんあることによるもので、景気は上がっているとみる。
	□	輸送業（従業員）	・原油価格が不透明であるため、先行きは見通せない。個人消費も伸びていない。
	□	輸送業（従業員）	・原材料価格の高騰で収益が減ると予想している企業がみられる。
	□	通信業（法人営業担当）	・景気の変動に影響を及ぼすような政策や新しい技術もなく、労働人口といわれる世代一人一人のやる気は、アジア圏の外国人と比較すると著しく低い。第二次ベビーブーム世代が現役引退する5年後くらいまでは現実を維持できるが、それ以降は悪くなるとみる。
	□	金融業（従業員）	・夏休みやお盆による人の移動があり、様々な需要は高まるとみる。一方で、ゴールデンウィークは遠出をしない人が大半であったことから、日常生活に余裕がないことも考えられる。
	□	不動産業（経営者）	・今後も晴れの日が多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後も売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
	□	広告代理店（制作担当）	・夏に向けてのイベント等は、近年猛暑が予想されているため、時期をずらして実施する企画も見受けられる。
	□	会計事務所（職員）	・前回のオイルショックと違い、今回は企業活動に対する影響が報道されている。トイレットペーパー等の日用品の買占めもみられない。ガソリン価格も政府の対策で大きく上がっていない。皆が用心して消費活動をしている。
	□	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・円安がずっと続き、我が国のかじ取りが非常に難しくなっている。是非とも我が国に仕事を回復させて、20年前のように日本を活性化してほしい。法制度の変更により、3分の1は我が国に仕事を残すべきである。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・値上げが販売数に大きく影響している。先の見通しも悪い。
	▲	食料品製造業（経営企画担当）	・包装材料の値上げ、供給不足がいよいよ深刻化しており、早急な対策を求められている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	窯業・土石製品製造業（社員）	・原油不足から来るナフサ入手難の影響から、こん包用資材の供給制限が始まっており、製品を作ってもこん包できず、出荷できないという状況が起こるといった懸念が現実味を帯びてきている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・中東情勢は別にしても、本年度の見通しは夏頃の仕事が少ないというのが専らの声であったので、中東情勢を含めれば更に厳しい見通しでしかない。
	▲	建設業（役員）	・石油が入ってこないため、建築資材に影響が出始めている。建築ができない、建築費が高騰するとの情報が交錯して、消費者の土地購入意欲にブレーキが掛かる。自社は土地の仲介物件を主に扱っているため、売れなければ売上に影響が出る。
	▲	輸送業（経営者）	・燃料代の上昇に加え、物流で使用されるこん包材などの資材につき軒並み値上げ通達が来ている。
	▲	輸送業（従業員）	・原油供給不足に関して先が見通せない状況がこのまま続けば、景気が悪化するの避けられない。
	▲	輸送業（エリア担当）	・原油問題から様々な分野で需給バランスが崩れ受注に影響を及ぼす。
	▲	輸送業（エリア担当）	・原油調達不足により、運ぶ荷物が作れなくなる、若しくは手術ができなくなるために出荷量が減るかもしれないとの不安がある。
	▲	金融業（従業員）	・物価が高くなっているが、給料はさほど上がっておらず、景気は良い方向に向かっていない。また、石油関係の問題もあり、今後の見通しとして皆節約をしているイメージが強い。ため、景気としては余り良いムードにはなっていない。
	▲	会計事務所（職員）	・石油不足のため、あらゆる物の値上げや潤滑油、塗装用シンナーなどの供給不足が発生し、自社工場の稼働停止のみならず、受注先における大元の組立ラインを停止することも想定に入れなければならない状態となっている。
	×	化学工業（営業担当）	・原料メーカーよりプラスチック原料の供給制限があった。4月上旬から一部製品については生産停止、供給制限を行っている。5月以降も同様な状況が続く見込みであり、6月以降は不透明である。汎用製品への影響も出る可能性がある。
	×	鉄鋼業（経営者）	・需要の停滞に加え変動する石油や石油製品の調達難が暗雲を発生させている。
	×	金属製品製造業（経営者）	・原油の輸入減少もあり、材料の値上がり、今後の需要減少を見込んで秋頃までの注文を受けるケースもある。先行きを見定める動きもあり、量的に拡大が見込めない状況である。
	×	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・中東情勢の影響が続いていて原油価格高騰が続く。いろいろな物が不足し電気代にも降り掛かってくる。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	・新年度向けの販売が落ち着き、輸入商品の値上げが続く。
雇用 関連	◎	—	—
	○	*	*
(東海)	□	人材派遣業（営業担当）	・中東の海峡問題の状況次第で、良くも悪くも変動する可能性を秘めており、予測が困難である。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・中小企業を中心に人手不足の状況に変化はないが、人件費などのコスト増加により採用計画を見直す企業が増加している。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・ポジティブなニュースが見当たらない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・塗型に使用するメタノールの入手状況が悪く、国内自動車メーカー関連のメイン発注企業においては夏頃まで必要分は保有している様子である。今後入手が困難になれば、自動車製造ラインを止めることになるが、是が非でも回避しなければならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	職業安定所（職員）	・原材料費や燃料費、運送費や人件費などの各経費の高騰、並びに金利の上昇傾向によって、価格転嫁を進めることが困難な中小企業では事業活動への大きな負担が長期間継続しており、かなり厳しい状況となっている。一方で受注が堅調な産業もあるが、物価高騰などに伴う消費動向の停滞、世界情勢を踏まえた経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子見をしている産業も少なくない。一部求人提出を控えている産業が見受けられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、世界情勢次第ではあるが、直近での景気動向の大きな変化は生じないと判断している。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢が想定以上に停滞しており、物価を含めて、人材関連にも影響が出始める。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響が長引けば下振れリスクもあるが、現状では判断がつかず現状維持とした。
	□	職業安定所（職員）	・インタンク向けの軽油について、現在と同様に供給不足が続く見込みであるが、手に入らない事態までにはならないと予想しており、事業自体は引き続き問題なく運営できる。
	□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・大きく動きのあった年度初めの時期から一旦、落ち着く想定がある。ただ例年よりも業界により偏りはあるが人手不足の状況は更に深刻な状況もあるため、大きな落ち込みはない予測である。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・上期のキャリア採用オープンにより求人数が増加する時期でもあるが、業界・個社単位で世界情勢も見据えながらキャリア採用の取組に濃淡が出ると推察する。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用の動向について、物価高騰等の懸念はあるが、今後2～3か月先で大きく変化することは想定できない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・リニューアルオープンを控えているため期待はあるが、良くなる要素が余りない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車部品メーカーにて、2026年度は電動化や運転支援、自動運転の領域でコスト面は厳しくみられており、2～3か月後には9月末で業務終了の話が増え始める可能性がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・4月に入り、各社商品の値上げをしておりガソリンを始め、油など軒並み単価が上がって家計を圧迫している。消費を減らす、余分なものは買わないのは変わらない。
	×	人材派遣会社（社員）	・中東情勢が好転する見込みがない。
	×	職業安定所（職員）	・国際情勢が不安定であり、取引先から値上げや一部取扱停止などの情報が入ってきている。中東情勢の影響が現れ始める。
	×	職業安定所（職員）	・製造業で塗装に必要なシンナー等の原料供給が滞り、5月後半には塗装ができず納品できない状況にあるという声もあるなど中東情勢の影響が広がりつつある。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・5月のゴールデンウィークを控え、国内観光客の更なる増加が確実視される。現在の欧州やアジアを中心とした多国籍なインバウンドの勢いも衰えておらず、中国からのインバウンドの回復が鈍くても、全体としては前年を上回る推移が続くとみている。
	○	家電量販店（店長）	・エアコンの新たな省エネ基準により、省エネ基準改定前に前倒しでの販売が増えていく。
	○	家電量販店（店長）	・毎月の最寄品の値上げに対する不安感から、家電製品の計画的な買換えが増えていく。
	○	乗用車販売店（経理）	・新車のモデルチェンジで、販売増加に一定の効果があるとみている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・今後も施設のリニューアルを予定しているため、引き続き来客数の増加を期待している。一方、改装資材の入手が困難かつ価格も高騰しており、設備投資のコスト増加は懸念材料として残る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	一般レストラン（店長）	・5月はゴールデンウィーク中の2～6日の予約は入っているが、その他はこれからである。
	○	タクシー運転手	・この先は季節も良く観光客が増えるとみている。また、豪華客船の寄港予定も多くある。
	□	商店街（代表者）	・経済の不安定な状況がまだ続きそうな気配があり、その影響に不安感を持つ飲食店が多い。
	□	百貨店（売場主任）	・世界情勢が不透明で、しばらくは厳しい状況が続くとみている。物価高の影響により中間層は家計が厳しいことから、株高の恩恵を受けている富裕層へのアプローチを強めていく。
	□	衣料品専門店（経営者）	・当面は石油関連などで不透明な動きが続くものとみられ、景気の上昇には至らないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・石油由来の製品価格の上昇がどの程度になるか不透明だが、おおむね2～3か月はこのままの購買意欲を見込んでいる。
	□	家電量販店（本部）	・リフォーム関連商材における供給の不確実性やパソコン関連部品の高騰など、世界情勢を要因とした供給や価格動向が不透明な商品が増加しており、楽観視は難しい。
	□	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン代の高さや税負担の大きさが変わらないため、しばらくはこの状況が続くとみている。
	□	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の影響によりインフレの兆候はみられるものの、車の販売は新車、中古車共に一定の需要が継続している。
	□	観光型旅館（経営者）	・現状では例年並みの売上を確保しているが、原油の問題、地震や異常気象などの自然災害、及び物価上昇など、経営努力ではどうにもならない外部要因が大きすぎて先行きが不安である。
	□	観光型旅館（経理）	・2024年の能登半島地震以降、休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門はインバウンドが引き続き堅調だが、航空運賃値上げの影響を懸念している。
	□	タクシー運転手	・物価高を理由にぜひいたくなサービスに該当するタクシー利用を最優先でやめるようになってきている。
	□	通信会社（役員）	・契約獲得数は前年同様の数字での推移を想定している。解約数についても前年と同様に推移するものとみている。
	□	美容室（経営者）	・中東問題が解決しないままでは、消費者心理はなかなか上向いていかない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・建築資材の高騰に加え、職人不足や市場の変化により、先行きが不安である。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	・原油高を要因とする原料などの値上げが予告されており、単価上昇などが見込まれる。より一層豚肉や鶏肉へのシフトが進むとみられ、売上は下がると考える。
	▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・中東情勢の影響により原油が日本へ入ってこない状況が続く、値上がりしている商材が多いにもかかわらず、給与などの収入が変わらないため買い控えが発生している。
	▲	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	・物価高、原油価格高騰、原材料価格高騰により、現在非常に厳しい状況であり、コスト増加分の価格転嫁を検討している。自助努力でコストを吸収できる範囲を完全に超えており、今後は値上げに踏み切る動きが加速すると考える。価格転嫁が始まるであろう2～3か月後には購買力が更に低下するとみている。
	▲	百貨店（販売担当）	・社会情勢を踏まえると、当面は悪化又は低調となる。一般客はより節約し、より低単価志向が強まると考える。生活必需品や買いやすい価格の商材以外は、先送りや購買を控えたり、ランクを下げる傾向が続くとみている。一方、ごく一部の富裕層における高級雑貨やラグジュアリー商材への購買行動は低下しづらいとみているが、社会情勢の悪化が進めば下がる可能性もあり、当面は全体として低迷が続くと考える。
	▲	スーパー（総務担当）	・資材価格の高騰に伴い、必要品のみを購入する傾向となり得る。
	▲	スーパー（仕入担当）	・ナフサ関連での供給不安や不足感から、今まで経験したことのない緊急的な値上げや出荷制限の連絡が相次いでいる。客の負担が増え、身の回りの景気後退が加速するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	コンビニ (店長)	・中東情勢の影響によりこん包材を始めとする石油関連製品が欠品するニュースを聞くようになってきた。実際の影響はまだないが、今後は小ロットでの発注がなくなる等の影響を懸念している。
	▲	コンビニ (店舗管理)	・米の価格下落が期待できるが、石油製品が高騰して品薄になっており、この状況が加速すると考える。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	・消費者が社会情勢の変化を敏感に捉えると、消費動向に影響してくるとみている。
	▲	自動車備品販売店 (従業員)	・中東情勢の影響により一部の販売商品が入荷できず、売上に支障を来している。
	▲	高級レストラン (スタッフ)	・中東情勢の影響により仕入れが困難な物があり、商材の値上げも始まるなど不安定な状況が続いている。
	▲	一般レストラン (統括)	・原油の問題を始め、物価上昇がこのまま続くと、可処分所得に占める外食の金額や機会が減るとみている。世界経済次第で今後の消費動向が変わると考える。
	▲	スナック (経営者)	・国内外の情勢により、当分は先々も厳しさが増すとみている。
	▲	都市型ホテル (役員)	・ゴールデンウィークの団体予約は前年並みの受注だが、個人客の入込が弱く、前年と比べて稼働率の低下を見込んでいる。
	▲	旅行代理店 (従業員)	・中東情勢の影響により客の購買マインドが冷えつつある。
	▲	通信会社 (職員)	・原油問題の悪影響が長期化する。
	▲	通信会社 (役員)	・半導体不足や中東情勢の影響による端末等の不足と、端末購入費や工事費等の上昇が長引くとみられる。
	▲	テーマパーク (役員)	・中東情勢の影響が5月以降に出てくるという話もあり、全体的に5月以降の予約状況が前年同月と比べてやや悪くなっている。
	▲	パチンコ店 (経理)	・中東問題の解決が見通せず、物価高が更に進行するとみている。
	▲	競輪場 (職員)	・景気の先行きに不透明感が強まれば、娯楽に使う費用は減り、車券売上収入が引き続き下落するおそれがある。
	×	商店街 (代表者)	・今後は更なる値上げが一層の買い控えにつながるとみられ、もはや打つ手がない。
	×	一般小売店 [書籍] (従業員)	・先行きが全くみえない。
	×	スーパー (役員)	・食品の値上げ幅が大きく、今後ほぼ全ての商品が対象になりそうである。
	×	コンビニ (店長)	・コンビニのビジネスモデルが成り立たなくなっている。本部から限定的な支援を受ける場合もあるが、その場しのぎで根本的な解決になっていない。経営者数の減少も顕著であり、地域の店舗数を維持するために1人の経営者が複数店舗を契約する状況が止まらず、個々の店における管理の質も下がってきている。
	×	乗用車販売店 (従業員)	・物価高が続き、中東情勢の動向によっては厳しい状況が続くと考える。
	×	住関連専門店 (役員)	・生産停止や値上げなど商品への影響が高まる可能性を想定している。消費も滞るとみている。
	×	その他専門店 [酒] (経営者)	・これまでは楽観的見通しで変わらなしていたが、今後は全く予測できず、悪くなると考える。
×	その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (経営者)	・今後は中東情勢の影響により物価が上昇する。	
×	住宅販売会社 (従業員)	・部材価格や外注費が高騰しており、資材の入手が困難という社会的な影響が和らぐ要因がない。	
×	住宅販売会社 (営業)	・中東情勢の解決がこのまま夏場以降まで持ち越された場合、建築資材の流通が滞り、工事の着手停止もあり得る。大幅な収益減少となる見通しから、身の回りの景気は相当落ち込むとみている。	
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—
	○	一般機械器具製造業 (総務担当)	・国内における工作機械の受注が堅調に増加しつつある。
	○	電気機械器具製造業 (営業担当)	・金型や設備関連の受注が徐々に増加している。この後2～3か月程度は現状の受注レベルが維持できると営業の情報からも予測しており、やや良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・現時点で自動車メーカー向けや他のOEMメーカー向けの受注に大きな変動はないが、中東情勢の影響により関係製品の価格高騰のみならず供給制限も出てきている。一方で、中国産の一部の鉱物資源による関係材料価格の高騰や供給制限も重なり、代替材料での生産の検討を始めた。影響が続くと一部のサプライヤーが供給停止となり、完成車メーカーの受注が制限される可能性が出てきている。
	□	不動産業（経営者）	・個人客からの問合せが少ないことと、法人の動きも活発ではないことから変わらないと考える。
	□	司法書士	・人手不足や材料費及び燃料費の高騰といった不安材料があるなか、利益や投資額を増やしている企業も見受けられ、業種別や企業規模別で差が出ている。
	▲	食料品製造業（経営企画）	・様々なコストが高止まりしていたところに、ナフサ由来の資材価格の急激な上昇が更に収支を圧迫する見込みである。中には調達困難な資材もあり、代替品の手配などに経営資源を割くことになる。
	▲	建設業（経営者）	・当社の主力工事であるアスファルト舗装工事に使うアスファルト合材について、中東情勢の影響で3月から既に仕入先より値上げが通知されている。発注価格に反映されるまでのタイムラグがあり、利益の減少を懸念している。
	▲	建設業（役員）	・中東情勢の影響により先行き不透明なことから、資材関係の価格上昇だけでなく、材料確保ができない状況もみられ、今後の受注動向における不安定な要素が大きい。
	▲	輸送業（管理会計担当）	・原材料価格の高騰や荷主の生産減少を見込んでおり、物量の減少を懸念している。
	▲	通信業（営業）	・中東情勢の影響が長引けば、原油価格高騰により景気が悪化するが、解決に向かえば一気に好転するとみている。
	▲	金融業（融資担当）	・前年は物価高や賃上圧力等によるコスト増加という厳しい状況が続いた。今年に入り、中東情勢の影響も出始め、当面の外部環境は更に厳しい状況が続くとみられる。
	▲	金融業（融資担当）	・中東情勢の影響により資材の調達が滞れば、総体的に経済活動が鈍くなると考える。従前からの業績が好調な先についても、モノ自体がなければ対応が困難になると懸念している。
	×	繊維工業（総括）	・中東情勢の影響が長期化した場合、雇用の維持と企業の存続が危ぶまれる状況となる。
	×	プラスチック製品製造業（広報）	・原油は新たな調達先から入ってくると考えるが、2月後半から4月末までの2か月ほどの空白ができていたため、その影響が数か月続くとみられる。また、急激な原材料費の上昇も消費者に影響を与える。
	×	金属製品製造業（経営者）	・接着剤などの入手が困難で生産障害が発生しており、受注を制限する旨の発表が顧客から相次いでいる。
	×	税理士（所長）	・ほとんどの業種で6月までは今ある在庫でこなせるが、6月以降は読めない状況である。
雇用 関連	◎	—	—
	○	新聞社 [求人広告] (担当者)	・求人数が増加する見込みである。
(北陸)	□	人材派遣会社（役員）	・時期的に5月以降は忙しくなる傾向はあるが、派遣先企業からの依頼状況をみると、繁忙期のプラス分が景気悪化による依頼数減少というマイナス要素によって相殺されるとみている。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響を懸念していると話す事業所はあるものの、業種によってばらつきがあり、全体としては大きな変動に至っていないとみられる。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響による原油価格高騰は、引き続き注視していく必要がある。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・米国の関税と日中関係、そして中東情勢が解決されなければ、国内の景気が上向くとは考えづらい。中小企業は依然として厳しい経営状況にある。景気動向に大きな変化はなく、今後もこのままの状況が続くと考える。
	▲	新聞社 [求人広告] (営業)	・中東情勢が不安定である限り、現状維持も難しく、経営判断が慎重にならざるを得ない。
	▲	学校 [大学] (就職担当)	・国際的な政情不安による原材料調達の難化や生産計画の見直しは避けられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	—	—

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	◎	*	*
	○	商店街（代表者）	・客が増えており、業種に限らず売上の増加が期待される。
	○	一般小売店〔化粧品〕 （経営者）	・母の日のギフトや個人間のギフトなどの需要拡大が見込まれ、今後の伸びが期待できる。また、値上げによる商品単価の上昇が来客数の減少要因になるものの、ブランド力のある高額商材に大きな影響はなく、客単価の上昇につながっている。値上げが客離れにつながらないことが予想されるため、今後も売上は微増となりそうである。
	○	一般小売店〔菓子〕 （営業担当）	・5月になれば、進物商材が若干動き出すため、先行きに期待している。
	○	百貨店（サービス担当）	・ゴールデンウィーク前に食料品フロアがリニューアルオープンすることで、新たな客層の獲得につながり、来客数や売上の確保に貢献する。
	○	百貨店（管理担当）	・売場の見直しによるプラス効果が見込まれる。
	○	百貨店（外商担当）	・近隣の商業施設では新店舗の開業が相次ぐ予定で、エリア全体への来客数が確実に増加する。
	○	スーパー（店員）	・大型連休中の天候が良ければ、パーベキュー食材がよく売れるほか、小玉スイカの動きも良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・ゴールデンウィークから初夏にかけて、売上が大きく伸びる時期であり、特に総菜部門では米飯類の動きが堅調である。直近では改装店舗内にベーカリーを新設し、店内で製造するこだわりのパンの売上も増加傾向にある。今後は生鮮部門の売上獲得が重要となる。
	○	コンビニ（経営者）	・セルフレジの導入で、客の買物のスピードを上げる。その分、商品をよくみてもらう時間を作ることで、購入量が増えることを期待したい。
	○	コンビニ（経営者）	・祭りの季節が近づいているため、寄り合いなどが始まる時期になる。
	○	コンビニ（店員）	・ゴールデンウィークを控え、これからますます旅行や行楽に出掛ける機会が増えるため、忙しくなる。手軽に食べられるレジ横のホットスナックは大人気であり、かなり値上げが進んでいるが、売れ続けている。
	○	家電量販店（店員）	・家電量販店では、新たな省エネ基準の施行を背景に、エアコンの需要が高まっており、夏に向けてかなりの販売が見込まれる。
	○	家電量販店（企画担当）	・エアコンに加えて、LED照明の販売もこれから伸びると予想される。ただし、中東問題の影響によるナフサ由来の関連資材不足が課題である。値上げ以上に品薄への懸念が大きく、水回りのリフォームも完工できるかが不安である。
	○	乗用車販売店（役員）	・数年ぶりに新型モデルの発売予定があり、現状よりも回復すると予想される。ただし、世界情勢や経済環境が不安定な上、国内の自動車業界は新車登録台数の前年割れが続いている。単価の高い耐久消費財の購買需要が落ち込んでおり、先行きが見通せない状況にあるため、高付加価値商品の発売や経済状況の好転といった変化がない限り、大きな回復は望めない。
	○	乗用車販売店（マネージャー）	・前年は大阪地区の方が景気は好調であったが、今年に入り、少しずつ当地区の好調が目立っている。
○	高級レストラン（スタッフ）	・今年も当社商品が審査会で入賞したこともあり、従来の準備を継続すれば、成果もついてくる。	
○	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は、インバウンドの団体客の受注と、国内の個人客の予約が早くから入っており、それに伴い単価も上がっている。食堂部門もイベントを企画しており、直近の予約と併せて前年比でプラスを見込んでいる。一方、宴会部門は例年並みの動きとなっている。	
○	都市型ホテル（フロント）	・5月は好調となる兆しがみられるが、オフシーズンである6月は厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	通信会社（社員）	・タブレット端末やスマートフォンなどの買換え需要が増えており、それに伴うインターネット回線の高速化ニーズは、更に高まることが予想される。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・中東情勢の問題が解決するまでは、今の状態が続く。
	□	百貨店（売場主任）	・景気の見通しが立たないため、富裕層でも様子見となり、購入を即決しないケースが増えている。
	□	百貨店（企画担当）	・為替や株価の変動による影響が大きいほか、中東情勢や日中関係の動向にも大きく左右されるため、今後の見通しは非常に不安定である。
	□	百貨店（広報担当）	・中東情勢の影響が長引けば、海外旅行などの減少が予想され、内需の押し上げにつながる可能性がある一方、物価の上昇が懸念材料でもある。
	□	百貨店（商品担当）	・株高の効果で、宝飾品などの外商売上は好調であり、インバウンドも堅調な動きが予想される一方、前年の大阪・関西万博の反動による影響は予測が難しい。万博に向かって消費が小売関連に戻ってくるとの見方もあるため、販売促進策の強化による来店促進が重要となる。
	□	百貨店（売場マネージャー）	・今後も不透明な消費環境が続くものの、消費を大きく左右する要因は現段階では少なく、今の景況感が続くことが予想される。
	□	百貨店（マネージャー）	・社会情勢に変化がなければ、インバウンドの動きが中国を中心に活発化すると予想されるが、中東情勢の今後が全く見通せず、インバウンドや国内客への影響も予測できない。ただし、現時点での影響は意外に軽微である。
	□	百貨店（販促担当）	・依然として政情不安が続いているが、大きな変化の要素は見当たらず、例年並みの推移が予想される。今後の起爆剤として、催事に力を入れていく予定である。
	□	百貨店（宣伝担当）	・今後は燃油サーチャージの上昇により、インバウンドは減ると予想されるなか、国内客への営業施策を集中的に実施するとともに、経費を削減している。ゴールデンウィークから夏休みにかけての行楽シーズンの需要を取り込めれば、現状は維持できる。
	□	百貨店（マネージャー）	・中東情勢の先行きが不透明で、当面は節約志向が続くと予想されるが、食品売場の一部改装を予定しているなど、好調な食品部門の更なる強化を図る。
	□	百貨店（マネージャー）	・大きな流れは変わらないが、更なる富裕層の取り込みが求められる。また、コトを中心とした販売促進策による中間層の集客に加え、購買姿勢に変化が出てきたインバウンドの集客がポイントになる。今後は行楽に負けない、魅力あるコンテンツが鍵となる。
	□	百貨店（営業推進担当）	・売行きは商材ごとに違いはあるものの、大きな変化はないとみられる。一方、今後はエネルギー関連の値上げが消費マインドに影響を及ぼす可能性がある。
	□	スーパー（店長）	・良くなる理由が見当たらない。
	□	スーパー（店長）	・競合店が減ることはないため、今後も現状が続く。
	□	スーパー（経理担当）	・中東情勢による物価の上昇等から、生活防衛意識は高いままとなっている。賃上げやボーナスの増加といった好材料もあるが、悪材料を打ち消すまでには至らず、依然として節約志向は強いままとなる。
	□	コンビニ（経営者）	・更に物価の上昇が進むため、この先が心配である。
	□	コンビニ（経営者）	・来客数は伸びる要素が余りないが、客単価は相変わらず上昇傾向が続く。ただし、以前よりも値上げ商品が減っているため、小幅な上昇にとどまる。
	□	コンビニ（店員）	・先行き不透明であり、景気の回復は期待できない。
	□	衣料品専門店（店長）	・中東情勢により石油関連の先行きが懸念される。
	□	乗用車販売店（経営者）	・エンジンオイルなどの油脂類など、頻繁に使う商品がごとく値上げとなっているほか、在庫不足の波にさらされている。こうした動きがいつまで続くのか、見当が付かない。
	□	乗用車販売店（販売担当）	・中東情勢の行方を見通せず、問題が長引いた場合の国内経済への打撃は大きい。ただし、直接的な影響はまだ表面化しておらず、もう少しは現状維持が続くと予想される。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・地政学的な問題が落ち着き、物価や金利の上昇が安定するまでは、景気の好転は厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	乗用車販売店（販売担当）	・物価上昇などの状況が続けば、現状と同じく、良くならない。
	□	その他専門店〔食品〕（経営者）	・資材価格の高騰や原材料不足により、販売量の変化以上に利益が圧迫され、生産にも問題が起こる可能性が高い。
	□	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・多少の地金相場の低下では、引き上げた設定価格を見直すことはないため、客の動きは変わらず、利益もそれほど変わらない。
	□	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・花粉症も落ち着き、医薬品や健康食品の売上減少は避けられない。一方、気温の上昇に伴い、カウンセリング化粧品や化粧雑貨などの売上が順調に推移するなか、今後の季節商材への切替えによる売上増を期待したい。全体としては、食品や生活必需品の値上げで客単価は上昇しているものの、買上点数に変化はないことから、今後も現状の動きが続くとみられる。
	□	高級レストラン（企画）	・インバウンドの減少を国内旅行の需要増でカバーしており、今後も当面はこの状況が続く見込みである。
	□	一般レストラン（店員）	・引き続き物価上昇の影響があり、現在も来客数が減少している。これ以上悪くなるか、それとも良くなるかは不透明である。
	□	都市型ホテル（客室担当）	・現状が底であると認識しており、業況が上昇に転じるか、僅かに向上することが予想される。
	□	旅行代理店（支店長）	・中東情勢については先行きが見通せず、客の心理は悪化する。新たなイベントや消費マインドを高めるような大型行事もなく、状況が好転する兆しはみられない。
	□	旅行代理店（支店長）	・中東情勢の行方に左右されるが、燃油サーチャージの上昇による影響が出てくる。
	□	タクシー運転手	・観光地ではインバウンド効果で利用率が少し上がるものの、国内客にとってはタクシーがぜいたくな乗り物となっている。
	□	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・やや悪い傾向が続くと予想される。
	□	競輪場（職員）	・例年は良くなる時期となるが、中東情勢の行方などの様々な要素があるため、先行きが見通せない。
	□	競艇場（職員）	・賃上げや物価の上昇、海外情勢の変化、政治的な影響など、様々な要因がどのように作用するのか、見極めるのは難しい。
	□	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・国際情勢の変化や物価の上昇で、経費は増えているが、催事の開催は順調であり、観客の動員も順調である。
	□	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦のほか、家族向けのイベントやコンサートが開催されるため、多くの来場者が予想される。
	□	住宅販売会社（経営者）	・仕入の再開が一時的なものにとどまれば、厳しい状況は変わらない。
	□	住宅販売会社（企画担当）	・物価上昇による建築費の上昇や、従来の地価上昇に加え、中東情勢の変化による物資不足や価格上昇が響いており、好転の兆しがみえない。
	□	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・今年度も新入社員の入社はゼロであり、社内の平均年齢だけが上がる状況は良くない。中途採用や派遣社員の採用でも、期待できる人材が集まることはなく、先行きは不透明である。
	□	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・富裕層の間でも、現状の不動産価格の水準を不安視する動きがあり、物件の選別が進んでいる。それに伴い、物件による好不調の差が大きくなる。
	▲	商店街（経営者）	・物価の上昇による影響が出る。
	▲	一般小売店〔花〕（経営者）	・資材価格やガソリン代、仕入れ経費などが上がっているが、販売価格は変わらず、利益が減少している。花は生活必需品ではないため、今後は販売量の減少も見込まれる。
	▲	一般小売店〔時計〕（経営者）	・世界情勢の変化がどのような結末を迎えるかが不安である。特に、猛暑を超える酷暑の時期を迎える頃に、世界情勢がどうなっているか不安である。先行きには心配しかない。
	▲	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンド来店店のピークが終了するため、売上は減少する。
	▲	一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・石油価格の上昇に伴い、様々な仕入商品の価格が高騰し、買い控えにつながっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（売場主任）	・中東情勢が不透明で、資材価格の高騰によるスタグフレーションの可能性も高まっており、買い控えや節約の動きが客の購買行動にみられる。
	▲	百貨店（企画担当）	・各種資材価格の高騰や、入荷遅れなどによる経費の増加が見込まれる。
	▲	百貨店（販売推進担当）	・中東情勢の変化に伴う原油問題で容器が不足し、食料品や生活雑貨を中心に販売停止や価格高騰などが相次ぐと予測される。それにより、景気も厳しい状況となる可能性が高まっている。
	▲	百貨店（外商担当）	・国際情勢の先行きが全く見通せず、今後はラグジュアリーブランドの売上減少が予想される。インバウンドも中国からは依然として少ないほか、欧州からの動きも少なくなる。
	▲	百貨店（商品担当）	・中東を含めた海外情勢の変化に伴う、資源価格の上昇や材料不足、物価の上昇が、本格的に日常生活に悪影響を及ぼし始める。
	▲	スーパー（経営者）	・燃料価格や商品価格の高騰で、消費マインドは冷え込んでおり、先行きの見通しは厳しい。
	▲	スーパー（企画担当）	・原油の供給事情の悪化により、石油製品の不足や価格の高騰につながり、消費マインドが悪化する。
	▲	スーパー（販売促進担当）	・中東情勢が見通せないなか、回復傾向は見込めない。現状維持か、更に悪化する可能性が高い。
	▲	スーパー（開発担当）	・中東情勢が不安定で、原油も入ってこない。このような状態が続けば、石油関連や食料品などは値上げが進む一方、賃金は上がらないため、景気が良くなるわけがない。
	▲	スーパー（社員）	・客の節約意識は当面続くと予想される。値上げ局面での同業他社との価格競争は体力勝負でもあり、厳しい状況となる。
	▲	スーパー（企画）	・中東の海峡の封鎖で、ナフサ価格や電気代を含めた、様々な部分での価格高騰につながっている。食品のトレーやビニール袋、手袋、買物かごの価格や、電気代も過去に経験のない水準となるなど、様々な値上げが進むことで景気は悪くなる。
	▲	コンビニ（経営者）	・国内外の情勢の変化により、今後どうなるかが不安である。
	▲	コンビニ（店員）	・梅雨の時期は来客数が減る。
	▲	コンビニ（店員）	・独身税の導入が店でも話題となり、客からも節約を始めるといった声が出ている。コンビニでの買物も最小限にとどめるといった声もある。
	▲	衣料品専門店（店員）	・閑散期となるため、セールなどで売上を増やす見込みである。
	▲	家電量販店（店員）	・中東情勢が落ち着かない限り、物価の上昇で景気が悪化することは間違いない。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・中東の海峡の通航規制が徐々に経済に悪影響を及ぼしているなか、先行きは極めて不透明である。
	▲	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・有名なメーカーへの注文は通常どおりであるが、そうではないメーカーはプラスチック容器などの注文が停止となるケースもある。今後半年間で商品が調達できなくなり、在庫が枯渇する不安が高まっている。
	▲	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・中東情勢の先行き不透明感が強い。
	▲	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・送料の無料キャンペーンが終わる時期であり、受注はしばらく減少すると予想される。
	▲	一般レストラン（経営者）	・石油関係の不安な状況から、物資不足が懸念され、買占めも始まっている。それに伴う値上げや品不足が起きているなど、仕入れに悩まされる日々が続いている。来店客の傾向としては、自己負担の場合はできるだけ低単価品を選び、会社の経費の場合は、それなりの単価で利用する傾向となっている。協議が始まっている消費税率の引下げ問題も含め、まだ先のみえない不安な状況のなか、不景気が続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	一般レストラン（企画）	・原油の安定供給に懸念があるなか、原油価格の高騰による運送費の上昇で、食品や消耗品などにも影響が出ており、経営を更に圧迫している。来客数は前年並みを維持しているが、今の状況が続けば、外食の客足は鈍くなることが予想される。
	▲	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・現政権になり、国内の問題がいろいろと動きそうな気配であったが、資源の少ない我が国では、今後は一気に様々な負担が増えそうである。
	▲	観光型ホテル（経営者）	・5月以降は前年の大阪・関西万博による団体特需の反動が出るため、販売量の計画値を下げている。中東情勢の影響は今のところみられないが、問題が長期化すれば、更なる旅行控えにつながるおそれがある。
	▲	観光型旅館（経営者）	・6～7月の宿泊予約の進捗が、前年比で非常に悪い。
	▲	観光型旅館（経営者）	・予約状況が悪いため、景気の回復には時間が掛かる。
	▲	都市型ホテル（管理担当）	・価格の高騰に対する、有効な対応策がない。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	・海外情勢も先行き不透明なままである。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	・夏休み期間の予約の取り込みは比較的好調であるが、販売室数や販売単価は前年を下回っている。
	▲	旅行代理店（役員）	・各航空会社は5月から燃油サーチャージの引上げを決定しており、コスト削減のための航空便運休も行っているなど、海外旅行の販売に影響が出ている。さらに、今後の物価上昇によって、旅行の中止や行き先を近場に変更する動きも予想されるなど、旅行市場への影響は大きい。
	▲	通信会社（社員）	・年間を通して、通信大手による他社からの乗換え客の獲得要請は厳しいが、ボーナス商戦前の閑散期でもあり、販売は落ちる。
	▲	通信会社（役員）	・スマートフォンの購入意欲は依然として低水準である。ガソリン代や光熱費などの生活費に余裕が出るまでは、スマートフォンのような高額なし好みへの支出は後回しにされやすい。
	▲	通信会社（営業担当）	・引っ越しなどの環境の変化が落ち着き、問合せが減る時期になっている。3か月前と比べて、約95%の水準になると予想される。
	▲	観光名所（企画担当）	・春休み中にも良い日は数日あったが、なかなか回復の兆しがみられない。
	▲	ゴルフ場（支配人）	・原油価格の上昇で燃料価格の不安定な動きが続くなか、全ての商品の仕入価格が上昇している。客への価格転嫁が難しい状況で、今後もやや悪くなる。
	▲	その他レジャー〔スポーツ施設〕（経理担当）	・中東情勢の先行きが懸念される。
	▲	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・国内客については、ガソリン価格の高騰や物価上昇の影響による、レジャーマインドの低下が懸念される。インバウンドでは、燃油サーチャージの上昇や不安定な国際情勢による影響を危惧している。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・退会が止まらず、入会者の数を上回っているなど、家計の教育への支出が後回しになっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・これ以上景気が上振れする要素は見当たらず、中東情勢による物価の上昇も予測されるため、逆に冷え込むと予想される。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・原油の供給に不安定感があるため、消費マインドは更に低下する。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・今後も建築単価や住宅ローン金利の上昇傾向が続くと予想される。
	×	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・石油問題や物価上昇によって悪化する。
	×	一般小売店〔雑貨〕（店長）	・原油の輸入量が減少し、買いだめの動きが始まる。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・特に若い世代が今後の生活に不安を感じているため、国内需要の活性化を図る必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔呉服〕 (店員)	・世界情勢の変化で、高級品の呉服はどうしても買い控えの対象となる。
	×	一般小売店〔書籍〕 (管理担当)	・中東情勢などの先行き不透明な状況が、長期化する可能性がある。
	×	衣料品専門店(経営者)	・食料品などの物価上昇により、主婦などは自分の洋服にお金を掛ける余裕がない。
	×	衣料品専門店(経営者)	・消費者は中東情勢の変化による異常なインフレに備えており、購買意欲がそがれている。
	×	家電量販店(店員)	・リフォーム関連でも浴室やキッチンなどは余裕を持って商談できるが、生活に不可欠なトイレなど、急ぎの買換えが必要な設備については厳しくなる。仮に商品の供給が再開しても、工事の依頼を受けられない場合があるなど、回復までには時間が掛かる。
	×	住関連専門店(店長)	・輸入業では、原油価格の上昇で、海外輸送費を中心としたコストの増加が予想されるため、販売価格も上がり、更に売りにくくなる状況が続く。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	・中東情勢の変化に伴う物価上昇について、影響の及ぶ範囲が拡大することは確実である。その影響が長引けば長引くほど、経済への打撃が大きくなるため、企業業績や個人消費は悪化し、景気は確実に悪くなる。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕(店員)	・物価の上昇で、必要最低限しかお金を使わない傾向にある。
	×	その他飲食〔洋菓子〕 (管理担当)	・工事の影響で店舗前の通路が狭くなる予定であり、売上や来客数に大きな影響が出る見通しである。
	×	都市型ホテル(営業担当)	・世界情勢が不安定なため、先行きは楽観できない。
	×	通信会社(経営者)	・建築現場では工事が止まるケースが出そうであり、円安傾向も変化の兆しがみられない。
	×	遊園地(経営者)	・石油価格や電気代の上昇など、中東情勢の変化による家計への具体的な影響が出始める。
	企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業(経営者)
○		食料品製造業(営業担当)	・物価が上昇しているが、徐々に客も価格に慣れてくる。気温が上がるにつれて、売上は少し良くなると予想される。
○		輸送業(営業担当)	・近年は大型の物流倉庫が増えるなど、拠点の集約化が進んでいる。トラックの稼働台数を減らすことで、ドライバー不足は解消されつつある。
□		繊維工業(総務担当)	・所得の増加が景気の下支えとなっている以上、物価の上昇にはつながりやすいものの、和装ではコストの増加に伴う価格転嫁が進んでおらず、厳しい状況が続いている。
□		出版・印刷・同関連産業(企画営業担当)	・受注量に変化はないが、コストの増加による利益の圧迫が懸念される。
□		化学工業(製造担当)	・前年度から続く研究分野での受注量の減少は、今年度も続く見込みであることから、景気の回復は見込めない。
□		金属製品製造業(経営者)	・急激に動き出すという期待は乏しい。
□		一般機械器具製造業(経営者)	・小口案件の動きは続いているため、しばらくは現状の景気が続く。
□		一般機械器具製造業(設計担当)	・物価の上昇で実質賃金が伸び悩んでおり、周囲では節約傾向が高まっている。実質賃金が上がれば、景気が回復に転じる期待も出てくる。
□		輸送業(商品管理担当)	・繁忙期の3月、4月の売上が余り伸びなかったため、繁忙期終了後の売上にも変化はない。
□		広告代理店(営業担当)	・6月ごろまでは、例年よりも引き合いの動きが鈍いと予想される。
▲		食料品製造業(管理担当)	・前年は大阪・関西万博の開催効果で売上も好調であったが、今年は前年ほどの売上は期待できず、前年割れとなる見込みである。
▲		繊維工業(管理担当)	・中東情勢の変化による影響が、どの程度及ぶかが不安である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	化学工業（企画担当）	・例年の傾向と異なり、年始以降の販売の減少がみられず、好調に推移している。ただし、今夏も猛暑が予想されるほか、原材料価格の高騰や不足が予想されるため、見通しは厳しい。
	▲	プラスチック製品製造業（経営者）	・資材の不足により、生産活動がどの程度維持できるのか、見通しが立てにくい。直近では受注の先食い感もあるため、2～3か月先は受注の減少が予想される。
	▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・中東情勢が不透明で、石油製品関連の価格上昇による、更なる物価上昇が懸念される。不安要素が多いなか、2～3か月先の景気はやや悪くなると予想される。
	▲	電気機械器具製造業（経理担当）	・樹脂成型品を始めとする石油関連製品の価格が上昇しているほか、パソコンのメモリ価格が異常に上昇している。AIの利用拡大でサーバーの増設が相次ぎ、品不足につながっているが、このままでは製品に使用するメモリが入手できなくなり、生産が立ち行かなくなる。
	▲	建設業（経営者）	・住宅関連の資材不足や、受注見合せの影響が出始めている。この先は契約延期となる案件も発生する見通しである。
	▲	建設業（経営者）	・材料価格の値上がりで、取引先の発注が止まる可能性がある。
	▲	輸送業（経営者）	・前年や前々年の事例から、社員の健康を考えれば、暑い時期に無理に仕事を取れない。また、他の運送業者が断った仕事も、ある程度は引き受ける必要があるため、意識的に仕事を減らし、余裕を残しておく必要がある。暑い時期には運送業の採算は度外視せざるを得ない。
	▲	輸送業（サービス担当）	・中東情勢が落ち着かなければ、今後は更に影響が出る懸念もあり、消費の増加にはつながらない。
	▲	輸送業（営業担当）	・家電に不具合が多いため、売上の減少が懸念される。
	▲	金融業（営業担当）	・中東の海峡封鎖の影響で、ナフサ関連の商品の仕入れが難しくなっている。こん包用のビニールシートなどの調達も難しくなっており、納品できないケースも想定されるため、あらゆる業種に影響が出てくる可能性がある。
	▲	金融業〔投資運用業〕（代表）	・資源、エネルギーの正常な供給に努める必要がある。
	▲	司法書士	・物価の上昇が続くなか、中東情勢も先が見通せず、節約志向が強まることから、景気が良くなるとは考えにくい。
	▲	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・中東情勢の変化により、原油不足は当分続くと予想される。
	▲	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・ポリ袋や紙類の値上げに加えて、燃料価格の高騰による仕入コストの中期的な上昇が予想される。また、それに伴う販売単価の引上げで、販売数量の減少も見込まれる。価格転嫁の動きにはタイムラグがあるため、一時的な減益が避けられない。
	×	食料品製造業（従業員）	・資材メーカーからの仕入れ数量が極端に調整され、一部で納入停止といった情報も入ってきている。
	×	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・ナフサが需要に対して不足しているため、生産の減少が避けられない。業種によってはコロナ禍での状況よりもひどくなる。
	×	化学工業（経営者）	・中東の海峡の封鎖以降、原材料価格の大幅な上昇があり、追加値上げも予定されているほか、原材料の入荷が徐々に困難になってきた。この状況が続けば、業務自体が継続できなくなる。
	×	金属製品製造業（製造担当）	・現在の情勢をみると、今以上に良くなることはない。
	×	輸送用機械器具製造業（経営者）	・例年の動きであるが、取扱製品の需要期が過ぎ、6月の梅雨や7月からの気温の上昇が悪材料となる。さらに、製品価格の上昇もあるなど、今後3か月は景気の良くなる材料がない。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・中東情勢の不安定化が長引くことによる、原材料不足が懸念される。
	×	通信業（管理担当）	・原油価格の高騰に伴い、物価の上昇が進む。
	×	金融業〔保険〕（経営者）	・燃料費や原価の上昇、材料の不足といった、悪い材料しか見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	不動産業（営業担当）	・中東情勢の影響により、石油由来製品が入ってこなくなり、建築関係の動きが止まっている。それに伴い、今後はますます景気が悪くなる。
	×	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・中東情勢の影響で原油不足となっている。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・明確な物価高対策や景気対策が実施できていない。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
	○	民間職業紹介機関（職員）	・梅雨が明けて暑さが厳しくなれば、求人数が増える予想される。
	□	人材派遣会社（役員）	・中東情勢の行方が不透明ななか、これまでの影響に変化があるかどうかも見通せない。
	□	人材派遣会社（支店長）	・第2四半期までは、余り動きがないと予想される。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏物商戦のプロモーションも、地元企業には景気回復につながる大きな動きがみられない。
	□	職業安定所（職員）	・離職や転職の動きについて、例年と大きな変化はみられないが、中東情勢の影響が不透明なため、引き続き情勢を注視する必要がある。
	□	職業安定所（職員）	・以前から続いている物価の上昇に加え、原油価格が高騰しているほか、石油関連製品の動きにも変化が出始めている。今後、国際情勢の変化がどの程度続くのかは、予測が難しい。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・夏のインターンシップのための広報は最盛期であり、今後は横ばいか、やや鈍化する見込みである。前年の学生の動きをみると、夏はインターンシップやオープンカンパニーに参加するものの、まだ企業を探す段階ではなく、下半期以降は動きが急激に鈍くなると予想される。それを見越して、今年は企業側も特に前期の広報に注力している。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・世界情勢などの不確定要素がある。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・中東情勢の変化による雇用への影響が気になるが、現状では休業や解雇といった事案はほとんどない。ただし、仕入価格の高騰や物流の停滞がこれ以上ひどくなれば、休業のおそれがあるという声も一部であり、状況を注視している。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・中東情勢の影響が長引くと、観光産業への影響が出てくる。また、物価上昇による生活不安を抱えた、シニア層の求職活動が更に活発化する。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・現状は、リーマンショック後のような深刻な景気後退には陥っていないものの、生成AIの台頭などによる事務職求人の減少という構造的な変化に直面している。企業業績の動きが採用活動の変化に直結するなか、既存社員の賃上げが優先されることで、新規採用が抑制されるなどの悪影響が生じる可能性は否定できない。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・日中関係の変化に始まり、直近では中東情勢の影響も出ている。それに伴う物価の上昇で、しばらく良くなるとは考えにくい。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・経済格差が開く一方で、改善策は見当たらないため、国内全体で悪くなっていく。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響で、事業所からは先行きを不安視する声が聞かれる。
	▲	職業安定所（職員）	・石油の輸入問題で事業所から聞かれるのは、不安の声ばかりである。
▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の変化により、先行きが不透明と考えている事業所は多い。今後の調達や注文の状況により、人員の削減や雇用調整助成金の利用を検討するという声もある。	
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・年間を通して、最も動きが落ち着く時期であり、求職者、求人共に少なくなる。	
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の影響が収束する見込みが立たず、短期間での停戦も考えにくい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の影響による物価上昇や、食料品の消費税減税の実現が注目される。また、責任ある積極財政の推進や診療報酬の改定などが、医療・福祉業界では期待される。現場では人手不足感はあるものの、雇用の増加につながる力強さには欠ける。今後、求人に積極的であった事業所の勢いが業績の悪化で止まれば、人手不足の事業所に人材が流れてくるよりも、業界からの人材流出が進みかねない。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・雇用形態の見直しや、AIの活用を理由とした採用人数の抑制などが、企業の間で始まっている。今後は大学生の就職状況が徐々に冷え込むことが予想される。
	×	*	*

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)	◎	－	－
	○	コンビニ（店長）	・今年も暑くなると予報が出ているため、猛暑になればなるほど販売数、来客数共に増えるとみられる。
	○	家電量販店（副店長）	・省エネ基準の改正を控え、エアコンの販売実績が伸びるとみられる。売上構成比が最も高くなる見込みで、景気は良くなる。
	○	乗用車販売店（業務担当）	・先々も新型車発売が続く予定で、販売量は増えていく。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・この先、通常であれば徐々に回復してくることが予想されるが、中東情勢により、あらゆる分野で影響が生じており、小売業への影響は予測できない。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・ゴールデンウィークの来客数は前年より多くなる。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	・施設のリニューアル計画が発表され、また、バイパスが部分開通したことで地域の人たちの関心が高まっている。
	○	その他専門店〔時計〕（経営者）	・行政からの生活支援商品券の配布が購買のきっかけになると考えている。
	○	一般レストラン（店長）	・当市のプレミアム付商品券の販売が決まり、当店にとっては売上につながると期待している。
	○	バー（経営者）	・企業努力で状況は良くなる。
	□	商店街（代表者）	・客は必要以上に購入する動きはなく、サンプルなどを配布しても反応が薄い。
	□	商店街（理事）	・物価高騰や中東情勢など不安要因が多いなか、生活防衛意識の高まりによる買い控えが進めば、景気の落ち込みが懸念されるが、希望的観測も含め、現時点では景気は横ばいで推移すると判断する。
	□	商店街（代表者）	・石油価格の高騰が客の頭から離れないようで、物価上昇が落ち着くまでは現状のまま推移する見通しである。今後は景気が大きく悪化する状況ではないものの、当面は横ばいで推移が妥当とみられる。
	□	一般小売店〔印章〕（経営者）	・例年どおりだが、今年は落ち着くのが早い様子である。
	□	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・物価上昇の影響により、客は買物の際には以前よりも慎重に検討するようになり、今後も、買い控えの動きが続く可能性がある。
	□	百貨店（営業担当）	・先行きが不透明である。
	□	百貨店（営業担当）	・高価格帯商品の購入客が増加する一方で、手に取りやすい商品の購入客は減少している。来店客数は減少傾向にあるが、外商の購入金額は増加しており、2極化が進んでいる。
	□	百貨店（営業担当）	・景気回復の兆しがみえない。
	□	百貨店（営業担当）	・景気に影響を与えるような大きな環境変化はみられない。
	□	百貨店（売場担当）	・満を持して館の食品部門をディスカウント型食品スーパーに切り替え、生き残りを懸けた改装が始まる。ただし、従来の顧客層にどこまで受け入れられるかについては不安材料も大きく、先行き不透明な状況が続く。
	□	百貨店（外商担当）	・まだ先行きは不透明であり、物価上昇が今後も続くと景気低迷は長引くとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・食品の購入意欲の回復は継続すると考えられるが、その他の生活インフラ状況により変動する可能性がある。商品の値上がりは今後も継続するとみられる一方で、収入面も上昇傾向にあるため、極端に悪化する可能性は低いとみられる。景気は収入面の改善度合いに左右される部分が大きいとみられる。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・割引企画を出さないと集客が難しい状況が続いている。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（販売担当）	・中東情勢が落ち着き、原油価格が安定すれば良くなる可能性がある。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（販売担当）	・原材料価格の高騰により引き続き値上げが発生しており、買い控えが懸念される。このような状況はこれまで経験がなく、先行きが見通せない。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（副地域ブロック長）	・世界情勢が不安定で、原油価格の高騰もあり、生活関連商品の価格に更に敏感になるとみられる。光熱費の上昇が予想され、経費についても不安要素が大きい。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の影響により、更なる物価上昇が見込まれる。
	<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・物価が上昇しても給与は変わらないため、客は利便性よりも予算に重点を置くようになり、更に節約志向が強くなる。
	<input type="checkbox"/>	家電量販店（企画担当）	・エアコンの売上が全体の売上げをけん引し、良好な状況が続くと考えられ、この状況は夏まで続く見込みである。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・特に若い人を中心に、考え方がプラス思考の人が最近は少なくなっている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（リース担当）	・4月以降、自動車取得時に適用されていた環境性能割が廃止されるほか、5月から重量税の変更も予定されており、需要増加への期待がある。一方で、中東情勢の影響によるガソリン価格の高騰により、販売量の増加は見込みにくい状況である。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・新商品の注目度の高さにより期待は持てるものの、燃料費の高騰やオイル不足などが懸念される。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（統括）	・良い材料がない。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（店長）	・中東情勢の影響が今後どの程度生じるかによって左右される。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格次第ではあるが、物価上昇が家計を圧迫する状況に変わりはなく、当面はこの傾向が続くとみられる。
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン（事業戦略担当）	・大きな話題はなく、景気は変わらない状況である。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・景気が良くなっていくのか、悪くなっていくのか見当が付かない。物価上昇の継続が景気の悪化要因となる一方で、株価の上昇は景気回復を感じさせる面もあり、どちらの方向に進むのか判断できない。
	<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（予約担当）	・販売数が伸びても単価が低いのが気掛かりである。
	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（宿泊担当）	・需要を促すイベントもなく、例年並みの動きと予測している。
	<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・ゴールデンウィークに入り、企業も休みに入るためタクシー利用はほとんどなくなる。
	<input type="checkbox"/>	タクシー会社（営業所長）	・夏を迎えるに当たり、猛暑であれば売上増加につながるとみているが、未知数である。原油価格の上昇が続けば自家用車の乗り控えから売上が増加する可能性がある。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（企画担当）	・周辺のコモディティ商材が値上げ基調にあるなか、当社の商材は値上げ実施の環境がなく、当面地道に顧客側へのアプローチと営業を継続していく。身の回りに売上動向に寄与する要因がない。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（企画・総務担当）	・需要が伸びないため、新施策を打ち出す予定だが、好転するかは未定である。
	<input type="checkbox"/>	テーマパーク（営業担当）	・繁忙期に入っており、この状態を維持していく。
	<input type="checkbox"/>	テーマパーク（業務担当）	・ゴールデンウィークを除き、事前予約が減り、天候を見ながらギリギリでの予約となっている。予約状況から増加の見込みが立たない。
	<input type="checkbox"/>	設計事務所	・客自身も、世界の動きから影響を受ける状況において、まだ方向感がみえていない様子である。
	<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・売上の上昇を望めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	商店街（代表者）	・中東情勢次第で大きく景気は変わるため、早く取まってほしい。
	▲	一般小売店〔食品〕	・中東情勢の影響により原油価格が上昇し、食品価格の更なる値上げが見込まれる。
	▲	一般小売店〔茶〕（経営者）	・新茶は今年も値上がりする見込みであり、我が国の一般消費者の購買意欲への影響が懸念される。また、輸出についても、中東情勢が各国にどのような影響を与えるか不透明であり、マイナス要素が多いとみられる。
	▲	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・商品の値上げが続き、客の買い控えが予想される。
	▲	百貨店（総務・経理担当）	・来客数が減少し、取引先の倒産や廃業等が増加している。
	▲	スーパー（店長）	・1人当たりの販売量は減少し、1品単価は上昇し続けている。今後も、1品単価の上昇が続くことを踏まえると、景気は悪化するとみられる。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の影響により石油製品の価格上昇が顕著になると見込まれ、客は生活防衛意識を強めた購買行動を取っている。より単価の低い商品を選択する傾向にあり、今後は一層厳しい状況が続くとみられる。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢によりガソリンはもちろん、包装資材などの価格も上昇し、利益を圧迫している状況である。この状況が続けば、数か月後には景気が悪化することが予想される。
	▲	スーパー（財務担当）	・中東情勢の影響により、既に価格高騰及び商品不足が発生しており、買上点数の減少により売上が減少している。
	▲	スーパー（業務開発担当）	・商品の値上げが従来の5%程度から、7月以降は10%から15%の値上げ要請がきている。原材料費も高い物で30%から35%の値上げ要請があり、加えて納期が確定しない物もある。
	▲	スーパー（営業システム担当）	・節約志向が高まり、今年の夏は平均より暑く、猛暑が続くとの報道もあり、外出機会の減少が見込まれる。中東情勢の影響で包材費が高騰し、価格上昇も見込まれる。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・物価上昇で、客の財布のひもは固い。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・石油由来の資材の枯渇が客の動向に影響を与える。
	▲	衣料品専門店（代表）	・現状の物価高に加え、石油問題により輸送コストが上げられれば、更なる価格の上昇が懸念される。
	▲	その他専門店〔革製品〕（店主）	・オーダーメイドの依頼数自体はそれほど減少していないものの、最近では比較的低価格な依頼が多い。
	▲	その他専門店〔宝石店〕（店員）	・経済状況が不透明ななか、ぜいたく品であるジュエリーについては、すぐに購入しようとする意欲を持ってない客が増えるとみられる。
	▲	観光型ホテル（副支配人）	・燃料費と原材料価格の高騰により経費が圧迫されているため、運営が厳しい状態である。
	▲	都市型ホテル（総支配人）	・中東情勢の影響で航空会社の燃料費が上がり、それに伴い航空運賃の値上げも考えられることから、特にインバウンドにマイナスの影響が出ると予想される。
	▲	都市型ホテル（宿泊担当）	・梅雨や夏季の天候不順に加え、集客につながるイベントの減少が見込まれることから、消費意欲はやや鈍化し、身の回りの景気は毎月よりやや悪化するとみている。
	▲	タクシー運転手	・中東情勢による石油取引の不安定化により、燃料価格や各種石油製品の物価が上昇し、様々な分野の企業活動において運営環境が厳しさを増している。景気は低迷する可能性がある。各企業の努力のみでは対応が難しい外部要因である。
	▲	通信会社（運用担当）	・中東情勢の影響により、経済の不安定さが増していく。
	▲	通信会社（広報担当）	・今は石油不安が強く、石油製品の確保が客のなかでは最優先になってしまっている。
	▲	通信会社（総務担当）	・一部の部材等で仕入価格が上がっており、客に転嫁せざるを得ない状況であり、契約件数の減少が予想される。
	▲	放送通信サービス（総務経理担当）	・中東情勢の影響により、ガソリンを始めとする身の回りの商品の価格への影響が不透明であり、今後の動向が懸念される。
	▲	通信会社（営業担当）	・日用品の値上げが止まらず、状況が好転する気配がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	ゴルフ場（営業担当）	・ゴールデンウィーク以降の予約数は増加せず、インバウンドの予約数も前年の7割程度と低迷している。ここ数年、夏季の集客も期待できないため、先行きに対する不安が強い。
	▲	競艇場（企画営業担当）	・全国発売のG1競走がないため、売上は減少するとみられる。
	▲	美容室（経営者）	・燃料や材料の価格高騰、最低賃金引上げなどを踏まえると、景気が改善するには時間が掛かりそうである。利上げが重なると、事業投資が難しくなる。
	▲	美容室（経営者）	・物価高などの不安要素を背景に、客の節約傾向は一層強まり、徐々に景気が悪くなっていくとみられる。
	▲	美容室（経営者）	・先が見通せない状況なので、客には不安感が広がっており、節約志向は今後も継続する。
	▲	設計事務所（経営者）	・建築材料の供給が滞る状況が、今後どこまで続くか見通せない。
	▲	設計事務所（経営者）	・建築費の上昇及び資材の出荷調整が行われ始め、工期の長期化が見込まれるため、着工棟数が減少するとみられる。
	▲	住宅販売会社（事業推進担当）	・中東情勢の影響は非常に大きく、納期遅延により更に物価高騰に拍車が掛かりそうである。新規事業が成り立たなくなっている。
	▲	住宅販売会社（住宅設計担当）	・原油から精製する資材調達に不足が生じることで、設備メーカーの商品製造が不安定な状況であり、かつ、建築業界全般で使用する配管部材等も同様な状況である。
	×	コンビニ（エリア担当）	・今後も商品の値上がりが予想され、中東情勢の影響によりガソリン価格も高騰しているため、状況は決して良好とはいえない。特に小売業関係は、人件費の上昇や商品の値上がりが重なり、更に厳しくなる。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・経済対策が十分に講じられていない場合、一般消費者は物価高や品不足の影響により購買意欲が低下していくとみられる。これにより、景気は一段と悪化する可能性が高いとみている。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・先行き不透明で、石油製品の原価高騰が続く限り、景気は悪いままである。コロナ禍以上に厳しい局面となる可能性もあり、倒産件数が過去最高となることも懸念される。補助金や助成金などの対策が急務とみられる。
	×	住関連専門店（営業担当）	・元々良くない状況に加え、中東情勢が不安定なことにより、更に悪くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	・原油輸入不足の問題により、資材や備品の価格高騰が続いているなか、円安の影響なのか、ゴールデンウィーク明けからは、国産では量的に確保が難しく、主に米国産に依存している牛タンや牛ハラミの大幅な値上がりが見込まれる。今後は光熱費の上昇も予測されており、加えて昇給の実施もあるため、運営コストの増加が重なってくる。その結果、売価の値上げを余儀なくされ、売上、利益共に厳しい状況となる。
	×	一般レストラン（経営者）	・来月から燃油価格が上がるため、インバウンドの減少が懸念される。
	×	旅行代理店（支店長）	・中東情勢に起因する原油価格の高騰により、燃油サーチャージの増額が海外旅行に大きな影響を与え、観光需要が低下する。特に団体旅行の方面変更や旅行控えが予想され、国内旅行強化へかじを切っていく。
×	通信会社（総務担当）	・中東情勢の影響が長引きそうな気配があり、終わりがみえない。	
企業 動向 関連 (中国)	◎	—	—
	○	輸送業	・受注が増えている。
	□	農林水産業（従業員）	・好転する要素がない。
	□	繊維工業（財務担当）	・先行きが不透明である。特に原材料価格の高騰が懸念される。
	□	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・不透明な状態は今後も当分続くものと予想される。
	□	非鉄金属製造業（業務担当）	・電子材料関係の取引先は好調な状況を維持している。懸念材料は、中東情勢の影響により石油系有機溶剤の供給が不安定なことである。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	□	一般機械器具製造業 (管理担当)	・国内生産量は減少傾向だが、海外向けが増加している。中東関係は減少しているが、北米と南米向けが増加している。	
	□	輸送用機械器具製造業 (経理担当)	・受注先からの内示情報によると状況に変化はない。	
	□	建設業 (経営者)	・企業の建設投資意欲に低下を感じられないため、現状維持が続くと予測される。	
	□	輸送業 (業務推進担当)	・特に大きなプラス要素やマイナス要素はないものの、国際情勢の変化における原油価格高騰は懸念材料の1つである。	
	□	輸送業 (企画担当)	・中東情勢に大きく依存するとみられる。	
	□	輸送業 (営業担当)	・顧客ヒアリングにおいて大きな変化は見受けられない。	
	□	不動産業 (総務担当)	・例年どおり、賃貸住宅の需要は落ち着く時期となる。	
	□	会計事務所 (経営者)	・新規案件の増加が期待できるが、中東情勢の影響による原油不足等、不確実な外部要因も多く、不透明感が拭えない。	
	▲	食料品製造業 (営業担当)	・中東情勢の影響で包材の価格が上昇し、利益が悪化する。	
	▲	化学工業 (総務担当)	・中東情勢の長期化が懸念され、物流業界への影響は避けられず、景気悪化は続くとみられる。	
	▲	鉄鋼業 (総務担当)	・中東情勢の影響による悪化が懸念される。	
	▲	金属製品製造業 (総務担当)	・受注は5月から増加の見込みであるが、中東情勢の影響により加工に使用する切削油が安定的に入手できない懸念が出てきている。3か月先の状況はまだ分からないが、切削油がなければ、仕事はあっても加工ができないため、生産への影響は甚大である。	
	▲	電気機械器具製造業 (総務担当)	・先行きは不透明だが、今のところ良くなる見通しが立たない。	
	▲	建設業	・資機材や労務費の上昇や不足により、建設計画が保留又は見直しとなる案件も出てくる。	
	▲	建設業 (総務担当)	・中東情勢の不安定さが長期化する場合は、発注のタイミングの遅れや事業見直しといったリスクが高まるおそれがある。	
	▲	通信業 (営業担当)	・資材調達への影響がより深刻となり、提供価格や納期遅延等といった影響が出始める。	
	▲	金融業 (経済産業調査担当)	・中東情勢の不安定化による経済への下押しが徐々に顕在化するとみられる。	
		×	食料品製造業 (経営者)	・仕入先から資材等の大幅な値上げの連絡があり、秋口まで資金繰りに支障を来すおそれがあることから、当面厳しい状況が続くそうである。秋口に向けて、再値上げが必要となる可能性がある。
		×	輸送用機械器具製造業 (経理担当)	・自動車販売の繁忙期が終了し、今後はその反動で販売量の低調が続くとみられる。また、世界的な原油価格高騰の影響により、一般消費者の節約志向が高まり、新車ではなく中古車を選ぶ傾向が強まると考えられる。
		×	通信業 (企画担当)	・以前から物価高は継続しており、中東情勢の影響により、更に状況は悪くなることが予測される。関連する商材も不足しており、販売の停滞が続くと見込まれる。
×		広告代理店 (営業担当)	・中東情勢の不安定化により、様々なところで影響が出てきている。特に材料の手配が非常に困難となっており、価格の引上げを余儀なくされている。広告の販売停止も視野に入れている状況である。	
◎		—	—	
(中国)		○	民間職業紹介機関 (職員)	・採用強化のため、年間休日を増やす傾向は続いており、純粋に休日日数を増やす企業もあれば、年間の所定労働時間は変えずに休日日数を増やすなどの工夫をしている。また、他社との競争力を高めるために、年収の相場観を確認するケースが増えてきている。
		□	人材派遣会社 (支店長)	・特に景気が良くなる話題もなく、これまでと同じ売手市場が続く、登録者確保に苦戦することが予想される。
		□	人材派遣会社 (経営企画担当)	・中東情勢の影響が読めない。既に求人を取りやめる動きが一部企業では出ており、今後この流れがどこまで広がるか不透明である。
	□	求人情報誌製作会社 (総務担当)	・求人広告の掲載件数は、補助金の開始が予定されていることで増加が期待されるが、これは一時的なものであり、すぐに終了する可能性が高い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・求人検索エンジンに公開している求人への応募数が毎月減少傾向にある。2月から自然検索結果の挙動が変化したことに加え、人材紹介や派遣求人が有料掲載でない求人検索エンジンに掲載されないなど、ポリシー変更が大きな影響を与えている。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・求人数は着実に増える見込みであるが、学生が希望する職種とのミスマッチもある。
	▲	人材派遣会社（求職者対応）	・活発だった求職者の活動が落ち着きつつあり、今月をピークに来月以降は減少に転じる見込みである。
	▲	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・生成AIの台頭により、これまで若手が担ってきた定型的な業務の自動化が更に進み、ジュニア層の雇用機会がより厳しくなることを懸念している。大手企業の採用意欲は依然として高いものの、市場全体で見れば、求められるスキルの変化に教育や供給が追い付かず、ミスマッチによる雇用の停滞が起きる可能性があるため、先行きを厳しくみている。
	▲	求人情報誌製作会社（広告担当）	・ここ数年、新卒採用人数を増やすと回答する企業が多かったが、AIの導入により、2027年度からは大手企業を中心に減らす傾向がみられる。主な理由として、中東情勢の不安定さや経済の先行き不安、ここ数年計画どおりに採用が確保できていることが挙げられる。新卒採用よりも、中途採用や専門職の採用が微増している傾向がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中東情勢次第であるが、燃料や物資の価格高騰、供給不足が住宅や自動車産業に想像以上の影響を及ぼす可能性があり、地域企業からはその懸念の声が上がっている。
	▲	職業安定所（職員）	・物価上昇に賃金が追い付いていない。中東情勢の先行きが見えない状況であり、ガソリンや原油商品の不足、価格高騰が予想され、景気については良くなる要素がない。
	▲	職業安定所（職員）	・新規求職者数は微増しているが、新規求人数は減少しており、職業相談窓口においても同様の実感を持っている。今後数か月のうちに大手企業の人員整理が複数控えており、雇用失業情勢はやや悪化するとみられる。
	▲	職業安定所（事業所部門）	・燃料価格を始めとして、各種物価の上昇が景気に影響を及ぼす。
	×	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢や日中関係の影響が懸念される。

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	◎	－	－
	○	衣料品専門店（経営者）	・4月は天候が良く、売上は良かった。5月も天候が良ければ売上は確保できる見込みである。
	○	家電量販店（副店長）	・半導体不足、部材不足、エアコンの新たな省エネ基準の影響により前倒しの需要が見込まれる。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	・気温が暖かくなり、お中元時期も近づくので良くなる。
	○	タクシー運転手	・燃料代高騰や物価高の声が多い。しかし例年は人の動きが上向きになる時期であるため、良くなるとみられる。
	□	商店街（代表者）	・ゴールデンウィーク及び夏場に予定されているイベントにより、地元客や観光客の人流ができるため、成果が期待できる。
	□	商店街（常務理事）	・中東情勢の影響等による物価高は、将来へ向けてのリスクを高めている。消費者の財布のひもは一段と固くなるとみられる。
	□	商店街（代表者）	・中東情勢の影響による原油不足や為替変動等による物価高も続いている。顧客動向の停滞が継続するとみられる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・値上げの理由を理解している客に対する予約販売が中心となり、低価格を求める客への販売は減少する。
	□	百貨店（マネージャー）	・中東情勢が先行き不透明であり、当面の間、顧客の購買意欲は高まらない。
	□	スーパー（店長）	・物価高が続くことが予想される中、買上点数と来客数の回復が見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	スーパー（企画担当）	・引き続き商品単価の上昇が予定されているため、売上は増加するが、来客数、買上点数については減少するとみられる。
	□	コンビニ（総務）	・来客数増加の具体的な策がない。また、前年は芸術祭が開催されていたため、前年比では売上が減少するとみられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今後2～3か月景気は変わらない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	・中東情勢が落ち着き、物価が下落に転じることは当面は考えづらい。景気が悪化した状況が続くとみられる。
	□	家電量販店（店員）	・今後も価格高が予想され、本当に必要な物だけを購入するようになる。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・今後も販売停止車種が多い状況が続くため、大きな改善は見込めない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・中東情勢や物価高など、不安要素が多く購買意欲は上がらない。しばらくは現状のままである。
	□	一般レストラン（経営者）	・物価高は更に進むと考えられ、仕入先からも値上げを示唆されている。これから先も値上げを回避できそうになく、客の節約傾向は更に進むとみられる。
	□	観光型旅館（経営者）	・来客数、売上共に前年同期より増加している。景気は2～3か月前と同様に良い傾向にある。
	□	都市型ホテル（経営者）	・状況がどのように変わるか不透明である。
	□	通信会社（営業部長）	・今夏の暑さの状況次第である。前年並みの気象状況の場合、来客数への影響が懸念されるが、夏季休暇などによる需要増加も見込まれることから、変わらない。
	□	通信会社（営業担当）	・来客数は前月や前年同月と比べて減少傾向である。各種商品の物価高などの影響もあり、購入意欲も低下傾向である。
	□	観光遊園地（主幹）	・イベント終了による集客への影響はあるが、インバウンドを中心に引き続き堅調な来客数が見込まれる。
	□	美容室（経営者）	・物価高や商品、製品が不足し仕入れに影響がでるなど、先が見えない状況である。
	▲	商店街（代表者）	・インフレが進んでいる。世界が大きく動いており、地方都市の活性化や街づくりは予想が困難である。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・中東情勢により原油不足となっているが、便乗値上げもあるとみられる。値上げを通知してくるメーカーが増えており、今後2～3か月先も同じ状態であることから、売上は減少する。
	▲	スーパー（店長）	・物価高と中東情勢の影響による原油不足により、景気に悪影響を及ぼす。
	▲	スーパー（企画担当）	・中東情勢の改善や原油の安定的な確保が望まれる。
	▲	スーパー（財務担当）	・中東情勢の影響により、石油関連でトレーなどの価格上昇が見込まれており、経営に大きな影響を与える。
	▲	スーパー（統括担当）	・包材、商品などの値上げ要請や調達が困難といった通知がきている。
	▲	コンビニ（店長）	・5月はゴールデンウィーク次第であるが、前半戦の4月後半からかなり購買意欲の弱さがある。この流れが続くとみられる。
	▲	コンビニ（店長）	・インフレにより、売上は増加しているが来客数は減少している。今後は更に来客数が減少し、売上減少になるとみられる。
	▲	コンビニ（商品担当）	・中東情勢が改善しても、通常の商品価格帯に戻るまでに時間を要する。
	▲	乗用車販売店（役員）	・中東情勢の先行きに不透明感が強い。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・現状は想定よりも良いが、今後は購入意欲を刺激する要因がなく、売上は減少するとみられる。
	▲	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・物価高の影響により外食から内食の傾向が顕著である。
	▲	旅行代理店（部長）	・中東情勢が不安定である。
	▲	タクシー運転手	・例年、暑くなってくると四国遍路の仕事が減少するため、売上は減少する。
	▲	美容室（経営者）	・常連客がほとんどであり、高齢化してきたので来店頻度が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	設計事務所（所長）	・商品価格の動向が不透明な状態が継続し、景気は低迷する。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	・中東情勢の影響、物価高、光熱費高騰など生活への不安材料ばかりであり、今後の動向は不透明である。
	×	衣料品専門店（経営者）	・中東情勢の影響がある。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—
	○	—	—
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・中東情勢の影響により、不透明感が増している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・良くなると考えている。
	□	建設業（経営者）	・相変わらず人手不足の状況にある。
	□	輸送業（経営者）	・このまま推移するとみられる。
	□	通信会社（総務担当）	・販売計画値やボランティア参加人数含め、例年と変わらないとみられる。
	□	通信業（企画・売上管理）	・6～7月に開催されるスポーツイベントの盛況に付随したキャンペーンの広告増を期待するが、見込みは掲げられる状態にはない。
	▲	食料品製造業（経営者）	・中東情勢の影響にて、包材、資材等が大幅に高騰、全てを製品価格に転嫁できず、利益率が下がる。
	▲	食料品製造業（商品統括）	・為替変動により、物価高が進行する。一方で、景気後退を懸念し、金利の低下がみこまれる。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	・中東情勢の影響を受けて仕入価格の上昇が止まらない。価格転嫁を急ぐ中で、欠品の可能性も説明しながらの交渉となっている。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・中東情勢の影響で、全ての資材が高騰している。販売価格への転嫁が困難であり、収益減となる。
	▲	電気機械器具製造業（経理）	・中東情勢が不透明であり、原油不足、物価高により先行きの景気に大きく影響を与える状況が継続する。
	▲	建設業（経営者）	・中東情勢の影響が大きい。
	▲	金融業（副支店長）	・中東情勢の影響で7月に値上げが見込まれ、原材料が入らなくて生産が滞っている先が徐々に始めている。
	▲	不動産業（経営者）	・不動産の購入について一般の方も業者も非常に慎重であり、商談の長期化がみられる。中東情勢の影響が大きい。
	▲	広告代理店（経営者）	・中東情勢が不透明で原油価格の高騰や資材不足による影響により、影響を受けている客先の販売促進費は削減傾向である。一方、ホテルや旅行等の観光関係は、引き続き順調である。全体としては、例年よりやや悪くなるとみられる。
	×	繊維工業（経営者）	・資材不足により、受注分を出荷できないという事態が予測され、業績に大きな影響が出る。業界全体の問題であるが、後継者不足の中小業者の中には足元が明るいうちに事業をたたもうと、今年になって数社廃業した。このことは地域雇用と税収にも多大な影響が出るとみられる。
	×	化学工業（所長）	・資材不足による物価高や商品不足により景気は悪くなるとみられる。
	×	建設業（総務）	・中東情勢により、景気に不透明感がある。
×	広告代理店（経営者）	・原材料価格の上昇が止まる材料がない。	
×	税理士事務所	・中東情勢等を見てもプラスとなる要因がない。	
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（経営者）	・夏休みに向けてのアルバイト募集の求人数の増加が予想されるため。
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	・良くも悪くも変化のきっかけがない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・官公庁については堅調な需要がある。ここ2～3か月では大きな変化はないが、将来的には、個人消費と民間需要が伸びなければ楽観はできない。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・職種によってはまだ求人難のものはあるが、事務関係を中心に充足している職種もあり、全体的に大きな動きは見られない。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢や物価高等から先の経営環境はかなり不透明であるが、求人については当面は大きく変化しないとみられる。
▲	人材派遣会社（総務部長）	・最低賃金引上げの影響がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	求人情報誌（営業）	・中東情勢の改善見込みがなく、建築や建設業界及び周辺業界、化学関連業界を始めとしたあらゆる業界で仕入価格の高騰、原材料の入手困難が続くと予想され、景気の悪化につながっていく。
	×	—	—

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	乗用車販売店（役員）	・5月には、注文再開の車種や新型車の発売も予定されているため、多くの来客数が見込まれる。しかし、中東情勢の影響により今後の生産が懸念され、先行きが見通せない状況である。
	◎	タクシー（統括者）	・引き続きタクシー乗務員採用の推移が高水準であるため、供給量が継続して増加すると予測している。
	○	商店街（代表者）	・5月には近隣にスーパーマーケットが開店するため、来店客の増加が期待できる。
	○	商店街（代表者）	・物価高騰の継続や石油問題はあるものの、収入増加により消費活動が出てきたとみられる。非常に前向きな動きになっているため、世界情勢が良くなれば更に景気は向上していくと予測される。
	○	一般小売店〔青果〕 （店長）	・これから気温が上がり、全ての野菜は県外のものになるため、輸送コストの面から今よりも単価が高くなる。客の食欲が落ちることも考えられ、厳しい経営となっていく。しかし、マンゴーは前年より生産量が多く、注文も前年と比べると105～110%と増加している。そのため、全体ではやや上向くと予想している。
	○	百貨店（リーダー）	・夏の贈答品の時期に入ることや、梅雨から夏にかけての快適な暮らしが求められることから、顧客の商品への関心が高まる。
	○	その他専門店〔コー ヒー豆〕（経営者）	・新規の客が増加傾向である。また、ゴールデンウィークやインバウンドも多くなるため、売上に期待している。
	○	旅行代理店（統括者）	・景気が好転基調のまま世界情勢が落ち着けば、好調に転換するとみられる。
	○	タクシー運転手	・夏前の運賃改定による客単価上昇が見込まれるため、売上増加が期待できる。
	○	通信会社（企画担当）	・引き続き需要は見込まれるものの、市場ニーズの変化や競争の激化もみられ、顧客の投資意欲は比較的高い状況にある。具体的な案件化の多くは今後の動きによるため、2～3か月後についても販売量は現状と大きく変わらない。
	○	美容室（経営者）	・2～3か月先は、初夏に向かい服装や化粧品が変わり新製品も出るため、上向き傾向になっていくと予想したい。しかし、中東情勢の影響により景気回復は遅れるため、早い解決を願っている。
	□	商店街（代表者）	・中東情勢により、石油問題の先行きが全く分からない。この状況が長引くと景気は下降し、解決しても現状は変わらない。
	□	一般小売店〔精肉〕 （店員）	・仕入価格や包装資材などの高騰が続く。
	□	百貨店（企画担当）	・クリアランスセール of 時期になるが、物価高の影響は長引き、価格にシビアになっている客の動向は変わらない。
	□	百貨店（企画担当）	・原油やナフサなどの不足による値上げが影を落としている。一方、市が発行するプレミアム付商品券の販売を控えているため、消費の底上げが期待できる。
	□	百貨店（営業企画担 当）	・消費マインドが上がる要因がない。
	□	スーパー（店員）	・消費者の生活は依然として苦しく、消費税の減税に期待している。
	□	スーパー（総務担当）	・石油をめぐる世界情勢がすぐに良くなるとは考えにくく、消費税の議論次第では更なる円安による物価への悪影響が懸念され、景気が上向き要素は少ないのではと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	スーパー（企画担当）	・包装資材の高騰が話題になっており、一般食品以外に生鮮食品や総菜の値上げが想定されると、今後の見通しは変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	・小売店舗への節約志向は続く。
	□	衣料品専門店	・現時点では世界情勢が好転する要因がない。
	□	衣料品専門店（店員）	・このまま物価高が続くようであれば、ますます売上は下降傾向になる。
	□	衣料品専門店（取締役）	・消費者は物の値上げに少しずつ慣れてくるとみられるが、暑くなるとエネルギーに関する問題が価格に反映されると予想され、先行きは見通せず厳しい状況になると危惧している。
	□	家電量販店（店長）	・中東情勢の安定化や物価高の抑制などがなく、良くなる要素がない。
	□	家電量販店（店長）	・エアコンの基準改定への反響が想像以上に大きく売上が伸びている。来客数が増え、エアコン以外の商品も売れている。しばらくこの流れが続くと予想される。
	□	乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような要因が見当たらない。
	□	住関連専門店（従業員）	・景気動向に合わせて今夏は低単価の商材を中心に商品化計画や販売戦略を構築せざるを得ない。そのため薄利になるため、仮に来客数が多くても好景気とはいえない結果となる。
	□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・状況が変化する要素がなく、物価対策と実質賃金の物価上昇分のカバーを期待していたが、中東情勢の影響により消費マインドが高まる要因が少ない。
	□	観光型ホテル（専務）	・社会情勢の影響は全く想像が付かないため、今後の先行きは不透明である。
	□	観光型ホテル（支配人）	・物価高騰や社会情勢等により、4月と同じ状況がしばらく続く。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・現在の稼働状況は、特需日も多くないことから、今月同様の状況を想定している。
	□	旅行代理店（職員）	・梅雨の時期では販売の伸びが見込めず、現在と変化はない。
	□	旅行代理店（統括者）	・今後の動向が不透明である。
	□	タクシー運転手	・雨天の週末でも自家用車が多くなり、昼夜タクシー需要が少なく、今後の需要も変わらない。
	□	通信会社（社員）	・現在、順調に推移しており、このまま継続できると予想している。
	□	通信会社（企画担当）	・需要が増減する要因が見当たらない。
	□	競馬場（職員）	・引き続き安定した推移が続く。
	□	美容室（店長）	・客には年金生活者が多いため、生活用品の値上げを気にしている。
	□	設計事務所（所長）	・良くも悪くもない現状が3か月後の結果に反映されるため、先行きは変わらないと見込んでいる。
	▲	商店街（代表者）	・中東情勢の影響により、石油供給ができない状況が今後も続けば、業界は大変な状況になっていく。株価は、米国の影響を受けて下がっていないが、今後の状況によっては大きく落ち込むことも考えられる。
	▲	商店街（代表者）	・物価の上昇は避けられず、値上がりした商品価格に慣れるまで消費は活発にならない。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・中東情勢により原油価格の高騰や今後も値上げが続くため、売上が減少して厳しい状況が続く。
	▲	百貨店（企画担当）	・現状ではイラン情勢に伴う影響は出ていないが、今後様々なコストに反映される可能性に危機感を持っている。
	▲	百貨店（経理担当）	・物価高の影響による節約志向は今後も続くと考えられ、衣料品等の売上が余り期待できない。インバウンド需要においても減少傾向が続いている。
	▲	百貨店（営業担当）	・来店頻度が減少し、買上点数も減少している。
	▲	百貨店（業務担当）	・ナフサ関連の商品の販売休止や値上げの発表をしているものもある。ガソリン価格の制限や燃料の制限を始めている国もある。我が国では備蓄があるものの、その期間が過ぎたときのことを不安に感じている人が多い。消費を左右するのは、一時的な状況ではなく長期的な状況であるため、その不安は払拭されていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（経営企画担当）	・1～3月の食品の売上は前年を上回っていたが、4月に入って前年比97%となり落ち込んでいる。相次ぐ値上げや物価高騰で生活必需品の食品でも買い控え傾向になり、これまで以上に厳しい状況を推測している。
	▲	スーパー（店長）	・中東情勢の不安定化で原油価格や物流コスト増加が続く可能性があり、物価高が更に進むことが考えられる。生活必需品の値上がりが続けば消費者の節約志向が強まり、来客数や売上の回復は期待しにくい。こうした状況が当面続くと考えられ、今後2～3か月の景気はやや悪化する。
	▲	スーパー（店長）	・物価高は続き、更に中東情勢が不透明のため一層の値上げが懸念され、今以上に消費が冷え込む可能性がある。そのため、景気はより後退する可能性が高い。
	▲	スーパー（従業員）	・中東情勢やエネルギー問題、食料品の値上げで、厳しい状況が続く。
	▲	コンビニ（経営者）	・現状では営業成果の指標となる数値に大きな変化はみられないが、中東情勢の緊張が長引けば、原油価格の高騰は避けられず、徐々に景気に影響が出てくる。
	▲	コンビニ（経営者）	・店舗前面の公共工事が、当初の工程日程より大幅にずれ込んでいるため、来客数が大幅に減少している。そのため、売上が激減しており、今後の経営が厳しい状況である。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・物価高への先行きが不透明である。
	▲	コンビニ（店長）	・イラン情勢が、収束する気配がない。
	▲	コンビニ（エリア担当・店長）	・おにぎりや弁当、総菜など主力商品の単価が上がっているため、販売量は減っている。特に午前中のピークは顕著で、来客数の伸び悩みが販売量の減少につながっている。
	▲	家電量販店（店員）	・現時点で、復調の兆しがみえず、更に懸念材料が解消される見通しが立たないため、景気が良くなる可能性は厳しい。
	▲	家電量販店（従業員）	・新生活で3～4月上旬に家電を購入した人が多い。また、ゴールデンウィーク前のため、買い控えが増えている。
	▲	乗用車販売店（役員）	・中東情勢の影響が徐々に現れており、今後の自動車生産やメンテナンス入庫の際の油脂や部品の調達に懸念される。
	▲	住関連専門店（経営者）	・株価の上昇や新卒者の初任給の大幅な上昇などはあるが、地方の同業者は中東情勢の影響が収束していないため、不況が長引き、先行きは不透明となっている。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・シール需要が夏頃には下降に入ると予想しているテナントが多く、ショッピングセンターに与える影響も小さくない。依然として物価高に周囲の賃金が追いついていないという声もあり、トレンドアイテムに恵まれたり、映画のヒット作が生まれにくい限り、平常運転ではやや厳しい商況になる。
	▲	通信会社（役員）	・引き続きイラン情勢が不透明なことや物価高の継続などで、地域経済の好転に結び付く要因が見いだしづらい。
	▲	通信会社（営業担当）	・2～3か月でイラン情勢が落ち着くことはないと思われる。
	▲	テーマパーク職員	・国内客の微減はインパウンドの増加で打ち消されているが、石油価格の高騰による生活費の増加で家計が悪化している。そのため、レジャー支出を控えることが想定される。運営上、空調や水槽の冷却に必要な灯油の入荷に制約がある可能性があり、営業時間短縮等の対策を考えている。
	▲	観光名所（職員）	・燃料費や石油製品の問題で先行きが不安である。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・原油価格の不安定な状況により、資材価格だけでなく入場者にも影響が広がりそうである。
	▲	ゴルフ場（営業）	・今年の夏の暑さを考え、検討している客が多い。
	▲	理容室（経営者）	・これから暑くなるため、高齢客が多い当店では今月は来店客が多かったが、今後は徐々に減少すると予測している。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・中東情勢の影響により、原油やナフサ不足が懸念され、投機目的や買占めなどで受注の不安があり危機感を持っている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・今後も価格転嫁が可能な他業界では大幅な賃上げが継続される。また、労働生産人口の減少に伴い介護業界を目指す人材も大幅に減少することが想定されるため、ある程度の機会損失は避けられず、損益悪化につながると推測している。
	▲	設計事務所（代表）	・イラン情勢次第と考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	住宅販売会社（従業員）	・金利上昇やナフサ不足による住宅設備への影響が未知数であることから、顧客が中古物件へ流れるなどの影響が出てくると予想される。
	×	商店街（代表者）	・飲食関係では商品の3分の1が値上がりしている。利益率が非常に悪くなっているため、2度目の値上げが難しい状況である。
	×	商店街（代表者）	・中東情勢の不透明化が続く間は今以上に景気が悪くなる。
	×	商店街（代表者）	・例年の統計では、ゴールデンウィーク後に来客数が一気に下降している。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・生花をメインに取り扱っているが、母の日が終わるとお盆まで花を消費に使う大きなイベントがない。加えて、気温が高くなり厳しい状況になると予想している。
	×	スーパー（経理担当）	・中東情勢がこのまま続くと景気は悪化すると予測している。小売業においては、石油由来の製品の値上げの要請が続々と入っており、コスト後押し型のインフレにつながるおそれがある。
	×	衣料品専門店（店長）	・回復しかけた景気が、中東情勢の影響により見通しが立たない状況になっているため、今後も消費者の節約志向は続く。
	×	家電量販店（従業員）	・中東情勢が長引き、影響が出る製品が増える可能性がある。
	×	高級レストラン（経営者）	・今月の商況は底の状態、この先の予約も芳しくないため、景気動向は悪くなる一方である。
	×	一般レストラン（スタッフ）	・中東情勢の影響もあり物価高に歯止めがきかない。市が発行したプレミアム付商品券による景気への刺激は余り感じない。
	×	スナック（経営者）	・中東情勢の回復に目途が立たず、エネルギー費の高騰などによる物価の上昇が見込まれ、外食費や遊興費が削られることが予想される。燃料不足による航空運賃も値上げされ、インバウンドは当面の間は減少する。
	×	設計事務所（所長）	・イラン情勢の影響が続けば、ますます厳しくなる。短期で収束しても、元の水準まで戻るには時間が掛かると考えられる。国際情勢が不透明であるため影響は長く残ると推察している。物価が優先され、仕事の対価としての人件費へ回されなくなる可能性が大きく懸念される。
	×	住宅販売会社（従業員）	・中東情勢の影響で原油価格が高騰し、化学産業に影響が出ているため、景気は悪くなっていく。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・イラン情勢を見据えた動きが出てくる。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの情報によると景気はやや良くなっていく。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・石油関連商品は来月くらいには落ち着くのではないかという見解が多い。今後の増産の話も出ている。
	○	金融業（経営者）	・そろそろ下げ止まりではないかと考察しており、新しいサービスを始めたため効果が期待できる。
	□	農林水産業（経営者）	・5月の需要はゴールデンウィークもあり期待が大きい、6月は梅雨に入り需要は少ないと予想される。7月には梅雨明けし、ビール消費に合わせた商品の引き合いが強くなる。原料については、鳥インフルエンザの影響が少なく心配していない。今後は中東情勢の状況次第で、資材価格の高騰などで経営を圧迫することが懸念される。
	□	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・例年4～6月は売上が多くなるが、新規受注は動きが遅いため景気は変わらない。
	□	化学工業（総務担当）	・今のところ販売に関する好材料がなく、前年比では大きく増益する状況ではない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・入荷が不確実である石油製品の確保が厳しい状態は続くとして予想される。今年度も前年並みの受注量で動くのか、当面の間は状況を把握しながら動いていくことになる。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・単価の高い受注先の開拓をして業務改善をしたい。また、原油不足による景気後退が経営不振を招く恐れがあり不安である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	輸送用機械器具製造業 (営業担当)	・予算計画台数は横ばいで、現時点での中東情勢では直接減産などの影響はない。石油関連の資材調達に影響は出ているものの、代替対応をしているため問題はない状況である。
	□	輸送業 (従業員)	・イラン情勢が落ち着いてもすぐに従来の状況に戻ることはなく、様々な面で悪化していると予想される。
	□	通信業 (経理担当)	・官民間問わず、DX投資の意欲は継続している様子が見受けられる。
	□	金融業 (調査担当)	・中東情勢の影響で景気の先行きに不透明感が強まっており、当面は現状程度での推移が続くと予想している。
	□	経営コンサルタント (社員)	・インバウンドが増えれば売上は増えるが、今はインバウンドが増加していない。
	□	経営コンサルタント (代表取締役)	・自社Webや資料請求サイトからの問合せ件数に変化がない。
	□	経営コンサルタント (社員)	・新しいダイレクトメールで効果がどれほど出るかわからない。また、ゴールデンウィークで業務ができない日が続くため、今後の動きは横ばいが続く。
	▲	金属製品製造業 (事業 統括)	・原油価格の高騰により仕入価格が高騰し、入手困難になるのではと心配している。
	▲	電気機械器具製造業 (経営者)	・今後は中東情勢の影響により受注減少も考えられる。
	▲	輸送業 (従業員)	・中東情勢で先が見えないため、生産調整等も始まり、景気が良くなるとは考えられない。
	▲	通信業 (職員)	・今年度の受注目標と比較すると、営業情報が大きく不足している。今後の営業活動や情報収集で充当する必要はあるが、現時点で見込みが立っていない。
	▲	金融業 (営業)	・中東情勢による影響は、様々な分野で顕在化してきて、物価高、品不足による生産の制限などで景気の大きなマイナス要因となる。さらに、長期化するとますます悪化する可能性が考えられる。
	▲	金融業 (営業担当)	・中東情勢の回復に見通しが立たない状況で、取引先はあらゆる面のコスト増加に備えている。そのため、車の塗装に係る塗料は5月から70%の値上げが予定され、当面の間は、景気は悪くなる。
	▲	金融業 (調査担当)	・中東情勢により、自動車の出荷及び生産の抑制が見込まれるため、自動車関連産業において業績の悪化が見込まれる。
	▲	不動産業 (経営者)	・多種多様な企業に中東情勢の問題を聞くと、この先の経済情勢は悪くなると予想される。
	▲	新聞社 [広告] (担当 者)	・高騰する燃料価格と供給不安によって経済状況は悪化すると予測している。
	▲	広告代理店 (従業員)	・世界的に情勢が不透明になっているため、景気に悪影響が続いている。原油の派生商品の供給懸念により物価の上昇は数か月続くと予測される。3か月後もこの状況であれば、経済はやや悪い状態が続く。
	▲	その他サービス業 [コ ンサルタント] (代表 取締役)	・プロポーザルが多いため、入札で業者が選ばれる場合は、入札参加業者が価格競争になる。今月実施された福祉の計画策定業務の入札では、予算の半額で落札業者が決まるケースがあった。利益が少なくなるため、価格競争では受注できる機会が少なくなり、景気が悪くなることが予想される。
	×	食料品製造業 (経営 者)	・石油関連資材の値上げは続くと予想され、仮に価格転嫁した場合は販売量に影響が出るとみられる。
	×	繊維工業 (営業担当)	・当社は70人雇用しているが、続けていくのが非常に困難になっている。
×	家具製造業 (従業員)	・中東情勢の影響により材料等の供給が全く安定せず、今後は案件に多大な影響をもたらすと予想している。	
×	輸送業 (総務担当)	・中東情勢の影響により、物流こん包資材であるストレッチフィルムが入手困難となっており、それが確保できなければ、物流が止まってしまうため、景気にも悪影響を与える。	
雇用 関連	◎	—	—
(九州)	○	人材派遣会社 (社員)	・4月から求人媒体や予算配分の見直しを行った結果、求人数や求職者登録増加につながったことが考えられ、引き続き様子を見ることにしている。また、お中元に向けた求人も、例年どおり受注できている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	人材派遣会社（社員）	・会社としては自治体への補助金、助成金業務などの案件情報へアプローチしていく傾向が強い。受託ができれば派遣業界の弾みは出てくる。今後は業界を絞り込む必要は出てくるが、製造や物流などは夏に向けての求人動きに期待したい。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・依然として物価の高止まり感があることや、景気が上向く好材料を見付けられないことから、横ばいが続くと考えられる。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・世界情勢の先行きは不透明であり、今後何らかの解決があっても、原油や各種製品への反映は遅れてくるため、景気はしばらく抑制方向に動くと思われる。
	□	職業安定所（職員）	・現時点で企業の採用意欲に変更はないが、中東情勢に伴い、原料価格が高騰し、原材料が入手困難となるため、休業せざるを得ないととの相談も散見されている。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・資源国の情勢の不安定化が続き、エネルギーや原材料価格の上振れ懸念が残る。企業や家計では慎重な姿勢が強く、今後2～3か月先で景気が好転する状況には遠い。
	▲	人材派遣会社（社員）	・企業側の採用に対する慎重な姿勢は続くと思われ、求人数の増加は期待しにくい状況である。足元では一定の人材ニーズはあるものの、先行きの不透明感の高まりやコスト増加の影響から、人員計画を見直す動きも一部で見受けられる。
	▲	人材派遣会社（社員）	・中東情勢の影響を受ける企業や流通の停滞で、人員計画が消極的になる可能性が高い。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中小企業は社会保険料や消費税の負担が重く、新規採用に踏み切れない状況で、広告費も抑制傾向にある。さらに、中東情勢の不安定化による原油価格上昇が懸念され、輸送費や光熱費の負担増が見込まれ、コスト増加は中小企業ほど影響が大きく、採用計画や広告出稿をより一層控える可能性がある。今後も企業の慎重な姿勢が続き、景況感はやや悪化する。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響で、燃料や原材料費がより一層高騰することが見込まれ、ダブルワーク希望者や年金受給者の求職者数増加が想定される。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢による物価や原材料費の高騰、及び人件費の上昇が、中小企業の収益に影響すると考えている。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・中東情勢の影響により製造業界に影響がでると考えられる。AIの台頭で人員補充を行わない企業が増えている。
	×	—	—

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (沖縄)	◎	家電量販店（営業担当）	・現在実施されているおきなわ省エネ家電購入応援キャンペーンと同様のキャンペーンが2024年に実施されたが、その際も対象商品の売上伸長効果が数か月間みられた。
	○	一般小売店〔土産〕（営業部長）	・商品価格を改定しても、観光客の購買意欲に変化はないとみている。
	○	百貨店（経営担当）	・ゴールデンウィークでの地元客や国内観光客による来客数の増加を見込んでいる。
	○	コンビニ（店長）	・観光シーズンで人流に期待ができる反面、物価高や低賃金のままで来客数や客単価が前年を上回るか懸念している。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	・首里城復興を背景に夏頃から盛り上がり、観光客も例年以上になるとみている。
	○	その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・梅雨時期は、来客数及び販売量が落ち着く傾向にあるものの、7月の繁忙期にはいずれも増加する。変動が激しい時期だが、最終的に良くなるとみている。ただし、中東情勢を背景としたナフサ不足等の影響は、常に不安材料となっている。
	○	通信会社（サービス担当）	・足元で大きな変化はないものの、今後の販売促進施策の効果が期待できるため、3か月先の景気は緩やかに改善していくと見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	観光名所（職員）	・新規展示物の導入により入園者数が増加すると見込んでいる。
	□	商店街（代表者）	・飲食店は増加しているものの、小売店は徐々に減少しているため、全体の景気判断はどちらももていない状況が続いている。
	□	スーパー（企画担当）	・夏に向けて観光需要の盛り上がり期待される一方、中東情勢を背景とした原油価格高騰や、電気料金の補助終了に伴うコスト増加が懸念される。行事関連の消費は底堅いとみているが、エネルギー価格の上昇分が利益や家計を圧迫するため、景況感は現状の水準で推移するとみている。
	□	コンビニ（店長）	・物価高や原油価格の高騰など先行きの見えない不安から、消費行動の活性は引き続き期待できないとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・大型連休の需要に期待しており、景気は様子見の状況とみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・先行きの景気は今後の世界情勢によるとみている。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・中東情勢の影響により、客の購買行動に変化が出ないか心配である。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・世界情勢を見る限り、好転する材料は今のところ見当たらない。車の生産にも影響が出ないか心配している。
	□	その他専門店 [陶器]（製造）	・沖縄県は海外からの渡航者が多いため、景気が極端に悪くなることはないかとみている。
	□	通信会社（営業担当）	・中東情勢など不確定要素が多く予測ができない。夏に向けてエネルギー需要が高まるが、電気代などが高くなると消費も落ち込むとみている。
	□	観光名所（職員）	・近隣ホテルの宿泊予約状況などを踏まえると、大きな変化はないとみている。
	□	住宅販売会社（営業担当）	・金利の先高感はあるものの、不動産取得についての問合せが継続している。
	□	住宅販売会社（役員）	・金利動向や価格高騰への警戒感から、顧客の慎重姿勢は今後も続く見通しである。一方で県内経済の底堅さから需要が急減する懸念も低く、大きな変動要因は見当たらない。今後も現状の来客数や取引水準が続くとみている。
	▲	コンビニ（経営企画担当）	・原油価格高騰の影響により、様々な分野で価格が見直されているため、値上げや経費増加が今後も起こるとみている。
	▲	一般レストラン（代表者）	・梅雨入りすると、来客数が減少するとみている。
	▲	観光型ホテル（専務取締役）	・現状だと宿泊の稼働状況は順調であるが、今後物価高騰や航空運賃の上昇などが続くと、国民の旅行手控えが顕著となり、来客者数の減少に繋がる可能性があるかとみている。
	▲	観光型ホテル（企画担当）	・4月の販売室数は前年比26%増加している一方、7月の予約室数（4月末時点）は前年比15%増加にとどまっており、プラス幅は縮小している。
	▲	観光型ホテル（総支配人）	・夏休みの予約状況が芳しくない。国内線の燃油サーチャージ開始などで外出控えムードが広がることを懸念している。
	▲	旅行代理店（マネージャー）	・賃金など固定費の増加後に、経済が落ち込むようなことばかりで先行きの見通しが非常に困難である。
	▲	その他サービス [レンタカー]（営業）	・先行きの受注は、前年割れの状況が続いている。特に個人利用が弱く、前年の大型施設開業が影響しているとみている。
	×	一般小売店 [酒]（店長）	・原油価格高騰の対策がされない限り、あらゆる面で生活に関わってくるとみている。
	×	スーパー（店舗管理）	・中東情勢の影響により包材関連が軒並み値上がりしており、1.2～1.5倍程度の価格上昇となっている。また、値上げにより入手困難なものもあり、余計な在庫を抱えることもある。電気・ガスの値上げや商品仕入価格が高騰する一方で顧客は節約志向に走っているため、明るい材料がないとみている。
	×	その他飲食店 [バー]（経営者）	・身の回りの物価が軒並み高騰しており、景気が良くなる要素が見当たらない。
企業動向	◎	輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉の成果だとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (沖縄)	○	食料品製造業（役員）	・引き続き円安の影響などで沖縄観光は好調に拡大することが見込まれる。また、賃金上昇の後押しもあり、今後は一般消費の増加にも期待している。
	○	建設業（経営者）	・中東情勢が落ち着くことで、景気はやや良くなるとみている。
	□	通信業（総務）	・物価高の影響が継続しているため、先行き判断は慎重にならざるを得ないとみている。
	□	広告代理店（営業担当）	・原材料や人件費の高騰が続いているため、県内企業の販売促進費用が増加する見通しが立たない。
	□	会計事務所（所長）	・原油価格の高騰や物価高の影響が不透明だとみている。
	▲	建設業（経営者）	・中東情勢の影響で資材不足が起きている。また、資材価格高騰により、見積額上昇の影響も発生しているため、早期の解決に期待したい。
	▲	輸送業（経営企画室）	・中東情勢の影響によって、更なるコスト増加などが引き起こされることを懸念している。
	×	窯業土石業（取締役）	・中東情勢の影響による原材料価格の高騰及び供給停止・受注制限が製造に大きく影響し、受注工事も延期及び中止が懸念される。
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	・2～3か月後は2028年卒業者向けの就職活動イベントが始まる時期である。それに伴い、インターンシップや早期説明会の案内が増えるとみている。
	□	求人情報誌製作会社（審査）	・2～3か月後は観光需要の増加により、求人数の増加が見込まれる。一方で、石油関連を始めとした物価高の影響により、採用意欲の低下を懸念している。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・社会情勢への不安が取り除けないため、景気に変化はないとみている。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	・人手不足や物価上昇など、景気が良くなる見込みがない。
	×	—	—